

oeregrine

AssetCenter SMR

ポータルフォリオ



© copyright 2008 Peregrine Systems, Inc.  
All rights reserved.

本書に記載されている情報は、Peregrine Systems, Inc.が所有し、Peregrine Systems, Inc.の書面による許可なく使用または開示することはできません。本書の一部または全部を、Peregrine Systems, Inc.の事前の書面による許可なく無断で複製することを禁じます。本書に記載されている商品名は、該当する各社の商標または登録商標です。

Peregrine Systems®およびAssetCenter®は、Peregrine Systems, Inc.の商標です。

本書で説明されているソフトウェアは、Peregrine Systems, Inc.とエンドユーザ間で締結されるライセンス契約に基づいて提供されます。契約の条項に従って、ソフトウェアを使用する必要があります。Peregrine Systems, Inc.は、本書の内容については一切の責任を負いかねます。また、本書の内容が予告なく変更されることもあります。本書の最終バージョンの日付を確認するには、Peregrine Systems, Inc.のカスタマサポートまでお問合せください。

デモ用データベースと本書の例に使用されている団体名および個人名は架空のものであり、本ソフトウェアの使用方法を説明するためのものです。現在、過去を問わず、実在する団体や個人とのいかなる類似もまったくの偶然によるものです。

本製品に関する技術情報の請求、またはライセンスをお持ちの製品に関するマニュアル類の請求については、Peregrine Systemsのカスタマサポート (support\_peregrine.com) までお寄せください。

本マニュアルに関するご意見やご要望は、Peregrine Systems, Inc.の出版部 (doc\_comments\_peregrine.com) までお寄せください。

本書の内容は、ライセンス契約に基づくプログラムのバージョンSIRに適用されます。

AssetCenter

# 目次

はじめに（ポートフォリオ）	PP
ポートフォリオモジュールの対象ユーザ	PP
ポートフォリオモジュールの使用目的	PQ
本マニュアルの使用方法	PQ
<b>PII 概要（ポートフォリオ）</b>	<b>PT</b>
Rつの管理タイプ	PT
ポートフォリオ管理の主要テーブル	PV
オーバーフローテーブル	P9
ポートフォリオ品目のコンテキスト情報とトラッキング情報	QQ
属性：作成と動作オプション	QR
モデル：ポートフォリオの構成	QT
<b>QII ポートフォリオ品目</b>	<b>Q7</b>
属性	QV
モデル	RO
資産	RS
ロット	RW
トラッキングしないロット	SR
資産に関する財務情報のトラッキング	ST
ポートフォリオ品目の移動	TO



メニューとタブページ (ポートフォリオ)	M M M M M M M M M M	PUR
ツールバーのアイコン (ポートフォリオ)	M M M M M M M M M M	PUW
インタフェースのオプション (ポートフォリオ)	M M M M M M M M M M	PUW
テーブル (ポートフォリオ)	M M M M M M M M M M M M M M M M	PU9
テーブル間の依存関係 (ポートフォリオ)	M M M M M M M M M M	PVQ
リストデータ (ポートフォリオ)	M M M M M M M M M M M M M M M M	PVT
特殊フィールド (ポートフォリオ)	M M M M M M M M M M M M M M M M	PVU
カウンタ (ポートフォリオ)	M M M M M M M M M M M M M M M M	PVV
アクションとウィザード (ポートフォリオ)	M M M M M M M M M M M M M M M M	PVW
Assetbenter rerverモジュール (ポートフォリオ)	M M M M M M M M M M	PV9
<b>システムデータと専門分野データ (ポートフォリオ)</b>	M M M M M M M M	PWO
レポートと書式 (ポートフォリオ)	M M M M M M M M M M M M M M M M	PWP
自動プロセス (ポートフォリオ)	M M M M M M M M M M M M M M M M	PWP
Aoh (ポートフォリオ)	M M M M M M M M M M M M M M M M M M	PWQ
ビュー (ポートフォリオ)	M M M M M M M M M M M M M M M M M M	PWQ
その他のマニュアル (ポートフォリオ)	M M M M M M M M M M M M M M M M	PWQ
<b>インデックス</b>	M M	P8T



# 図の一覧表

P1P1	ポートフォリオ - データモデル	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	PW
P12	オーバーフローテーブル - データモデル	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	2P
S1P1	ソフトウェア - 物理データモデル	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	WT
S12	ソフトウェア - カウンタにリンクされたテーブル	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	9P
S1R1	ソフトウェア - 特定資格に関連するテーブル	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	92
S1S1	ソフトウェア - カウンタ、資格、ポートフォリオ品目の間のリンク	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	9R
U1P1	作業指示のライフサイクル	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	PSP





# 表の一覧表

21P1	属性の例	29
S1P1	ソフトウェア - テーブル	WR
S1I2	ソフトウェア - カウンタ: カウントに使用できるフィールド	9V
S1R1	ソフトウェア - カウンタ: 使用 / インストールの識別に使用できる フィールド	9V
S1S1	ソフトウェア - カウンタ: ライセンス / 資格の識別に使用できる フィールド	9W
U1P1	作業指示時のステータス	PS2
91P1	メニューとタブページ (ポートフォリオ) - 一覧	PUR
91I2	テーブル (ポートフォリオ) - 一覧	PU9
91R1	テーブル間の依存関係 (ポートフォリオ) - 表	PVR
91S1	リストデータ (ポートフォリオ) - 一覧	PVT
91T1	特殊フィールド (ポートフォリオ) - 一覧	PVV
91U1	カウンタ (ポートフォリオ) - 一覧	PVV
91V1	アクションとウィザード (ポートフォリオ) - 一覧	PVW
91W1	AssetCenter rerverモジュール (ポートフォリオ) - 一覧	PW0
91I9	その他のマニュアル (ポートフォリオ) - 一覧	PW2



# はじめに（ポートフォリオ）

## ポートフォリオモジュールの対象ユーザ

ポートフォリオモジュールは、企業のあらゆる役職に関与します。  
特に、以下のユーザがポートフォリオモジュールを利用します。

- ポートフォリオ管理者
- 在庫管理者
- Assetbenterの導入を担当する技術者
- 財務管理の責任者
- 購買の責任者
- セキュリティ担当者
- 総務部
- ケーブル責任者
- ネットワーク責任者
- 電話機器の管理責任者

ポートフォリオモジュールは、Assetbenterのその他のアプリケーションの中核であるため、本マニュアルはAssetbenterのすべてのユーザを対象としています。

# ポートフォリオモジュールの使用目的

ポートフォリオモジュールでは、以下のタスクを実行できます。

- 以下の情報を指定してポートフォリオ品目の詳細情報を記録します。
  - 階層構造
  - 使用者と責任者
  - 設置場所
  - コストセンタ
- 以下の方法で、ポートフォリオ品目を正確にトラッキングします。
  - 個別管理
  - 一括管理
  - 非個別管理

上記のタスクを実行することにより、以下のことが可能になります。

- ポートフォリオ品目のコンテキスト情報を指定する。
- 必要に応じて各ポートフォリオ品目をトラッキングする。
- ポートフォリオ品目を適切な管理モードで管理する。
- ポートフォリオ品目に対して作業指示を容易に実行する。
- ポートフォリオ品目の使用を要するプロジェクトを作成する。

## 本マニュアルの使用法

### 「概要（ポートフォリオ）」の章

この章では、Assetbenterで使用できる管理タイプを説明し、ポートフォリオを構成するために使用するテーブルについて解説します。

この章は、Assetbenterの概要を把握するためにご利用ください。

### 「ポートフォリオ品目」の章

この章では、ポートフォリオ品目の管理手順を説明します。

ポートフォリオモジュールの使用に慣れるために便利な章です。

### 「Isポートフォリオ」の章

この章では、ポートフォリオモジュールを使ってコンピュータポートフォリオを使用する方法を説明します。

コンピュータ、標準セット、およびコンピュータ間の接続の管理の仕方を把握できます。

また、コンピュータのリモートコントロールおよび自動スキャンについても説明されています。

## 「ソフトウェア」の章

この章では、ポートフォリオモジュールを使ってソフトウェアを使用する方法を説明します。

この章を読んで、インストール済ソフトウェア、ライセンスおよびソフトウェアカウンタを管理する方法を把握してください。

## 「電話機」の章

この章では、ポートフォリオモジュールを使って電話機を使用する方法を説明します。

この章を読んで、電話機を管理し、電話機のボタンに機能を割り当てる方法を習得してください。

## 「作業指示とプロジェクト」の章

この章では、ポートフォリオ品目に対して行われる作業指示を管理し、ポートフォリオ品目をプロジェクトに関連付ける方法を説明します。

## 「調整項目」の章

この章では、レコードのフィールドを調整する方法を説明します。

調整項目を使用する方法を説明するための、具体的なシナリオ例も記述されています。

## 「用語解説」の章

この章では、ポートフォリオモジュールに専用の主要用語を説明します。

各用語の定義を正確に把握してください。



# P | 概要（ポートフォリオ）

Assetbenterは、企業のポートフォリオを構成する様々な品目の管理を可能にします。ポートフォリオ品目には、有形の品目（コンピュータ、工作機械、消耗品、サプライ品など）や無形の品目（インストール済ソフトウェアなど）があります。

Assetbenterでは、ポートフォリオ品目に関連する情報をそのライフサイクルを通じてトラッキングすることができます。最適な管理タイプを適用することで、高価値なポートフォリオ品目と低価値なポートフォリオ品目を区別しつつ管理することが可能です。

## Rつの管理タイプ

Assetbenterでは、ポートフォリオ品目の価値に応じて以下の管理タイプを選択できます。

- 個別管理（資産別）
- 一括管理（ロット別）
- 非個別管理（トラッキングしないロット別）

上記のRつの管理タイプの相違点は、トラッキングのレベルの違いに起因します。

ポートフォリオ品目が【資産】テーブルに登録されているかどうかに応じて、このポートフォリオ品目がトラッキングされるかどうかが決まります。【資産】テーブルの各レコードは、財務、技術、契約といった多岐にわたる情報を含んでいます。【資産】テーブルに登録されない品目に対しては、「トラッキングしないポートフォリオ品目」という概念を適用します。

Assetbenterでは、ポートフォリオ品目の管理レベルを上げることもできます。例えば、「トラッキングしないロット」を「トラッキングするロット」に変更できます。この結果、トラッキングするロット対応するレコードが【資産】テーブル作成されます。

## 個別管理（資産別）

高価値のポートフォリオ品目は「資産」に当たります。Assetbenterでは、資産は個別にトラッキングされます。例えば、資産「サーバ」には設置場所、責任者、購入価格、減価償却方法といった多岐にわたる情報が含まれています。これらの情報はこのサーバに固有の情報であり、いつでも容易にアクセスできます。理論的に、Assetbenterにおける「資産」は、【ポートフォリオ品目】テーブルのPレコードに対応し、このレコードは【資産】テーブルのPレコードにリンクされています。

## 一括管理（ロット別）

個別に管理する資産ほど高価値ではない品目は、ロット単位でトラッキングできます。ロットの場合、ロットの各要素をトラッキングするのではなく、ロット全体に関するトラッキング情報が資産テーブルに記録されます。ロット単位の管理では、購入価格などのトラッキング情報の重複を避けることができます。理論的に、Assetbenterにおける「ロット」は、【資産】テーブルのPレコードに対応します。ただし、Pつのロットが【ポートフォリオ品目】テーブルの複数のレコードに対応する場合があります。例えば、Pロットを複数のロットに分割し、複数の部署で使用する場合があります。

## 非個別管理（トラッキングしないロット別）

低価値のポートフォリオ品目（消耗品やサプライ品）は、「トラッキングしないロット」として管理されます。例えば、鉛筆やインクカートリッジなどがこれに当たります。トラッキングしないロットの場合、これに対応するレコードは【資産】テーブルに作成されません。大半の場合、トラッキングしないロットはリンクしている品目を經由して、間接的にトラッキングされます。トラッキングしないロットをトラッキングするロットに変更することは常時可能です。



## ポートフォリオ管理の主要テーブル

ポートフォリオ管理の主要テーブルは以下のとおりです。

- **【モデル】**テーブル ( rpk名 : \m l odel ) と **【属性】**テーブル ( rpk名 : \mm\ture )

上記のQつのテーブルはポートフォリオ品目の作成に不可欠なテーブルです。ポートフォリオ品目はモデルを基に作成され、モデルは属性を基に作成されます。【モデル】テーブルを階層構造で構成することにより、ポートフォリオを構成することが可能になります ( ▶ **ポートフォリオ品目** z 参考文献 QV ] )。

- **【ポートフォリオ品目】**テーブル ( rpk名 : \moortfolio )

ポートフォリオ品目はすべてこのテーブルに記録されています。ポートフォリオ品目のリストを表示すると、あるポートフォリオ品目が、在庫中、使用中、または除却済みであるかが分かります。

- **【ポートフォリオ/ポートフォリオ品目】**メニューを選択します。

-  をクリックします。

- **【ポートフォリオ/資産とロット】**メニューを選択して資産とロットの画面を表示し、**【ポートフォリオ】**タブをクリックします。

ポートフォリオ品目の詳細にアクセスするには、以下の方法があります。資産の詳細画面を使うと、ポートフォリオ品目の詳細情報にアクセスできます。

**【ポートフォリオ品目】**テーブルは、ポートフォリオ品目のコンテキスト情報を指定するために以下のテーブルにリンクされています。

- **【部署と従業員】** ( rpk名 : \mdmplcept ) テーブルは、ポートフォリオ品目の使用者および責任者に関する情報を含んでいます。
- **【場所】** ( rpk名 : \mkoc\tion ) テーブルは、ポートフォリオ品目の設置場所に関する情報を含んでいます。
- **【コストセンタ】** ( rpk名 : \mbostbenter ) テーブルは、ポートフォリオ品目にリンクされている経費明細に関する情報を含んでいます。

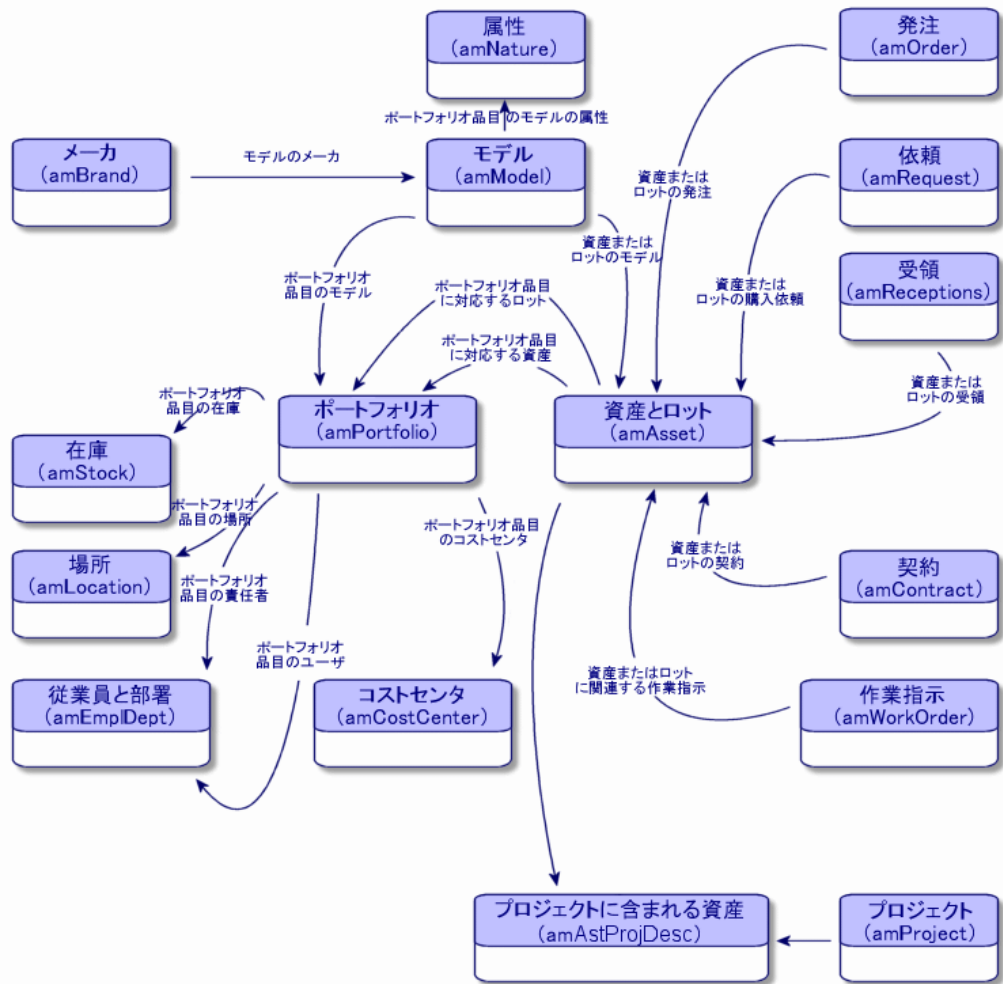
- **【資産】**テーブル

ポートフォリオ品目が**【資産】**テーブルで参照されると、財務、技術、契約といった多岐にわたる関連詳細情報をトラッキングできます。これらの詳細情報は、資産テーブルにリンクしている複数のテーブルに記録されています。リンクするテーブルの例は、次のとおりです。

- **【契約】** ( rpk名 : \mbontr\ct ) テーブル
- **【作業指示】** ( rpk名 : \mv nrder ) テーブル
- **【プロジェクトに含まれる資産】** ( rpk名 : \mAstorojesc ) テーブル
- **【購入依頼】** ( rpk名 : \mqequest ) テーブル

- [発注] (rpk名: \monrder) テーブル
- [受領] (rpk名: \mreceiptkine) テーブル

図 P11P11 ポートフォリオ L データモデル



# オーバーフローテーブル

ポートフォリオ品目の中には、特定のフィールドを必要とする品目があります。例えば、コンピュータをトラッキング、管理する場合、多数の情報を保存する必要があります。このような情報を記録するために多数のフィールドをポートフォリオ品目のテーブルに追加すると、以下の不利が生じます。

- Assetbenterのパフォーマンスが低下する。
- これらのフィールドは、大多数のポートフォリオ品目に不要である。

典型的には、専用テーブルを使用することが解決策として考えられます。例えば、コンピュータに対応するポートフォリオ品目はまず【**ポートフォリオ品目**】テーブルに登録され、次に【**コンピュータ**】テーブルに登録されます。ただし、この結果同期プロセスが大変複雑になり、以下の事項を常時確認する必要があります。

- コンピュータが【**ポートフォリオ品目**】テーブルと【**コンピュータ**】テーブルの両方に記録されている。
- コンピュータがポートフォリオから削除された場合、これがコンピュータテーブルにも反映される。
- その他。

この複雑な同期プロセスを避けるために、Assetbenterでは「オーバーフローテーブル」を使用します。ポートフォリオ品目のレコードに対してPつまたは複数のオーバーフローテーブルが指定されると、レコードが【**ポートフォリオ品目**】テーブルとオーバーフローテーブルの両方に同時に作成されます（例：【**資産**】テーブルと【**コンピュータ**】テーブル）。これらのQテーブルのうちのPつでレコードが作成または削除される度に、他のテーブルにも変更が適用されます。

オーバーフローテーブルを使用すると、Assetbenterに他のアプリケーションをより簡単に統合することが可能になります。例えば、Assetbenterでqemote bontrolを統合する場合、コンピュータに対してリモートコントロールを実行するのに必要なすべての情報を保存する必要があります。このような情報は、コンピュータのオーバーフローテーブルに保存されます。

Assetbenterでは必要に応じて新たにオーバーフローテーブルを追加することができます。また、データベースを大幅に変更することなく、物理データモデルを拡張することが可能になります。

詳細については、マニュアル『**管理**』の「**データベースの標準記述ファイル**」の章を参照してください。

## オーバーフローテーブルの概要

ポートフォリオ品目をオーバーフローテーブルに登録するには、このポートフォリオ品目のモデルの属性で、適切なアクションを指定する必要があります（▶属性の作成基準 z倭献 QSJ）。

## 使用可能なオーバーフローテーブル

Assetbenterでは、以下のオーバーフローテーブルが使用可能です。

- **【資産】**（rpk名：\mAsset）テーブル

これはAssetbenterで最も大切なオーバーフローテーブルです。トラッキングしないロットに対応するポートフォリオ品目は、このテーブルに登録されません（▶トラッキングしないロット z倭献 SRJ）。

### 注意:

このテーブルに存在するオーバーフローリンク（oortfoliohtems）は、ロットの作成のためのもので、外部キーを共有します。

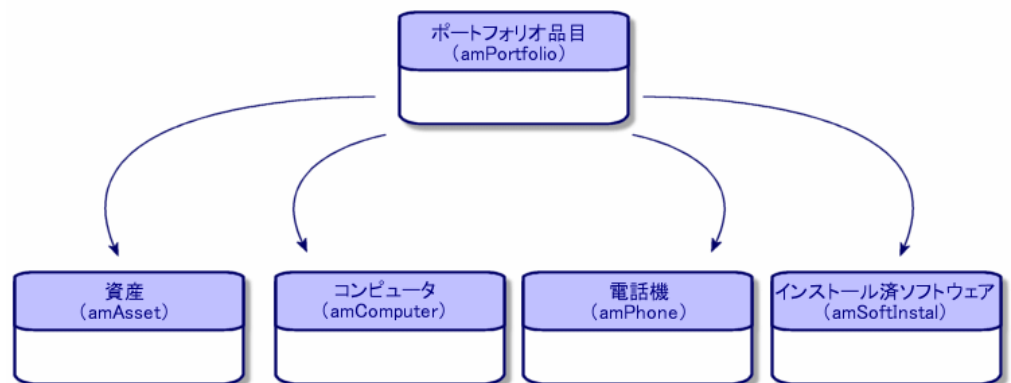
このテーブルは、資産に関する詳細情報を記録します。

- 購入日
  - ステータス
  - 賃貸料
  - 取得方法
  - 固定資産の番号
  - その他
- **【コンピュータ】**（rpk名：ambomputer）テーブル  
このテーブルは、【資産】テーブルのオーバーフローテーブルです。コンピュータを作成すると、【ポートフォリオ品目】テーブル、【資産】テーブルおよび【コンピュータ】テーブルにレコードが作成されます。特に、qemote bontrolとの統合に関する情報を記録することができます。
    - hoアドレス
    - スキャン日付
    - メモリ
    - ディスク容量
    - その他
  - **【電話機】**（rpk名：\mohone）テーブル  
このテーブルは、【資産】テーブルのオーバーフローテーブルです。電話機を作成すると、【ポートフォリオ品目】テーブル、【資産】テーブルおよび【電話機】テーブルにレコードが作成されます。

テレフォニー資産に関する情報を記録します。

- ボイスメール
  - 内線
  - 番号
  - その他
- **[インストール済ソフトウェア]** (rpk名: \mroftnst\l) テーブル  
**[インストール済ソフトウェア]** テーブルは、**[ポートフォリオ品目]** テーブルのオーバーフローテーブルです。インストール済ソフトウェアを作成すると、**[ポートフォリオ品目]** テーブルおよび**[インストール済ソフトウェア]** テーブルにレコードが作成されます。  
 インストール済ソフトウェアテーブルには、インストール済ソフトウェアに固有の以下の情報を保存します。
    - ライセンス番号
    - 許可
    - インストールの種類
    - ソフトウェアをインストールする度に消費されるポイント数 (「Microsoft relect」タイプのライセンスの場合)
    - その他

図 P11Q11 オーバーフローテーブル L データモデル



# ポートフォリオ品目のコンテキスト情報とトラッキング情報

Assetbenterでは、ポートフォリオ品目のコンテキスト情報を指定し、トラッキングすることが可能です。

## コンテキスト情報の指定

ポートフォリオ管理の主要目的の一つは、ポートフォリオ品目にそのコンテキスト情報を関連付けることです。ポートフォリオに含まれる品目数に関係なく、正確に各品目のコンテキスト情報を指定する必要があります。このため、Assetbenterは各ポートフォリオ品目またはロットに関する以下の情報を指定します。

- ポートフォリオにおけるステータス
- 責任者と使用者
- 設置場所
- コストセンタ
- リンクしているその他のポートフォリオ品目（関連資産、消耗品、用品）

ポートフォリオ品目の設置場所を正確に把握すると、次のことが可能になります。

- ポートフォリオ品目の移動を能率的にモニタする（例：複数のコンピュータを別の部署に割り当てる）。
- 各部署のニーズを評価する（例：P部署につき必要なコピー機の台数を計算する）。
- 新たに取得したコンピュータ機器を均等に割り当てる。
- 割当済みのハードウェアの設置場所を即時確認する。
- P人の従業員に同じ資産をQつ割り当てることを避ける（例：複数のノートパソコンを使用するコンサルタント）。
- ポートフォリオ品目にリンクしているコストセンタが再構成された場合、関連情報を適切に変更する。
- その他。

## トラッキング

ポートフォリオ品目のトラッキングは必須です。ポートフォリオ品目が【資産】テーブルに登録されているかどうかにより、トラッキングするかどうかが決まります。Assetbenterでは、ポートフォリオ品目を個別に、またはロット別に管理できます。精密にトラッキングする必要がないと見なされるポー

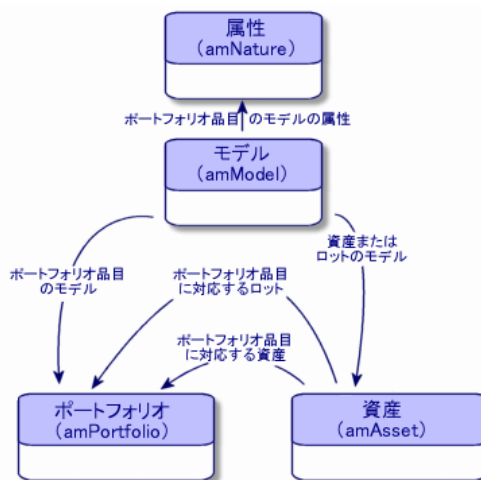
トフォリオ品目（事務用品や消耗品）に対しては、非個別管理（トラッキングしないロット別）を適用します。この場合、コンテキスト情報のみが記録されます。

資産またはロットをトラッキングすると、次のことが可能になります。

- 資産またはロットを固定資産として管理する。
- 調達モジュールを使用する場合、リンクしている購入依頼、見積、発注および受領に関する情報を得る。
- 関連経費を把握する。
- リンクしているプロジェクトや作業指示を把握する。
- 取得方法を確認する（購入、リース、ローン）。

## 属性：作成と動作オプション

ポートフォリオ品目を適切に構成するためには、まずモデルを最適な方法で構成する必要があります。モデルは属性を基にして作成されるため、モデルを作成する前に、属性を作成します。



モデルの属性では、モデルが継承する様々な基準を定義します。モデルを基にして、Assetbenterで管理されるポートフォリオ品目やその他の要素（契約、研修、作業指示、ケーブルなど）を作成します。

属性は、属性にリンクするモデルがどのテーブルにレコードを作成するかを指定します。例えば、属性「コンピュータ」は、[ポートフォリオ品目] テーブルにコンピュータを作成するのに必要なモデルを作成するために使わ

れます。ポートフォリオ品目作成用の属性では、「管理条件」を第Qの基準として指定する必要があります。

また、ポートフォリオ品目のモデル作成用の属性では、動作オプションを選択できます。例えば、属性 [ コンピュータ ] で、動作オプション [ 接続可能 ] を選択すると、接続ポートに関連するタブページが使用可能になります。

## 属性の作成基準

属性の詳細画面で、この属性を基にするモデルがどのテーブルにレコードを作成するかを指定します。例えば、ポートフォリオ品目のモデルを作成するための属性や、契約のモデルを作成するための属性などがあります。

ポートフォリオ品目を作成するための属性に対しては、オーバーフローテーブル（ [ コンピュータ ] テーブル、 [ インストール済ソフトウェア ] テーブル、 [ 電話機 ] テーブルなど）を指定できます。例えば、ある属性はポートフォリオ品目のモデルとコンピュータのモデルの作成に使用されると仮定します。この場合、この属性を基にしてポートフォリオ品目を作成すると、同時に [ コンピュータ ] テーブルにもレコードが作成されます（▶ [コンピュータの属性を作成する](#) z 倭献 UP）。

詳細については、マニュアル『[管理](#)』の「データベースの標準記述ファイル」の章を参照してください。

## 管理条件

管理条件を指定すると、ポートフォリオ品目の管理方法を定義できます。

ポートフォリオ品目の管理条件では、資産タグを使用するかどうかを指定します。資産タグの付いたポートフォリオ品目は、 [ ポートフォリオ品目 ] テーブルと [ 資産 ] テーブルに自動的に記録されます。以下のR種類の管理条件があります。

- 固有資産タグ  
固有資産タグが割り当てられているポートフォリオ品目は、個別にトラッキングされる資産に当たります。常時正確にトラッキングする必要のある高価値のポートフォリオ品目に対して、この制限条件を適用することをお勧めします（例：サーバ、工作機械、コピー機）。
- 固有N共有資産タグ  
同じ資産タグを共有するポートフォリオ品目の集まりは、「トラッキングするロット」と呼ばれ、ロット単位で管理されます。個別にトラッキングする必要のない同一のポートフォリオ品目を管理するために、この管理条件を使用することをお勧めします（例：椅子P00脚のロット、安全ヘルメット）。
- 個別管理しない



ポートフォリオ品目の属性で「個別管理しない」を管理条件として選択すると、資産タグの有無を自由に管理できます。資産タグを持たないポートフォリオ品目は、精密なトラッキングを必要としないポートフォリオ品目です。このようなポートフォリオ品目は、「トラッキングしないロット」と呼ばれ、[資産]テーブルには記録されません。例えば、低価値の事務用品（鉛筆、消しゴム、クリップ）や、消耗品（消耗品のロットは、消耗品を消費するポートフォリオ品目経由でトラッキングされます）などにこの管理条件を適用します。

## 属性における動作オプション

品目の属性でPつまたは複数の動作オプションを選択することにより、それらの品目のテーブルで特定のフィールドおよびタブが使用できるかどうかが変わります。例えば、ポートフォリオ品目の属性で[ライセンス]を選択すると、[モデル]テーブルに[ライセンス]タブが表示されます。Assetbenterでは以下の動作オプションが使用可能です。

- ソフトウェアをインストール
- 接続可能
- 消耗品
- ケーブルデバイス
- ライセンス

## モデル：ポートフォリオの構成

ポートフォリオ品目のモデルを作成すると、このポートフォリオ品目の作成時に継承される様々な情報を指定することができます。例えば、名前、メーカー、コンピュータに特有の技術情報などです。

モデルは階層構造で構成されています。一般的なモデルを使って、具体的なモデルを統括します。各企業のポートフォリオの管理方法を反映した方法で、モデルを作成、分類しなければなりません。



# Q | ポートフォリオ品目

本章では、ポートフォリオモジュールの使用方法を説明します。特にポートフォリオ品目の管理プロセスを解説します。ポートフォリオ管理で使用される主要テーブルは以下のとおりです。


- [属性] (rpk名: \mm\ture) テーブル
- [モデル] (rpk名: \m\odel) テーブル
- [ポートフォリオ品目] (rpk名: \moortfolio) テーブル
- [資産] (rpk名: \mAsset) テーブル
- [コンピュータ] (rpk名: \mbomputer) テーブル
- [インストール済ソフトウェア] (rpk名: \mroftthnst\l) テーブル
- [電話機] (rpk名: \mohone) テーブル

## 属性

ポートフォリオ品目用のモデルを作成するためには、まず属性を定義する必要があります。属性ではポートフォリオ品目の管理条件を定義します。企業で適用するポートフォリオ品目の管理タイプの数と同じ数だけ属性を作成します。例えば、ソフトウェアを「資産」、「ロット」および「トラッキングしないロット」として管理する場合、「ソフトウェア」、「ソフトウェア

（ロット）」、および「ソフトウェア（トラッキングしないロット）」というRつの属性を作成します。

属性のリストを表示するには、以下のRつの方法があります。

-  をクリックします。
- [ポートフォリオ/属性]メニューを選択します。
- 機能とお気に入りのパネルで、[属性のリスト]をクリックします（[ポートフォリオ管理]トピック）。

## ポートフォリオ品目の属性を作成する

ポートフォリオ品目のモデルの属性を作成するには、次の手順に従います。

P 属性のリストを表示します（[ポートフォリオ/属性]メニュー）。

2 [新規作成]をクリックします。

R [名前]フィールドに入力します。

S 必要に応じて、[コード]フィールドの値を変更します。

デフォルトでは、[コード]フィールドには[名前]フィールドの値が入力されます。このフィールドには、レコードを個別に識別するためのコードを入力します。Assetcenterと他のデータベース間でデータをインポート/エクスポートする際に、このコードがレコードの識別キーとして使われます。

T [作成]フィールドで[ポートフォリオ品目]を選択します。

- U 電話機のモデルまたはコンピュータのモデル用の属性を作成する場合は、**[オーバーフローテーブル]**フィールドで**[電話機]**または**[コンピュータ]**を選択します。
- V 管理条件を選択します。
- W 必要に応じて、**[動作]**オプションを選択します。
- 9 **[作成]**をクリックして、作成を確定します。

## 属性の例

ポートフォリオ品目と同じ数だけ属性を作成することをお勧めします。以下の表は、様々な属性の例を示しています。属性の名前は、この属性を基にして作成できるポートフォリオ品目のモデルを示しています。

表 Q11P11 属性の例

名前	オーバーフロー テーブル	管理条件	動作オプション
<b>全般</b>			
資産	なし	固有資産タグ	オプションなし
ロット	なし	資産タグ	オプションなし
トラッキングしないロット	なし	個別管理しない	オプションなし
消耗品	なし	個別管理しない	• 消耗品
原料	なし	資産タグ	オプションなし
hs			
コンピュータ	コンピュータ	固有資産タグ	<ul style="list-style-type: none"> <li>• ソフトウェアをインストール</li> <li>• 接続可能</li> </ul>
コンピュータ (ロット)	なし	資産タグ	オプションなし
インストール済ソフトウェア	インストール済ソフトウェア	固有資産タグ	オプションなし
インストール済ソフトウェア (ロット)	インストール済ソフトウェア	資産タグ	オプションなし
インストール済ソフトウェア (トラッキングしないロット)	インストール済ソフトウェア	個別管理しない	オプションなし

名前	オーバーフロー テーブル	管理条件	動作オプション
ライセンス	なし	固有資産タグ	<ul style="list-style-type: none"> <li>ライセンス</li> </ul>
ライセンス (ロット)	なし	資産タグ	<ul style="list-style-type: none"> <li>ライセンス</li> </ul>
ライセンス (ト ラッキングしない ロット)	なし	個別管理しない	<ul style="list-style-type: none"> <li>ライセンス</li> </ul>
コンピュータの標 準セット	コンピュータ	資産タグ	<ul style="list-style-type: none"> <li>ソフトウェアを インストール</li> <li>接続可能</li> </ul>
<b>その他</b>			
ケーブルデバイス	なし	固有資産タグ	<ul style="list-style-type: none"> <li>ケーブルデバイ ス</li> </ul>
電話機	電話機	固有資産タグ	オプションなし

## モデル

モデルは、ポートフォリオ品目を分類するために使用されます。モデルは、属性を基にして作成されます。必要に応じて、一般的なモデルまたはより具体的なモデルを作成します。

### ソフトウェアのモデルを構成する場合の例

以下の例では、ソフトウェアのモデルを構成する方法を説明します。

- P ソフトウェアの全モデルは、ポートフォリオ品目を作成する属性を基に作成されています。ソフトウェアの管理方法に応じて、管理条件（個別管理、一括管理、非個別管理）を選択します。
- 2 一般的なモデル「ソフトウェア」モデルを作成します。
- R 従属モデルを使って、用途別にソフトウェアを分類します（例：自動化ツール、dqo、プロジェクト管理など）。
- S 従属モデル「自動化ツール」用に、特定のアプリケーションのモデルを作成します（例：ワードプロセッサ、スプレッドシート、cso、ファイル管理など）。
- T モデルの階層構造の終わりに作成されるモデル（例：ソフトウェア/自動化ツール/ワードプロセッサ/ Microsoft Word QOOP）が【ポートフォリオ品目】テーブルでソフトウェアを入力する際に使用されます。

モデルのリストを表示するには、以下のR2の方法があります。

-  をクリックします。
- 【ポートフォリオ/モデル】メニューを選択します。

- 機能とお気に入りのパネルで、**【モデルのリスト】**をクリックします（**【ポートフォリオ管理】**トピック）。

## ポートフォリオ品目のモデルを作成する

モデルを作成するには、次の手順に従います。

- P** **【新規作成】**をクリックします。
- 2** **【全般】**タブページで**【属性】**フィールドに入力します。
- R** **【名前】**フィールドに入力します。
- S** **【親モデル】**フィールドに親モデルを入力します。  
例：**【自動化ツール】**を作成する場合は、**【親モデル】**フィールドに「ソフトウェア」と入力します。
- T** 特定のモデルを作成する場合は、**【メーカー】**フィールドに入力します。  
例：モデル「Word Q00P」を作成する場合は、**【メーカー】**フィールドに「Microsoft」と入力します。
- U** ロットの場合は、使用する単位を選択します。
- V** 作成するモデルを購入依頼で使用できる場合は、**【承認済】**オプションを選択します。必要に応じて、承認日と承認レベルを入力します。
- W** **【作成】**をクリックして、作成を確定します。
- 9** モデルを基にするポートフォリオ品目が継承する情報を、適切なタブページで入力します。

ポートフォリオ品目の作成用にモデルに特に関係のあるタブページは以下のとおりです。

- 全般
- ハードウェア
- インストール済ソフトウェア
- ライセンス
- ポート
- 会計
- カタログ情報
- 互換性
- 調整タイプ
- 任意管理項目

### 全般

このタブページでは以下の情報を入力します。

- ポートフォリオの棚卸に関する情報。

バーコードを使うと、各モデルごとに参照コードを作成できます。データの整合性を確保するためにAssetcenterでは、Qつの異なるモデルに同じコードを割り当てるのが禁止されています。バーコードには接頭コードが付きまます。モデルの性質を反映した接頭コードを使用することをお勧めします。例えば、サーバのモデルに対しては、接頭コードを「rRu」と指定します。[ **梱卸に登録** ] オプションを選択すると、[ **バーコード** ] フィールドが必須フィールドに変わります。

- モデルにデフォルトでリンクされているメーカ品番およびカタログリファレンス。

## ハードウェア

コンピュータのモデルに関連するタブページです。コンピュータのモデルの様々な技術情報を入力するために使用されます ( ▶ **例：コンピュータのモデルを作成する** z修献 UQ ] )。

## ライセンス

このタブはライセンスに関連します。会社で用いられるさまざまなタイプのライセンスを記述するために使用されます。このタブの使用例については、「 **ソフトウェアライセンスを作成する** z修献 WW ] 」の節を参照してください。

## インストール済ソフトウェア

このタブは、インストール済ソフトウェアに関連します。会社で用いられるさまざまなタイプのインストール済ソフトウェアを記述するために使用されます。このタブの使用例については、「 **インストール済ソフトウェアを手動で作成する** z修献 WV ] 」の節を参照してください。

## ポート

コンピュータのモデルに関連するタブページです。作成されるコンピュータのモデルで使用可能なポートに関する情報を指定するために使用されます ( ▶ **コンピュータ間の接続** z修献 UT ] )。

## カタログ情報

このタブページを使用して、モデルをカタログリファレンスに関連付けます。

## 互換性

このタブページでは選択されたモデルと互換性のあるモデルを指定します。調達サイクルで互換モデルを使用すると、選択されたモデルに加えてこのモ



デルと互換性のあるモデルを発注できます。詳しくは、Assetbenterのマニュアル『**カタログ**』を参照してください。

## 会計

このタブページでは、モデルを基にして作成されるポートフォリオ品目の減価償却方法を計算します。ここに入力される情報は、**[資産]**テーブルの**[固定資産]**タブページにも表示されます。

## 調整タイプ

このタブページでは、調整のタイプを作成します。調整の使用の詳細については、「**調整項目**」[修献 PST]」の章を参照してください。

## 任意管理項目

このタブページでは、任意管理項目を追加します。追加できる数に制限はありません。詳しくは、マニュアル『Assetbenterの**高度な使い方**』を参照してください。

また、既に作成済みの任意管理項目を選択して、**[モデル]**テーブルで表示することもできます。

## ロットで使用する単位

ロットのモデルを作成する場合、モデルの単位を指定する必要がある場合があります。例えば、砂のロットのモデル作成する場合、単位「トン」を使用します。

単位を作成するには、ポートフォリオで使用する測定項目（次元）用に、基準単位をあらかじめ作成する必要があります。次元には、**温度**、**寸法**、**質量**などがあります。基準単位が一旦作成されると、他の単位を無限に作成できます。これらの単位に対して、基準単位との変換係数を指定します。例えば、次元「**質量**」の基準単位「**キログラム**」と単位「**トン**」を作成したと仮定します。この場合、「トン」の変換係数はP000です（ $P000\text{kg} = \text{Pt}$ ）。

ポートフォリオ品目のモデルで選択された単位は、**[ポートフォリオ品目]**テーブルと**[資産]**テーブルの**[数量]**フィールドの右横に記号で表示されます。

## 基準単位を作成する

基準単位を作成するには、次の手順に従います。

P **[管理/画面一覧]**メニューを選択して、単位のリスト（rpk名：\mntnit）を表示します。

- 2 **【新規作成】**をクリックします。
- R **【名前】**、**【次元】**、**【記号】**フィールドに入力します（例：キログラム、質量、jg）。
- S **【変換係数】**フィールドに「P」と入力します。
- T **【作成】**をクリックして、作成を確定します。

## 単位を作成する

- 単位を作成するには、次の手順に従います。
- P 単位の詳細を表示します（**【管理/単位】**）。
  - 2 **【新規作成】**をクリックします。
  - R **【名前】**、**【次元】**、**【記号】**フィールドに入力します（例：ポンド、質量、kb）。
- 次元を選択すると、**【変換係数】**フィールドの隣にあるフィールドに、この次元の基準単位の記号が表示されます。
- S 基準単位を作成する単位に変換するための係数を**【変換係数】**フィールドに入力します。例えば、ポンドの場合は「0||STS」と入力します（Pポンド = 0||STSキログラム）。
  - T **【作成】**をクリックして、作成を確定します。

## 単位の表示

使いやすさのために、単位画面をカスタマイズし、仮想的な階層を作成することをお勧めします。

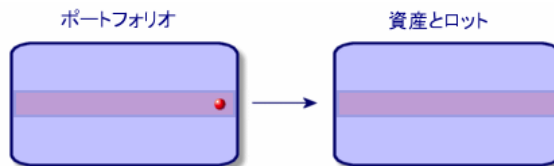
例えば、単位の次元で情報をまとめることができます。

- P 単位の詳細を表示します（**【管理/単位】**）。
  - 2 **【次元】**フィールドを右クリックします。
  - R ショートカットメニューから**【このフィールドでグループ分け】**を選択します。
- リストは次元でソートされ、各次元が階層のレベルを定義します。

## 資産

Assetbenterでは「資産」は固有資産タグの付いたポートフォリオ品目に当たります。つまり資産の属性では、管理条件が「固有資産タグ」に指定されています（▶**管理条件** z 参考文献 QS]）。この管理条件は、「個別管理」に対応しま


す。データベース上では、資産は、[資産]テーブルのレコードと[ポートフォリオ品目]テーブルのレコードで参照されます。



### 注意:

[資産]テーブルのレコードで、[ポートフォリオ]タブをクリックすると、対応するポートフォリオ品目の詳細情報を参照できます。

資産のリストを表示するには、以下のRつの方法があります。

-  をクリックします。
- [ポートフォリオ/資産とロット]メニューを選択します。
- 機能とお気に入りのパネルで、[資産とロットのリスト]をクリックします([ポートフォリオ管理]トピック)。

## 資産を作成する

資産を作成するには、次の手順に従います。

- P 資産のリストを表示します。
- 2 [新規作成]をクリックします。
  - [全般]タブページで新規レコードに資産タグが割り当てられます。
- R [モデル]フィールドでモデルを選択します。
  - 資産のモデルは、管理条件 [固有資産タグ] を指定する属性を基盤にしています (▶管理条件 z 修献 QS)。
  - 選択されたモデルで接頭コードが指定されている場合、この接頭コードが資産タグでも使用されます。
- S [作成]をクリックして、作成を確定します。
- T 必要に応じて、資産に関するトラッキング情報を各タブページで入力します。
  - [全般]、[ポートフォリオ]、[プロジェクト]タブを除く全タブページは以下の分野に関連するトラッキング情報を含んでいます。
    - 財務分野
      - コスト

- 取得方法
- 固定資産

このトラッキング分野に関しては、「[資産に関する財務情報のトラッキング z 倣献 STJ](#)」の節を参照してください。

- hs分野
  - ライセンス
  - 接続
  - ポート

このトラッキング分野に関しては、「[hsポートフォリオ z 倣献 UPJ](#)」と「[ソフトウェア z 倣献 WPJ](#)」の章を参照してください。

- 契約分野
  - 契約
  - メンテナンス
- ケーブル分野
  - スロット
  - ピン/ターミナル
  - トレース
  - ポート

▶ [資産を契約に関連付ける z 倣献 TRJ](#)およびマニュアル『[契約](#)』を参照してください。

ケーブル情報のトラッキングに関しては、マニュアル『[ケーブル](#)』を参照してください。

## 資産にポートフォリオ品目を関連付ける

ポートフォリオ品目が資産である場合、これに他のポートフォリオ品目を関連付けることができます。資産に関連付けられるポートフォリオ品目は、次のカテゴリに分類できます。

- 消耗品

消耗品はポートフォリオ品目であり、基になるモデルの属性で【[消耗品](#)】オプションが選択されています。

動作オプションの詳細については、「[属性：作成と動作オプション z 倣献 QRJ](#)」の節を参照してください。

- インストール済ソフトウェア

インストール済ソフトウェアは、ポートフォリオ品目であり、基になるモデルの属性の詳細画面にある【[オーバーフローテーブル](#)】(rpk名: senverflo•sbl)フィールドで【[インストール済ソフトウェア](#)】が選択されています。

- ▶ ソフトウェアライセンス z修献 WWJ
- ライセンス  
ライセンスはポートフォリオ品目であり、基になるモデルの属性で [ライセンス] オプションが選択されています。
- ▶ インストール済ソフトウェア z修献 WUJ

## 資産にポートフォリオ品目を関連付ける

資産にポートフォリオ品目を関連付ける方法には、以下の条件に応じて複数の方法があります。

- データベースにポートフォリオ品目が既に存在する場合
- 関連付ける時にポートフォリオ品目を仮作成する場合
- ポートフォリオ品目が在庫にあるロットで、ロットに含まれている一部のアイテムのみを関連付ける場合


リストの左手にデフォルトで表示されるフィルタオプションを使用すると、資産に関連付けられているポートフォリオ品目に対して属性別に（消耗品、ライセンス、インストール済ソフトウェア）フィルタを適用できます。

【開始】フィールドと【終了】フィールドを使用すると、関連付けを行った日付に応じてフィルタを適用できます。

## 既存のポートフォリオ品目を資産に関連付けるには、次の手順に従います。

- P ポートフォリオ品目のリストを表示します（ [ポートフォリオ/ポートフォリオ品目] メニュー）。
- 2 資産に関連付けるポートフォリオ品目を選択します。
- R 【親レコード】（ rpk名： o\rent ）リンクで関連付け先の資産を選択します。
- S 【変更】をクリックします。

## 仮作成のポートフォリオ品目を資産に関連付けるには、次の手順に従います。

- P 資産のリストを表示します（ [ポートフォリオ/資産とロット] メニュー）。
- 2 ポートフォリオ品目の関連付け先となる資産を選択します。
- R 【ポートフォリオ】タブページの【コンポーネント】サブタブページを選択します。
- S  をクリックします。
- T 資産に関連付けるポートフォリオ品目を作成します。

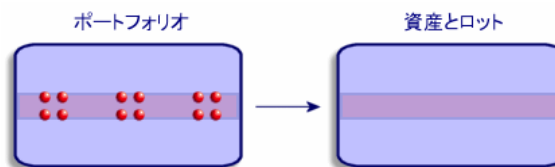
U [追加]をクリックします。

## 在庫にあるロットに含まれている一部のアイテムを資産に関連付けるには、次の手順に従います。

- P ポートフォリオ品目のリストを表示します（[ポートフォリオ/ポートフォリオ品目]メニュー）。
- 2 在庫中のポートフォリオ品目の関連付け先となる資産を選択します。
- R [在庫]ボタンをクリックします。
- S [在庫の品目を追加する]ウィザードが表示されるのを待ちます。
- T [在庫の品目を選択する]画面で、資産に関連付けるロットを選択します。
- U [次へ]をクリックします。
- V [数量]ページで、資産に関連付けるロットのアイテムの数量を選択します。
- 必要に応じて他のフィールドにも入力します。
- W [終了]をクリックします。

## ロット

Assetbenderでは「ロット」は固有資産タグの付いたポートフォリオ品目に当ります。つまり資産の属性では、管理条件が「資産タグ」に指定されています（▶管理条件 z 修献 QS）。この管理条件は、個別（固定資産タグ）ではなく「一括管理」に対応します。ロットとは、同一の品物の集まりです（例：安全ヘルメットP00個のロット）。ロットには、可算のロット（キーボード、セメント袋のロット）と不可算のロット（セメント、砂、灯油）があります。付加算の品目の単位にはキログラム、トン、リットル、メーターなどが使用されます。ロットが作成されると、[資産]テーブルと[ポートフォリオ品目]テーブルの各々にPレコードが作成されます。






注意:

【資産】テーブルのレコードで、【ポートフォリオ】タブをクリックすると、対応するポートフォリオ品目の詳細情報を参照できます。

あるロットを複数のロットに分割した場合、【ポートフォリオ品目】テーブルには複数のレコードが作成されます。ただし、分割されたロットはすべて、【資産】テーブルの単一のレコードにリンクされたまま変わりません(▶ [ロットを分割する](#) z修献 S0])。

資産のリストを表示するには、以下のRつの方法があります。

-  をクリックします。
- 【ポートフォリオ/資産とロット】メニューを選択します。
- 機能とお気に入りのパネルで、【資産とロットのリスト】をクリックします(【ポートフォリオ管理】トピック)。

## ロットを作成する

ロットを作成するには、次の手順に従います。

- P 資産のリストを表示します(【ポートフォリオ/資産とロット】メニュー)。
- 2 【新規作成】をクリックします。  
【全般】タブページで新規レコードに資産タグが割り当てられます。
- R 【モデル】フィールドでモデルを選択します。  
ロットのモデルは、管理条件「**資産タグ**」が指定されている属性を基に作成されています(▶ [管理条件](#) z修献 QS])。  
選択されたモデルで接頭コードが指定されている場合、この接頭コードがロットの資産タグでも使用されます。
- S ロットの数量を指定します。  
ロットを定義するために、ロットで使用する基準単位を選択します(▶ [ロットで使用する単位](#) z修献 RR])。
- T 【作成】をクリックして、作成を確定します。
- U 必要に応じて、ロットに関するトラッキング情報を各タブページに入力します。  
【全般】、【ポートフォリオ】、【プロジェクト】タブを除く全タブページは以下の分野に関連するトラッキング情報を含んでいます。
  - 財務分野
    - コスト
    - 取得方法
    - 固定資産

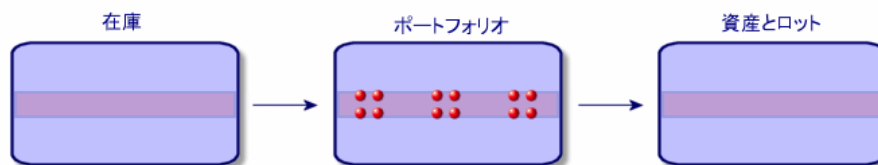
- ▶ 資産に関する財務情報のトラッキング z修献 ST]
- hs分野
  - ライセンス
  - 接続
  - ポート
- ▶ hsポートフォリオ z修献 UP] およびソフトウェア z修献 WP]
- 契約分野
  - 契約
  - メンテナンス
- ▶ 資産を契約に関連付ける z修献 TR] およびマニュアル 『契約』
- ケーブル分野
  - スロット
  - ピン/ターミナル
  - トレース
  - ポート

ケーブル情報のトラッキングに関しては、マニュアル『ケーブル』を参照してください。

## ロットを分割する

ロットを分割すると、元のロットのレコード（[資産]テーブル）から、[ポートフォリオ品目]テーブルに複数のレコードを作成できます。

例：椅子PQ脚のロットを受領し、在庫に入れると、[資産]テーブルにPレコードを作成します。データベース上では、[資産]テーブルと[ポートフォリオ品目]テーブルの各々にPレコードが作成されます。このロットを在庫に入庫します。

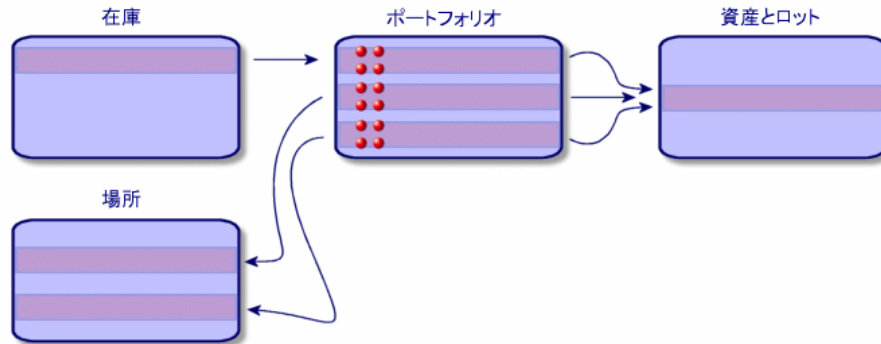


次にこのロットを、椅子S脚を含むRつのロットに分割します。Pつのロット（椅子S脚）を在庫に保管したままにし、残りのQつのロットをQつの場所（Aとa）に割り当てます。この場合、[資産]テーブルにある元のロットのレコードに変更はありません。しかし、[ポートフォリオ品目]テーブルは、



以下のRつのロットに対応するRつのレコードが存在するように変更されま  
す。

- 在庫に残す椅子S脚のロット
- 場所Aに割り当てられた椅子S脚のロット
- 場所aに割り当てられた椅子S脚のロット



## ロットを分割する

次のQとおりの方法でロットを分割できます。

- **[ロットを分割する]**ウィザードを使用する。
- **[資産]**テーブルから**[ポートフォリオ品目]**テーブルに向けて複数のリンクを作成する。

## [ロットを分割する]ウィザードを使用する

**[ロットを分割する]**ウィザードを使用するには、次の手順に従います。

- P ポートフォリオ品目のリストを表示します。
- 2 分割するロットを選択します。
- R **[分割]**をクリックします。

S **【ロットを分割する】**ウィザードの画面が表示されるのを待ちます。



T **【抽出数】**フィールドに新しいロットに含める数量を入力します。

U 新しいロットに関する情報を入力します（場所、ユーザ、責任者など）

V **【終了】**をクリックします。

**【ポートフォリオ品目】**テーブルでは、元のロットの数量が新しいロットの数量分減少しているはずですが、また同テーブルに新しいロットのレコードが作成されています。

## **【資産】**テーブルから**【ポートフォリオ品目】**テーブルに向けて複数のリンクを作成する

**【資産】**テーブルから**【ポートフォリオ品目】**テーブルに向けて複数のリンクを作成するには、次の手順に従います。

P 資産のリストを表示します。

2 ロットのレコードを選択します。

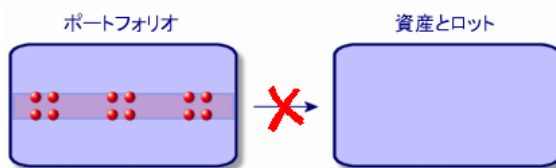
R **【ポートフォリオ】**タブを選択し、**【ポートフォリオ品目】**テーブルに向けてリンクを作成します。

**【資産】**テーブルのレコードが、**【ポートフォリオ品目】**テーブルの複数のリンクに関連付けられるのと同時に、これらのリンクをリスト形式で表示することをお勧めします（**【ポートフォリオ】**タブページ内にマウスカーソルを置いてから、右クリックして**【リスト形式で表示】**メニューを選択します）。


## トラッキングしないロット

「トラッキングしないロット」とは、管理条件が「個別管理しない」に指定されている属性を基にして作成するポートフォリオ品目を指します（▶ [管理条件 z 修献 QS\]](#)）。この管理条件は、「非個別管理」に対応します。

トラッキングしないロットは、**[ポートフォリオ品目]**テーブルのみに記録されます。これにより、トラッキングしないロットの場所、ユーザ、責任者、コストセンタなどのコンテキスト情報が指定されます。トラッキングしないロットは**[資産]**テーブルでは参照されないため、財務情報、技術情報、契約情報は関連付けられていません。低価値のポートフォリオ品目（消耗品やサプライ品）を、トラッキングしないロットとして管理されます。例えば、鉛筆やインクカートリッジなどがこれに当たります。消耗品に関しては、これを消費するポートフォリオ品目を經由して、間接的にトラッキングされます。



ポートフォリオ品目のリストを表示するには、以下のRつの方法があります。

-  をクリックします。
- **[ポートフォリオ/ポートフォリオ品目]**メニューを選択します。
- 機能とお気に入りのパネルで、**[ポートフォリオ品目のリスト]**をクリックします（**[ポートフォリオ管理]**トピック）。

## トラッキングしないロットを作成する

トラッキングしないロットを作成するには、次の手順に従います。

- P ポートフォリオ品目のリストを表示します（**[ポートフォリオ/ポートフォリオ品目]**メニュー）。
- 2 **[新規作成]**をクリックします。  
この新しいレコードにはコードが割り当てられます。
- R **[モデル]**フィールドでモデルを選択します。
- S トラッキングしないロットに含まれる数量を指定します。  
ロットを定義するために、ロットで使用する基準単位を選択します（▶ [ロットで使用する単位 z 修献 RR\]](#)）。

- T **【作成】**をクリックして、作成を確定します。
- U 必要に応じて、ロットに関するコンテキスト情報を各タブページに入力します（▶ポートフォリオ品目のコンテキスト情報を指定するz倭献TOJ）。

## 消耗品

「消耗品」とはかつて資産に関連付けられていたが現在は関連付けが解除されているポートフォリオ品目を指します。「消耗品」は、管理条件が**【個別管理しない】**に指定されている属性を基にして作成されます。また、属性の動作オプションを**【消耗品】**に指定する必要があります（▶管理条件z倭献QS）。

- ▶資産にポートフォリオ品目を関連付ける z倭献RUJ

## トラッキングしないロットを分割する

トラッキングしないロットを分割するには、次の手順に従います。

- P ポートフォリオ品目のリストを表示します。
- 2 分割するロットを選択します。
- R **【分割】**をクリックします。
- S **【ロットを分割する】**ウィザードの画面が表示されるのを待ちます。

- T **【抽出数】**フィールドに新しいロットに含める数量を入力します。
- U 新しいロットに関する情報を入力します（場所、ユーザ、責任者など）
- V **【終了】**をクリックします。

【ポートフォリオ品目】テーブルでは、元のロットの数量が新しいロットの数量分減少しているはずですが、また同】テーブルに新しいロットのレコードが作成されています。

## トラッキングしないロットをトラッキングするロットに変える

いろいろな理由から、トラッキングしないロットをトラッキングするロットに変える必要がある場合があるかもしれません。例えば、複数のプロジェクトに、複数の見本市で使用する機のロットをリンクすると仮定します。この場合、このロットに対応するレコードを【資産】テーブルに作成します。

トラッキングしないロットを変換するには、次の手順に従います。

P ポートフォリオ品目のリストを表示します。

2 トラッキングしないロットを選択します。

R 【タグ】をクリックします。

この結果、ロットに対応するレコードが【資産】テーブルに作成され、これに資産タグが割り当てられます。資産タグは、【資産】テーブルのレコードのみに割り当てられる識別用の情報です。

## 資産に関する財務情報のトラッキング

資産に関する財務情報のトラッキングでは、以下の情報が記録されます。

- 資産の取得方法  
どの方法でメールサーバを取得したか（購入、リースまたはローン）
- 資産に関連する経費  
部署Aのコピー機のためにT0リームのコピー用紙を含むロットを何度注文したか？
- 固定資産の詳細情報  
どの減価償却方法を社用車に適用するか？

財務情報をトラッキング（表示、編集）するには、資産のリストを表示し、以下のRつのタブのPつを選択します。

- 【取得】タブページ
- 【コスト】タブページ
- 【固定資産】タブページ



注意:

ここで指す「資産」は、[資産]テーブルに登録されている資産とロットの両方を総称的に意味します。

## 資産の取得

[取得]タブページでは、主に資産の取得に関する情報が表示され、このタブページの情報の大半は、サブタブページに分類されています。

### 取得方法

Assetbenterでは、資産の5つの取得方法を管理できます。

- 購入
- レンタル
- リース
- ローン

選択した取得方法に応じて、次の表示情報が変わります。

- 資産の詳細画面にある特定のタブページ
- [取得]タブページの特定のフィールド
- [取得]タブページの特定のサブタブページ

デフォルトの[取得方法](rpk名: seAcqu | ethod)は、[購入]です。他には、[レンタル]、[リース] [ローン]が選択可能です。

### 資産の取得に関連する契約

選択した取得方法に関係なく、[調達]サブタブページで契約を取得に関連付けることができます。選択した契約は、資産の詳細画面の[契約]タブページに表示されます。



警告:

契約の選択を確定すると、資産の[取得方法](rpk名: seAcqu | ethod)が、契約の詳細画面の[全般]タブページにある[資産のデフォルトの取得方法](rpk名: seAcqu | etho)フィールドで指定したファイナンス情報を表示するように自動的に変更されます。

### 資産またはロットの取得に関連する会社

[調達]サブタブページでは、次のことを選択できます。

- レンタルまたはリース資産の場合は [ 貸主 ] ( rpk名 : kessor )
- ローン資産の場合は [ 貸主 ]

## 賃貸料に関する追加情報用のサブタブページ

選択した取得方法に関係なく、[ 取得 ] タブページに賃貸料情報用のサブタブページを追加できます。サブタブのラベル部分をマウスの右ボタンでクリックして、ポップアップメニューから [ リンクレコードの追加 ] を選択します。

ここでは、非常に幅広い意味で賃貸料という用語を使います。例えば、保険手数料、メンテナンス契約の支払など、定期的に支払う金額と考えることができます。

これらのサブタブページは、リース賃貸料の情報を入力するサブタブページと似ています。

## 資産のコスト

資産の詳細画面の [ コスト ] タブページには、資産に関連する経費明細のリストが表示されます。

専用フィルタが、リストの上部に表示されます。

フィルタで経費明細を検索した後に  ボタンを使うと、リストに表示されている経費明細のコストの合計を計算できます。

## 固定資産を定義する

ここでは、次の事項について説明します。

- 固定資産の詳細情報を入力する
- 固定資産の会計情報を資産と関連付ける

## 固定資産の詳細情報を入力する

### 資産の減価償却の詳細情報を入力および計算する

資産の減価償却に関する情報は、資産の詳細画面の [ 固定資産 ] タブページにあります。

このタブページは、[ 取得 ] タブの [ 取得方法 ] ( rpk名 : seAcqu | method ) フィールドが [ 購入 ] に設定されている場合のみ表示されます。

このタブページには0種類の情報が表示されます。


- 画面左側には、資産の減価償却と残存価額の計算に使うフィールドとリンクが含まれています。
- 画面右側のリストには、資産をAssetbenterにインポートした後に、資産に関連付けられた【固定資産】(rpk名:\meixedAsset)テーブルのレコードが表示されます。

減価償却の計算式は、【減価償却の計算式】(rpk名:\mceprcheme)テーブルで定義します。

資産に適用する減価償却の計算方法は、【減価償却方法】(rpk名:ceprcheme)フィールド(リンク)を使って選択します。

## 減価償却の計算式を定義する

減価償却の計算式を定義するには、次の手順のPつに従います。

- 資産の詳細画面で次の操作を行います。
  - P 【固定資産】タブページを表示します。
  - 2  ボタンをクリックします。
- 【管理/画面一覧】メニューを選択します。
  - P 【減価償却方法】のリスト(rpk名:\mceprcheme)を選択します。
  - 2 【新規作成】をクリックします。
  - R 【全般】タブページに入力します。
  - S 【スクリプト】タブページで計算スクリプトを作成します。

スクリプトには、次のフィールドを使って減価償却値を計算することを指定します。

- 【減価償却の計算式】テーブル
  - 【期間】(rpk名:tsceprcur)フィールド
  - 【加速係数】(rpk名:fboeff)フィールド
  - 【償却率】(rpk名:pq\te)フィールド
- 【資産】(rpk名:\mAsset)テーブル
  - 【開始日】(rpk名:drt\rtAcqu)フィールド
  - 【減価償却基準】(rpk名:mcepra\sis)フィールド
  - 【見積日】(rpk名:dceprqec\lc)フィールド

計算された結果によって、【減価償却】(rpk名:mcepru\l)フィールドの値が変わります。

### 注意:

【残存価額】(rpk名:mmetu\lue)フィールドは、【減価償却基準】フィールドまたは【減価償却】フィールド、あるいはその両方が変更されるとAssetbenterにより自動的に再計算されます。



定額法による減価償却の単純な計算スクリプトの例を示します。

```

cim imbnfc\ys As hnteger
imbnfc\ys = \mc\tecffGzdcprqec\lc]{zdr\rtAcqu}H
hf Gimbnfc\ys [= OH nr Gzceprrrchemelltsceprcur] [= OH shen
  ret zmcepru\l] = 0
dlsehf Gimbnfc\ys ]= zceprrrchemelltsceprcur}H shen
  ret zmcepru\l] = zmcepra\sis]
dlse
  ret zmcepru\l] = zmcepra\sis] | imbnfc\ys \zceprrrchemelltsceprcur]
dnd hf
ret zdceprqec\lc] = \mc\te L] ret zdceprqec\lc] = \mc\teGH

```

【減価償却】フィールドの値は、参照フィールドが変更されると、Assetbenterの自動処理機能によって自動的に再計算されます。

## 複数の資産の減価償却を見積もる

選択した複数の資産の【減価償却】フィールドの値を同じ日付で計算して更新するには、更新する資産を同時に選択した後で、【見積日】フィールドの値を変更します。

この処理を実行する【スクリプト】【タイプ】のアクション（rpk名：seActiontype）を作成することもできます。次のようなスクリプトを使います。

```
ret zdceprqec\lc] = \mc\te
```

【減価償却】フィールドの値は、Assetbenterのデフォルトの自動処理機能によって更新されます。

複数の資産に対して、定期的上記のアクションをトリガするワークフローを作成することもできます。

## 固定資産の会計情報を資産と関連付ける

次のQつの方法があります。

### 資産の詳細画面で設定

- P 【固定資産】タブページを表示します。
- 2 資産に関連する固定資産を追加または削除します。  
または、別のウィンドウで固定資産のリストを表示して、資産に関連させる固定資産を選択し、資産の【固定資産】タブページのリストにドラッグして追加することもできます。

## 固定資産の詳細画面で設定

- P [資産] タブページを表示します。
- 2 資産に関連する固定資産を追加または削除します。
- または、別のウィンドウで資産のリストを表示して、固定資産に関連させる資産を選択し、固定資産の [資産] タブページのリストにドラッグして追加することもできます。

## ポートフォリオ品目の移動

[ポートフォリオ品目] テーブルを使って、ポートフォリオ品目の移動を管理できます。

Assetbenterでは、各ポートフォリオ品目のコンテキスト情報を変更できます。また、他のテーブルで情報を変更すると、この変更事項は、[ポートフォリオ品目] テーブルに自動的に適用されます。例えば、コピー機Aが部署aに割り当てられたと仮定します。[ポートフォリオ品目] テーブルでこのコピー機のレコードを表示すると、この場所変更を把握することができます。また、[ポートフォリオ品目] テーブルでは、納品待ちの注文品をどの従業員が予約しているかを知ることができます。

[ポートフォリオ品目] テーブルでは、ポートフォリオ品目の移動を管理するために、特に以下のQつのタブページを使用します。

- [全般] タブページでは、ポートフォリオ品目の移動をトラッキングします。
- [予約] タブページでは、未割当のポートフォリオ品目を予約できます。

## ポートフォリオ品目のコンテキスト情報を指定する

[ポートフォリオ品目] テーブルにある [全般] タブページのフィールドに入力すると、ポートフォリオ品目のコンテキスト情報を指定できます。以下のコンテキスト情報を入力できます。

- 割当
- 使用開始日と棚卸日
- ユーザ
- 責任者
- 設置場所（未割当のポートフォリオ品目の場合は在庫場所）
- コストセンタ

デフォルトで使用されるコンテキスト情報が不十分であると判断する場合は、新しいフィールドや任意管理項目を追加できます。任意管理項目の追加に関しては、Assetbenterのマニュアル『主要テーブル』の「任意管理項目の

使用方法」の章、およびマニュアル『管理』の「データベースのカスタマイズ」の章を参照してください。

[ポートフォリオ品目]テーブルでは、ロットを分割することができます。  
[ロットを分割する z 修献 S0] ウィザードを使って、ロットに新しい場所、部署、コストセンタなどを指定できます。[ロットを分割する z 修献 S0] ウィザードを使って作成したロットは、[資産]テーブルの同じレコードにリンクされたままになります。この結果、異なるコンテキスト情報を持つ複数の品目をまとめてトラッキングできます。

▶ ロット z 修献 RW]

## ポートフォリオ品目を予約する

ポートフォリオ品目を予約できるのは、ポートフォリオ品目の詳細画面の [全般] タブページにある [割当] (rpk名: seAssignment) フィールドが、[在庫中] または [納品待ち] に設定されている場合だけです。

ポートフォリオ品目は、次のいくつかの方法で予約できます。

## ポートフォリオ品目の詳細画面で設定

ポートフォリオ品目を予約するには、次の手順に従います。

- P ポートフォリオ品目のリストを表示します ([ポートフォリオ/ポートフォリオ品目] メニュー)。
- 2 選択されたポートフォリオ品目の依頼明細を入力します。
- R 予約する資産の詳細画面の [全般] タブページを表示します。
- S 予約の開始および終了日と、予約した人を指定します。

予約を削除するには、[割当] フィールドの値を変更するか、予約に関連するフィールドの値を削除します。




## 購入依頼の詳細画面で設定

購入依頼には、次のポートフォリオ品目を含めることができます。

- [ポートフォリオ品目] テーブルにまだ存在しない、発注予定のポートフォリオ品目
- 購入依頼を介して予約されるポートフォリオ品目。このようなポートフォリオ品目は既に [ポートフォリオ品目] テーブルに作成されており、上で定義した条件を満たしています。

購入依頼からポートフォリオ品目を予約するには、次の手順に従います。

- P 購入依頼の詳細画面を表示します。
- 2 [明細] ボタンをクリックして、依頼内容の明細を表示します。
- R [予約] タブページに移動します。

- S  をクリックします。
- T 表示されるウィンドウには、**【割当】**（rpk名：seAssignment）フィールドが**【在庫中】**または**【納品待ち】**に設定されているポートフォリオ品目が表示されます。
- U 条件を満たすポートフォリオ品目が既にデータベース内にある場合は、そのポートフォリオ品目を選択してから**【選択】**ボタンをクリックして予約します。希望するポートフォリオ品目がない場合は、**【新規作成】**ボタンをクリックして新しいポートフォリオ品目を作成します。作成するポートフォリオ品目の**【割当】**フィールドには、**【在庫中】**または**【納品待ち】**が表示されます。必要なフィールドに情報を入力してから、**【追加】**ボタンをクリックしてポートフォリオ品目を作成し、次に**【選択】**ボタンをクリックしてそのポートフォリオ品目を予約します。
- V 依頼の明細の詳細画面で**【変更】**をクリックして、予約を確定します。
- W 必要に応じて、依頼の明細の詳細画面の**【予約】**タブページでをクリックし、ポートフォリオ品目の詳細画面の**【全般】**タブページにある**【予約終了日】**（rpk名：dqeservdnd）フィールドに値を入力します。
- 依頼から作成したポートフォリオ品目の予約を削除するには、次の手順に従います。
- P 依頼の明細の詳細画面の**【予約】**タブページで予約するポートフォリオ品目を選択します。
- 2  をクリックして、予約するポートフォリオ品目を削除します。

## 在庫管理への影響

ポートフォリオ品目を予約すると、このポートフォリオ品目の在庫管理に影響が及びます。予約したポートフォリオ品目は、在庫レベルのチェック時にはカウントされません（▶[在庫規則の作成 z修献 TT](#)）。

### 注意:

予約したポートフォリオ品目の割当て先の在庫は、ポートフォリオ品目の詳細画面の**【全般】**タブページにある**【在庫】**（rpk名：rtock）フィールドに示されます。

## ポートフォリオ品目の寿命を管理する

ポートフォリオ品目が使われなくなった場合（処分、廃棄、盗難、売却など）は、データベースで各ポートフォリオ品目のステータスを現状に合わせて変更し、そのままデータベースに残しておくのが便利です。

ポートフォリオ品目の寿命を管理するには、以下の手順に従います。

- P 使われなくなったポートフォリオ品目を選択します。

- 2 **[全般]** タブページにある **[割当]** (rpk名: seAssignment) フィールドを **[除却済]** に設定します。
- R 必要に応じて、**[親レコード]** (rpk名: oLrent) フィールドのテキストを削除して、親資産からこのポートフォリオ品目を切り離します。
- S 必要に応じて、**[固定資産]**、**[契約]**、**[メンテ]**、**[取得]**、**[接続]**、および **[プロジェクト]** タブページの情報も更新します。

 **注意:**

ポートフォリオ品目のレコードを削除すると、ポートフォリオ品目に関する情報はすべて失われます。このため、使用期間が終了しても、情報（減価償却、履歴、メンテナンスなど）を保存する必要があるポートフォリオ品目は、ステータスを「除却済」に変更することをお勧めします。

## 資産を契約に関連付ける

資産をPつまたは複数の契約に関連付けることができます。

資産の詳細画面の **[契約]** タブページと **[取得]** タブページに、資産に関連付けられている契約のリストが表示されます。

 **注意:**

ここで指す「資産」は、**[資産]** テーブルに登録されている資産とロットの両方を総称的に意味します。

## [契約] タブページ

資産の詳細画面の **[契約]** タブページには、資産に関連する契約のリストが表示されます。

専用フィルタはタブページの上部に表示されます。

このフィルタを使うと、以下のR条件に応じて契約を表示できます。

- フィルタ **[すべて]** は、すべての契約を表示します。
- フィルタ **[有効]** は、一定の期間で有効な契約を表示します。
- フィルタ **[失効]** は、有効期限の切れた契約を表示します。

関連契約は、属性、会社、開始日、終了日、資産の追加日別に表示 / 分類されています。

契約を追加する時、または契約明細を表示する時、契約明細の詳細画面が開きます。

- 希望する契約を選択してから、契約に資産を追加した日付と削除予定日を指定します。
- **【権限】**（rpk名：seAuthorization）と**【使用権利数】**（rpk名：Itsebound）フィールドにも必要に応じて値を入力します。

## 【取得】タブページ

契約内容に応じて資産を取得できます。

資産の詳細画面の**【取得】**タブページでは、次のいずれかの方法で取得した資産に契約を関連付けることができます。

- 購入
- レンタル
- リース
- ローン

取得方法に応じて表示されるサブタブページを使って、取得契約の詳細を指定できます。

資産に関連する契約の作成と管理に関する詳細については、マニュアル『**契約**』を参照してください。

## 在庫

在庫は、在庫に入っているのポートフォリオ品目および納品待ちのポートフォリオ品目を含みます。

ポートフォリオ品目の詳細画面で、**【全般】**タブページに**【割当】**（rpk名：seAssignment）フィールドが**【在庫中】**または**【納品待ち】**に設定されています。例：最近購入したポートフォリオ品目で、ユーザにはまだ割り当てられていないポートフォリオ品目。これらのポートフォリオ品目は、在庫の詳細画面の**【ポートフォリオ】**タブページに表示されます。

Assetbenterでは、自動購入依頼をトリガする規則を在庫に関連付けて、在庫を補充することができます。再発注レベルは、Assetbenter serverがモニタします。

### 警告:

使用するモニタ機能を有効にするには、クライアントまたはサーバのコンピュータでAssetbenter serverを稼働している必要があります。

Assetbenterで作成できる在庫数に制限はありません。

以下の方法で**【在庫】**テーブルにアクセスできます。

- [ポートフォリオ/在庫]メニューを選択します。
- 機能とお気に入りのパネルで、[在庫のリスト]をクリックします（[ポートフォリオ管理]トピック）。

## 在庫規則の作成


Assetbenterでは、在庫に自動購入依頼をトリガする規則を関連付けて、消費されるポートフォリオ品目の在庫を補充することができます。

これらの規則は、在庫の詳細画面の[管理]タブページで定義します。それぞれの規則にはモデルが関連付けられており、そのモデルを基にするポートフォリオ品目の在庫が一定数を下回ると、自動的に再発注されます。

各在庫明細の再発注状況は、Assetbenter serverがモニタします。

在庫規則を作成するには、次の手順に従います。

P [管理]タブをクリックします。

2  をクリックします。

R [在庫に規則を追加]画面が表示されるのを待ちます。

S 在庫規則の適用対象となるポートフォリオ品目のモデルを指定します（例：プリンタのインクカートリッジ）。

T [発注点]（rpk名：lqeordkevel）フィールドで、購入依頼の作成をトリガする在庫数の下限を指定します（例：T個）。

U [発注数]（rpk名：lptysonrder）フィールドには、上記の下限を下回ったときに発注するポートフォリオ品目の数量を指定します。

ポートフォリオ品目が資産またはロットの場合、Assetbenter serverは購入依頼（[数量]フィールドの値=T）を作成します。この購入依頼から発注した品物を受領すると、次のことが起こります。

- 資産の場合、[ポートフォリオ品目]テーブルにレコードT個が作成されます。
- ロットの場合、[ポートフォリオ品目]テーブルにインクカートリッジT個を含むロットのレコードがPつが作成されます。

各モデルの在庫は、次のようにして自動的に管理されます。

P 在庫の詳細画面の[ポートフォリオ]タブページの情報を元に、Assetbenter serverが現在の在庫数を計算します。

ロットに対応するポートフォリオ品目の場合、Assetbenter serverはロットに含まれる[数量]（フィールド）の値を確認します。

2 現在の在庫数が、在庫規則の詳細画面の[発注点]（rpk名：lqeordkevel）フィールドで指定した数量を下回ると、Assetbenter serverは購入依頼を自動的に作成します。

R 依頼した全数量が受領されない間、Assetbenter serverは依頼元の在庫規則をチェックしないため、新しい依頼は作成されません。



- S 全依頼数が受領されると、Assetbenter serverは次の処理を実行します。
- 在庫数を再調整します。
  - 在庫規則の詳細画面の【**依頼明細**】（rpk名：qeqkine）フィールドの内容を消去します。
  - 在庫規則を再度有効にします。

 **注意:**

在庫テーブルの数量をチェックする頻度を定義するには、Assetbenter serverを使います。

## 現在の在庫数の計算方法

特定のモデルの在庫規則をチェックし、実際に使用できる在庫数を割り出すために、Assetbenter serverは、在庫の詳細画面の【**ポートフォリオ**】タブページにある同モデルを基にしたポートフォリオ品目の数を計算します。

未予約のポートフォリオ品目のみが数えられます。

## 再発注依頼を作成する

必要に応じて、Assetbenter serverが、次の情報を元に各在庫規則に従って再発注依頼を作成します。

- 在庫の詳細画面の【**自動依頼**】タブページで定義されている購入依頼の詳細。
- 購入依頼時の再発注数（在庫規則の詳細画面の【**発注数**】（rpk名：lptysonrder）フィールド）

この方法で在庫数をモニタした結果、自動的に作成された購入依頼の発注明細が受領されると、在庫数が調整されます。

## 在庫の管理プロセス

本節の内容は以下のとおりです。

- 在庫内のポートフォリオ品目のリスト
- ポートフォリオ品目を在庫に入庫する
- 在庫からポートフォリオ品目を出庫する




## 在庫内のポートフォリオ品目のリスト

在庫の詳細画面の【**ポートフォリオ**】タブページには、在庫内のすべてのポートフォリオ品目のリストが表示されます。



## フィルタ

在庫のポートフォリオ品目のリストの上には、次の3つのフィルタが表示されます。

-  P番目のシンプルフィルタ
-  Q番目のシンプルフィルタ
-  R番目のシンプルフィルタ

フィルタ間では、「Amc」条件（rpkによる）が適用されます。

## 在庫のポートフォリオ品目のリストをツリー構造で表示する

在庫のポートフォリオ品目のリストをツリー構造で表示する場合は、次の点に注意してください。

- 在庫のポートフォリオ品目に従属ポートフォリオ品目が関連付けられていて、その従属ポートフォリオ品目が在庫にない場合は、従属ポートフォリオ品目は表示されません。
- 在庫のポートフォリオ品目が別のポートフォリオ品目の従属ポートフォリオ品目である場合は、その親ポートフォリオ品目も表示されます。ただしその親ポートフォリオ品目が在庫にない場合は、淡色で表示されません。

## ポートフォリオ品目を在庫に入庫する


ポートフォリオ品目を在庫に入庫するには、次の方法があります。

### ポートフォリオ品目の詳細画面で指定

ポートフォリオ品目の詳細画面の【全般】タブページで、次のように指定します。

- 1 【割当】（rpk名：seAssignment）フィールドを【在庫中】に設定します。
- 2 【在庫】（rpk名：rtock）フィールドで在庫名を選択します。

### 在庫の詳細画面で指定

在庫の詳細画面の【ポートフォリオ】タブページの  ボタンを使って、ポートフォリオ品目を追加します。

### 発注の詳細画面で指定

ポートフォリオ品目を作成する明細を使うと、在庫内にポートフォリオ品目を作成できます。作成するには、次の手順に従います。

- P 発注のリスト（【調達/発注】メニュー）で適切な発注を選択します。
- 2 ポートフォリオ品目を作成する発注明細の【購入】タブページの【配達先在庫】（rpk名：rtock）フィールドに、在庫名が表示されることを確認します。表示されない場合は、このフィールドに入力します。
- R 納品待ちのポートフォリオ品目を作成するには、まず発注の【ステータス】フィールドの値が【承認済】または【発注済】であることを確認します。次に【作成】ボタンをクリックすると、ポートフォリオ品目が【ポートフォリオ品目】テーブルに作成されます。

このようにして作成したポートフォリオ品目の詳細情報は、次のようになります。

- ポートフォリオ品目の詳細画面の【全般】タブページ/【割当】フィールドは、【納品待ち】に設定されます。
- 【在庫】フィールド（ポートフォリオ品目の詳細画面の【全般】タブページ）には、ポートフォリオ品目の発注の明細の【購入】タブページ/【配達先在庫】フィールドで指定した在庫と同じ在庫名が表示されます。

## 在庫からポートフォリオ品目を出庫する

特定の在庫からポートフォリオ品目を出庫するには、次の方法があります。


### ポートフォリオ品目の詳細画面で指定

ポートフォリオ品目の詳細画面の【全般】タブページで、次のように指定します。

- P ポートフォリオ品目のリストを「リストと詳細」モードで表示します。
- 2 在庫から出庫するすべての資産を選択します。
- R 【割当】（rpk名：seAssignment）フィールドを【使用中】に設定します。
- S ポートフォリオ品目のユーザと責任者が、在庫から出庫するすべての資産に共通している場合は、ユーザを選択します。
- T 設置場所が在庫から出庫するすべてのポートフォリオ品目に共通している場合は、複数のポートフォリオ品目を選択したまま必要に応じて設置場所のフィールドに指定します。

### 在庫の詳細画面で指定

- P 在庫の詳細画面の【ポートフォリオ】タブページに移動します。
  - 2 在庫から出庫するポートフォリオ品目をすべて選択します。
  - R リストの右側にある  ボタンを押します。ここでポートフォリオ品目を削除すると、ポートフォリオ品目の詳細画面の【割当】（rpk名：seAssignment）フィールドが【使用中】に設定されます。
- または

- P 在庫の詳細画面の [ **ポートフォリオ** ] タブを選択します。
- 2 在庫から出庫する各ポートフォリオ品目ごとに  ボタンをクリックします。
- R 各ポートフォリオ品目の詳細画面の [ **全般** ] タブページ / [ **割当** ] フィールドを [ **使用中** ] に設定します。
- S ポートフォリオ品目のユーザ、責任者、および設置場所を選択します。



# R | hsポートフォリオ

Assetbenterはhsポートフォリオの管理にとりわけ適しています。hs分野に関連するフィールドやテーブルを使って、様々な種類のコンピュータ（コンピュータ、ワークステーション、ノートブックコンピュータ、サーバなど）を管理できます。

## コンピュータ

コンピュータを管理するには、個別管理タイプの管理方法をお勧めします。コンピュータのモデルで技術情報を定義すると、同モデルを基にして作成されるコンピュータはその技術情報を継承します。

個別管理タイプを選択する場合のみに、**[ポートフォリオ品目]**テーブル、**[資産]**テーブル、および**[電話]**テーブルの各々にレコードが作成されます（▶[オーバーフローテーブル](#) 参考文献 P9）。

## コンピュータの属性を作成する

個別に管理するコンピュータの属性を作成するには、次の手順に従います。

- 1 属性のリストを表示します。
- 2 **[作成]**をクリックします。

- R 作成する属性の名前とコードを入力します（例：コンピュータとコンピュータ）。
- S **[作成]** フィールドで **[ポートフォリオ品目]** を選択します。
- T **[オーバーフローテーブル]** フィールドで **[コンピュータ]** を選択します。
- Assetcenterの **[コンピュータ]** テーブルはqemote bontrolの統合用に使用されます。
- U **[ソフトウェアをインストール]** オプションと **[接続可能]** オプションを選択します。
- V **[作成]** をクリックして、作成を確定します。

## コンピュータのモデルを作成する

コンピュータのモデルを作成するには、普通のモデルを作成する手順に従います（▶ **モデル z 修献 R0]**）。コンピュータに特有の属性を選択する必要があります（▶ **コンピュータの属性を作成する z 修献 UP]**）。

**[ポートフォリオ品目]** テーブルは **[モデル]** テーブルを基にして構成されるため、一般的なモデルをまず作成するようをお勧めします。例えば、モデル「**コンピュータ**」を作成し、その従属モデルとして「**デスクトップコンピュータ**」、「**ポータブルコンピュータ**」、「**サーバ**」を作成します。さらに、各従属モデルに属するモデルを作成し、これらのモデルを基にしてポートフォリオのコンピュータを作成します。

## 例：コンピュータのモデルを作成する

ここでは、以下の特性を持つコンピュータのモデルを作成します。

- コンピュータ「go udbsqA uk W00」
- プロセッサ「hntel@ oentium@ S PIR f gz」
- PQW l a qcqA l
- SO f aのハードドライブ
- RITA、PISS l aのディスクドライブ
- cuclqn l PQx\SOx
- goマルチメディアキーボード
- goオプティカルマウス

このコンピュータのモデルを作成するには、次の手順に従います。

- P モデルのリストを表示します。
- 2 **[新規作成]** をクリックします。

- R [名前] フィールドに「udbsRA uk W00」と入力します。
- S [メーカ] フィールドに「gewlettLoackard」と入力します。
- T [親モデル] フィールドで、「デスクトップ」を選択します。
- U [全般] タブページの [属性] フィールドで、コンピュータのモデルを作成するのに適した属性を選択します (▶コンピュータの属性を作成する z 参考文献 UP)。
- V [ハードウェア] タブページでコンピュータに関する情報を入力します。
- [プロセッサ] フィールドに「プロセッサ」と入力します。
  - [bot 速度] フィールドに「PRO0」と入力します (デフォルト単位はメガヘルツです)。
  - [メモリ] フィールドに、「PQW」と入力します。
  - [ディスク容量] フィールドに「S0000」と入力します。
- W [作成] をクリックして、作成を確認します。
- 9 上記の手順に従って、コンピュータのコンポーネント用のモデルを作成します。
- ディスクドライブ
  - cuc ドライブ
  - キーボード
  - マウス

あるモデルを別のモデルに関連付けることはできません。ただし、コンピュータ「udbsqA uk W00」を作成した後に、コンポーネントのモデルを基にした資産を同コンピュータに関連付けることは可能です (▶資産にポートフォリオ品目を関連付ける z 参考文献 RU)。

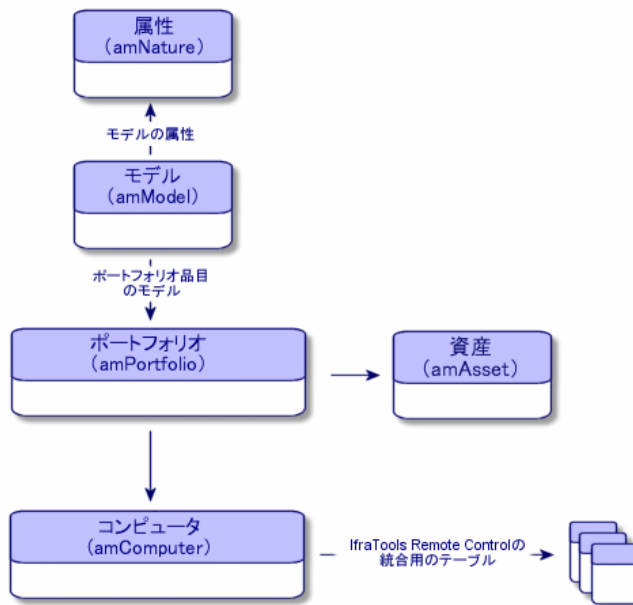
## コンピュータを作成する

コンピュータは以下のRつのテーブルに記録されます。

- [ポートフォリオ品目] (rpk名: \moortfolio) テーブル
- [資産とロット] (rpk名: \mAsset) テーブル
- [コンピュータ] (rpk名: ambomputer) テーブル

このテーブルは、qemote controlをAssetbenterに統合する際に使用されません。

以下の図は、コンピュータに関連するテーブルを示しています。



コンピュータの作成方法は、資産の作成方法に類似しているため、詳しくは「[資産を作成するz修献RT\]](#)」の節を参照してください。ポートフォリオ品目をコンピュータに関連付ける方法については、「[資産にポートフォリオ品目を関連付けるz修献RV\]](#)」の節を参照してください。コンピュータに関連付けられる資産とは、周辺機器（キーボード、プリンタ、各種ドライブ）、ソフトウェアアプリケーション、消耗品を指します。

## コンピュータの標準セット

コンピュータの標準セット（バンドル商品）には、bot、基本周辺機器、基本ソフトウェアが含まれています。

必要に応じて、標準セットを固有の資産として管理するか、または標準セットの各コンポーネントを別々の資産として管理するかを選択できます。



## 標準セットを固有の資産として管理する

標準セットを固有の資産として管理するには、これに対応するモデルをまず作成します。次にこのモデルを基にして標準セットを作成します。そして最後に、標準セットに消耗品、ソフトウェア、周辺機器を関連付けます。

### 利点

標準セットを固有の資産として管理すると、入力作業を軽減できます。また、標準セットは、[資産]テーブルのPレコードのみに対応するので、財務情報のトラッキングに関連するコストを減少できます（減価償却、固有の取得価格、会計の簡素化など）。ただし、標準セットのあるコンポーネントを大幅に変更する場合には（削除、更新）、複雑な調整プロセスを実行しなければなりません。

## 標準セットのコンポーネントを関連資産として管理する

標準セットのコンポーネントを関連資産として管理するには、次の操作を実行します。

- P 関連資産に対応するレコードを作成する（▶「資産を作成する z倭献 RTJ」）。
- 2 標準セットのコンポーネントの中から、主要コンポーネントを選択する（例：bot）。
- R 主要コンポーネントにその他のコンポーネントを関連付ける（▶「資産にポートフォリオ品目を関連付ける z倭献 RUJ」）。

### 利点

標準セットのコンポーネントを関連資産として管理すると、各コンポーネントを正確にトラッキングできます。キーボードを交換する場合、古いキーボードへのリンクを削除し、新しいキーボードへのリンクを作成します。

## コンピュータ間の接続

Assetbenterでは、コンピュータ間の接続情報を指定できます。

Assetbenterで使う接続テンプレートでは、AとaのQ台のコンピュータ間の一般的な接続情報を指定できます。このテンプレートをカスタマイズすると、すべての接続タイプ、特にクライアント/サーバタイプの情報を指定できます。「接続」の概念は、Assetbenterの次の画面で使われます。

- モデルの詳細画面 ( rpk名 : \mModel )、または資産の詳細画面 ( rpk名 : \mAsset ) の [ ポート ] タブページ
- 接続タイプのリスト ( rpk名 : \mbnxsype )

## 接続条件

接続情報は、資産の詳細画面の [ ポート ] タブページに入力されています。このタブページを表示するには、資産のモデルの属性の詳細画面で、 [ 接続可能 ] オプションを選択する必要があります ( ▶ 属性における動作オプション z 修献 QT) および 属性 z 修献 QV) )。

### 注意:

コンピュータには任意の数のポートを設定でき、各ポートには固有の番号が付けられます。PつのポートでPつのコンピュータに接続できます。

## ポート

コンピュータ間の接続はポートを使って行います。コンピュータAのポートとコンピュータaのポートが接続されたときに接続が有効になります。これは双方向の接続で、接続している両方のコンピュータの詳細画面の [ ポート ] タブページに接続状況が表示されます。このページで次の接続状況を確認できます。

- 使用中 ( 別のコンピュータのポートまたは同じコンピュータの別のポートに接続している )。この場合は次のように表示されます。

[コンピュータ] [ポート番号] L [ポート番号] [コンピュータ]
-------------------------------------

例えば、コンピュータAとコンピュータaが接続されている場合は、それぞれの詳細画面に次のように表示されます。

- コンピュータAの接続状況

[コンピュータA] [コンピュータAが使用しているポート番号] L [コンピュータaが使用しているポート番号] [コンピュータa]
---

- コンピュータaの接続状況

[コンピュータa] [コンピュータaが使用しているポート番号] L [コンピュータAが使用しているポート番号] [コンピュータA]
---

- 空き ( 接続に使用できる )。この場合は次のように表示されます。

[コンピュータ] [ポート番号] L
--------------------

## 接続を作成する

ここでは、Qつのコンピュータ間の接続を作成する方法を、例を使って説明します。接続するコンピュータの片方をサーバ、もう片方をクライアントとして定義します。接続例の手順は次のとおりです。

- P 接続を作成する
- 2 接続するコンピュータを作成する
- R コンピュータ間の接続を作成する
- S 接続に関する追加情報

## 接続を作成する

接続タイプを作成すると、次のフィールドでQつのタイプのポートの関係を定義します。

- **【タイプ】** (rpk名: ceprsype)。ソースポートを指定します。
- **【ターゲットポートのタイプ】** (rpk名: slrgetsype)。ソースポートに接続するリモートポート (ターゲットポート) を指定します。

これはP方向の接続です。特定のポートでソースポートのタイプを選択すると、接続先ポート (ターゲットポート) のタイプも自動的に選択されます。先にターゲットポートのタイプを選択した場合は、接続先のコンピュータのソースポートのタイプは自動的に選択されません。このため、双方向の接続テンプレートを作成するには、Q種類の対称接続を作成する必要があります。例えば、クライアント/サーバ接続の場合は次のようになります。

- 「クライアント」タイプから「サーバ」タイプへ
- 「サーバ」タイプから「クライアント」タイプへ

ここでは、双方向のクライアント/サーバ接続テンプレートを作成します。コンピュータAとコンピュータa間の接続の作成時にこのテンプレートを選択すると、自動的に次のように処理されます。

- コンピュータAのポートタイプが「クライアント」の場合は、接続先のコンピュータaのポートタイプが「サーバ」になる。
- コンピュータAのポートタイプが「サーバ」の場合は、接続先のコンピュータaのポートタイプが「クライアント」になる。

### 注意:

この自動処理機能は、接続を直接作成した場合のみ起動されます。

## 接続タイプの画面を開く

[管理 / 接続タイプ] メニューを選択します。

## クライアント/サーバタイプの接続を作成する

次の手順に従って、クライアント/サーバタイプの接続を作成します。

- P **【新規作成】**をクリックします。
- 2 **【ソースポートのタイプ】**フィールドを「クライアント」に設定します。
- R **【ターゲットポートのタイプ】**フィールドを「サーバ」に設定します。
- S 必要に応じて、**【説明】**（rpk名：memcdescription）フィールドに説明を入力します。
- T **【作成】**をクリックして、作成を確定します。

## サーバ/クライアントタイプの接続を作成する

次の手順に従って、サーバ/クライアントタイプの接続を作成します。

- P **【新規作成】**をクリックします。
- 2 **【ソースポートのタイプ】**フィールドを「サーバ」に設定します。
- R **【ターゲットポートのタイプ】**を「クライアント」に設定します。
- S 必要に応じて、**【説明】**（rpk名：memcdescription）フィールドに説明を入力します。
- T **【作成】**をクリックして、作成を確定します。

## 接続するコンピュータを作成する

### 手順P L コンピュータのモデルを作成する

サーバのモデルとクライアントのモデルを作成する方法については、「例：コンピュータのモデルを作成する z倣献 UQ」の節を参照してください。

コンピュータQ台の各モデルを作成する際に、**【ポート】**タブページのフィールドに入力します。ここで入力される値は、これらのモデルを基にして作成されるコンピュータにより継承されます。

以下の表は、サーバのモデルとクライアントのモデルで入力する情報の例をです。

#### サーバ


- run l icrosystems run eire PT j
- t ltr\ rplrc hhh USLbit 900 l gz

#### クライアント

- go udbsqA uk W00コンピュータ
- hntelq oentiumq S PllR f gzプロセッサ
- PQW l a qcqA l
- S0faのハードドライブ

サーバのモデルとクライアントのモデルを作成したら、次に**【資産】**テーブルにQ台のコンピュータを作成します（▶ [資産を作成する z倣献 RT](#)）。

## 手順Q L [資産] テーブルでコンピュータを作成する

[ポートフォリオ/資産とロット]メニューを選択するか、をクリックします。資産の詳細画面が表示されます。前の手順で作成したQつのモデルをそれぞれ使って、Qつの新規資産を作成します。[作成]をクリックして、これらの資産の作成を確定します。

## コンピュータ間の接続を作成する

### 接続の作成方法


Qつのコンピュータ間で接続を作成するには、次のQつの方法があります。

- まず該当する各コンピュータでポートを作成し、これらのポートをリンクして接続を作成する。接続の作成にはこの方法をお勧めします。
- QつのコンピュータのP台から直接接続を作成する。

ここでは、両方の方法を使ってQつのコンピュータを接続します。

### 各コンピュータでポートを作成し、これらのポートをリンクする

資産のテーブルのレコードリストからコンピュータ「run eire PT j」を選択し、資産の詳細画面の[接続]タブをクリックします。次に、このコンピュータに空のポートを作成します。

P  ボタンをクリックします。コンピュータ「run eire PT j」に接続ポートを追加するための画面が表示されます。

2 ここでは、空の「サーバ」タイプポートを作成するため、接続先のコンピュータとポートを指定する[接続先資産] (rpk名: s\rgetAsset) および[接続先ポート] (rpk名: s\rgetoorts) フィールドには何も入力しません。

R [ソースポートのタイプ] (rpk名: sype) フィールドを「サーバ」に設定します。


S [作成]をクリックして、作成を確定します。

T [ポート] タブページに、ポート情報が次のように表示されます。

P

コンピュータ「oudbsqA uk W00」でも同じようにしてポートを作成します。


P コンピュータ「oudbsRA uk W00」を選択し、詳細画面の[接続]タブをクリックします。

2  ボタンをクリックします。このコンピュータに接続ポートを作成するための画面が表示されます。


- R **【ソースポートのタイプ】**フィールドを「クライアント」に設定し、他のフィールドは空欄のままにしておきます。
- S **【作成】**をクリックして、作成を確定します。
- T **【ポート】**タブページに、ポート情報が次のように表示されます。

P

あとは、これらQつのポートを接続するだけです。これはどちらのコンピュータで実行してもかまいません。

- P サーバ「run eire PT j」を選択し、**【ポート】**タブをクリックします。
- 2 ポート「P」を選択し、をクリックします。
- R **【接続先資産】**（rpk名：s\rgetAsset）フィールドでクライアント「udbsRA uk W00」を選択します。
- S **【接続先ポート】**（rpk名：s\rgetoorts）フィールドでは、ドロップダウンリストでこのコンピュータのすべての空きポートを表示できます。

#### 注意:

 ボタンをクリックして、表示されたポートのリストから直接ポートを選択することもできます。このリストからポートを選択すると、**【接続先資産】**（rpk名：s\rgetAsset）フィールドに自動的に接続先コンピュータが入力されます。

- T **【変更】**または**【閉じる】**をクリックします。
- U コンピュータ「run eire PT j」の詳細画面に、接続状況が次のように表示されます。

PLPG[接続先資産の資産タグ]H


コンピュータ「udbsRA uk W00」の詳細画面にも次のように表示され、Qつのコンピュータが相互に接続されていることを確認できます。

PLPG[接続先資産の資産タグ]H


- V これで接続が確立されました。

## コンピュータに直接接続を作成する

#### 注意:

前に作成したコンピュータを複製して接続を作成する場合は、複製したコンピュータの**【ポート】**タブページのエントリーを削除する必要があります。削除するには、エントリーを選択し、 ボタンをクリックします。

【資産】テーブルのレコードリストからコンピュータ「run eire PT j」を選択し、その詳細画面の【コンピュータ】タブをクリックします。次に、コンピュータ「run eire PT j」への接続を作成します。

P  ボタンをクリックします。コンピュータ「run eire PT j」に接続ポートを作成するための画面が表示されます。

2 【接続先資産】(rpk名：s\rgetAsset)フィールドを「udbsRA uk W00」に設定します。



R 【タイプ】を「サーバ」に設定します。

S 【追加】をクリックします。

自動的に次のポートと接続が作成されます。

- コンピュータ「run eire PT j」に「サーバ」タイプのポート
- コンピュータ「udbsRA uk W00」に「クライアント」タイプのポート
- これらQつのポート間の接続

## 接続に関する追加情報

Assetbenderでは、接続の詳細画面で接続に関する情報を追加できます。資産の詳細画面で、【ポート】タブをクリックして既存の接続を選択し、 ボタンをクリックします。接続の詳細情報が表示されます。【接続】(rpk名：bonnection)フィールドを使って、追加情報を定義します。 ボタンをクリックすると、接続の詳細画面が表示されます。

### 注意:

接続の詳細画面のフィールドには、自動計算機能は関連付けられていません。この画面で値を指定しても、接続に関連する経費に経費明細が作成されることはありません。

## 接続を管理する

ここでは、接続の管理方法について説明します。内容は次のとおりです。

- 接続数を表示する
- Qつのコンピュータ間の接続を終了する
- 接続しているコンピュータを削除する
- 接続のポート割当てを変更する

## 接続数を表示する

資産の詳細画面の【ポート】タブページには、コンピュータ資産の接続に関する基本的な情報が表示されます。【最大接続数】(rpk名：s l \xbnxbount)および【現在の接続数】(rpk名：sbnxbount)フィールドは、コンピュー

タの可能接続数と実際の接続数を示します。接続を追加または削除すると、Assetbenterにより【現在の接続数】(rpk名:sbnxbount)フィールドが更新されます。

 注意:

【最大接続数】フィールドの値は、おおよその最大接続数を示します。このフィールドにより自動処理機能がトリガされることはありません。実際の接続数が最大接続数を超えても、接続を追加することができます。

## Qつのコンピュータ間の接続を削除する

接続を削除するには、次の手順に従います。

- P 接続しているQつのコンピュータ資産ののどちらかの資産の詳細画面を表示します。
- 2 【ポート】タブをクリックし、削除する接続を選択します。☒ ボタンをクリックします。
- R 接続の詳細画面が表示されます。
- S 【接続先資産】(rpk名:s\rgetAsset)または【接続先ポート】(rpk名:s\rgetoorts)フィールドのどちらかの値を消去し、【変更】をクリックします。Qつのコンピュータ間の接続が終了します。その結果、次のようになります。
  - 追加の接続情報(【接続】(rpk名:bonnection)フィールドで指定した情報)が消去されます。
  - 接続に使われていたポートが解放されます。

 注意:

接続している片方のコンピュータの詳細画面の【ポート】タブページで☒ ボタンをクリックすると、接続に使われているポート自体も削除されます。

## 接続しているコンピュータ資産を削除する

接続したコンピュータ資産を削除すると、Assetbenterにより次の処理が実行されます。

- コンピュータ資産に関連するすべての接続を削除する。
- コンピュータ資産のすべてのポートを削除する。
- 削除したコンピュータ資産に接続されていたすべてのコンピュータ資産のポートを解放する。



## 接続のポート割当てを変更する

次の方法で、接続ポートの割当てを変更できます。

- 完全にポートを解放する。解放されたポートは新しい接続に使用できません。
- ポートを別のポートに接続する。この場合は、元の接続先ポートが解放され、新しい接続に使用できるようになります。

## リモートコントロール

### 使用可能な機能

Assetbenterでは、**[コンピュータ]** ( rpk名 : \mbcomputer ) テーブルのコンピュータを遠隔からコントロールできます。これを行うには、qemote bontrolのマネージャモジュールを**[コンピュータ]** テーブルから起動します。

### 必要条件

qemote bontrolを統合してリモートコントロール機能を使用するには、以下の操作を実行する必要があります。

- P Assetbenterのインストール用bcLqn I からqemote bontrolをインストールする。
- 2 コントロールされるコンピュータにエージェントモジュールをインストール/導入する。
- R Assetbenterデータベースの**[リモートコントロール]**アクションをカスタマイズする。実行するコントロールの種類 (ブロードキャストによるアクセス、直接アクセス、サーバによるアクセス) に応じて、アクションを設定します。

**[リモートコントロール]**アクションアクションのパラメータが適切に設定されているかどうかを確認するには、

- P **[ツール/アクション/編集]**メニューを選択します。
- 2 **[リモートコントロール]**アクションを選択します。
- R **[実行可能プログラムまたはccd]**タブを選択します。

**警告:**

デフォルトのパラメータでは、直接アクセスによるリモートコントロールのみが許可されています。

必要なパラメータを指定して新規アクションを作成する方法については、▶ [qemote bontrolアクションを新規作成する z修献 VI](#)]を参照してください。

- S **【コンピュータ】** (rpk名: \mbomputer) テーブルの **【名前】** (rpk名: m\me) フィールドの値が、リモートコンピュータのリスト (qemote bontrol のマネージャモジュール) に登録されているコンピュータ名と一致しているかどうかを確認する。

**注意:**

**【ツール/アクション/msドメインコンピュータのインポート用ウィザード】**メニューを使うと、**【コンピュータ】** (rpk名: \mbomputer) テーブルにコンピュータレコードをインポートできます。

- ▶ **【コンピュータ】**テーブルに入力する z修献 VII]

## Remote bontrolをインストールする

- P Assetbenterのインストール用bclqn I を挿入します。  
 2 自動インストールプログラムが起動するのを待ちます。  
 R qemote bontrolを選択します。  
 S 完全インストールを選択します。  
 T **【次へ】**をクリックします。  
 U 提示されるデフォルト値を確定または拒否してインストールを終了します。

## エージェントモジュールをインストールする

- P Assetbenterのインストール用bclqn I を挿入します。  
 2 自動インストールプログラムが起動するのを待ちます。  
 R cesktop Agentsを選択します。  
 S 完全インストールを選択します。  
 T **【次へ】**をクリックします。  
 U 提示されるデフォルト値を確定または拒否してインストールを終了します。

## エージェントモジュールを導入する

コントロールされるコンピュータでエージェントモジュールを導入するには、

P 導入コンピュータP台に cesktop Administrationモジュールをインストールします。

cesktop Administrationモジュールのインストール方法については、マニュアル『cesktop Administration』の「Installation」の章を参照してください。

2 コントロールされるコンピュータに cesktop Agentsモジュールを導入します。

cesktop Administrationモジュールのインストール方法については、マニュアル『cesktop Administration』の「Installation」の章を参照してください。

## Remote bontrolアクションを新規作成する

P アクションのリストを表示します（[ツール/アクション/編集]メニュー）。

2 [リモートコントロール]アクションを選択します。

R [複製]をクリックします。

S 新規アクションの名前を指定します。

例：カスタムのリモートコントロール

T [作成]をクリックします。

U [実行可能プログラムまたはccd]タブを選択します。

V [パラメータ]ゾーンでコマンドラインを変更します。

デフォルトのパラメータは以下のとおりです。

```
[host\zm\me] Lmode\gui Lclose
```

パラメータのリストに関しては、qemote bontrolの付属マニュアル『ユーザガイド』の「マネージャモジュールを使用する」の章、「コマンドラインでマネージャモジュールを使用する」の節を参照してください。

コントロールされるコンピュータがqemote bontrolサーバにより管理される（直接アクセスのコンピュータではない）場合は、「Ltype\srvt」パラメータを追加します。

W [変更]をクリックします。


## 新規アクションを[リモコン]ボタンに関連付ける

P オプション画面を表示します（[編集/オプション]メニュー）。

2 [編集/プロセスの設定を可能にする]オプションを選択します。


R このオプションの値を[はい]に設定します。

S [nj]をクリックします。

- T コンピュータのリストを表示します（ [ポートフォリオ/コンピュータ] メニュー）。
- U [  リモコン ] ボタンを右クリックします。
- V ポップアップメニューから [カスタマイズ設定の編集] メニューを選択します。
- W [カスタマイズの追加変更] 画面で、作成したアクションを選択します。
- 9 [nj] をクリックします。

## Assetbenterからコンピュータにリモートコントロールを実行する

コンピュータにリモートコンピュータを実行するには、次の手順に従います。

- P コンピュータのリストを表示します（ [ポートフォリオ/コンピュータ] メニュー）。
  - 2 コンピュータを選択します。
  - R コンピュータの詳細画面で [  リモコン ] ボタンをクリックします。
- remote controlの統合に関する詳細については、『ユーザガイド』の「Remote controlを他のアプリケーションに統合する」の章、「Remote controlをAssetbenterに統合する」の節を参照してください。

## コンピュータのスキャン

### 使用可能な機能

hnfr\sools cesktop ciscovery ( hcc ) または cesktop hnventory ( och ) を統合すると、以下の機能を使用できます。

- [コンピュータ] ( rpk名 : \mbomputer ) テーブルからコンピュータに対して自動スキャンを実行する。
- スキャンの結果をもとに、[コンピュータ] ( rpk名 : \mbomputer ) テーブルの情報を更新する。

### 必要条件

hnfr\sools cesktop ciscoveryまたは cesktop hnventoryを統合して自動スキャンを実行するには、以下の操作を行う必要があります。

- P Assetbenterのインストール用bcdlqn l から cesktop Administr\tionをインストールする。
- 2 cesktop Administr\tion rerverを設定する。
- R Assetbenterのインストール用bcdlqn l から bonnectLhtをインストールする。
- S Assetbenter rerverで **[ スキャナGhc cHの結果を基にデータベースを更新 ]** モジュールまたは **[ スキャナGoc cHの結果を基にデータベースを更新 ]** モジュール ( もしくは両方 ) を有効にする。
- T スキャンの対象になるコンピュータを **[ コンピュータ ]** ( rpk名 : \mbomputer ) テーブルに入力する。
- U エージェントコンポーネントをコンピュータにインストールする。

## エージェントコンポーネントをインストールする

- P Assetbenterのインストール用bcdlqn l を挿入します。
- 2 自動インストールプログラムが起動するのを待ちます。
- R 表示される画面で、cesktop Agentsを選択します。
- S 完全インストールを選択します。
- T **[ 次へ ]** をクリックします。
- U 提示されるデフォルト値を確定または拒否してインストールを終了します。

エージェントのインストール時には、bonnectLhtシナリオと互換性のある hnfrr\sools cesktop ciscoveryスキャン用実行可能プログラムと cesktop hinventory スキャン実行可能プログラムもインストールされます。

これらの実行可能プログラムは、デフォルトで以下のフォルダにインストールされます。

- P zcesktop Administr\tion rerverのインストール先フォルダ] \depot\idd\sc\n v RQ\lexe
- 2 zcesktop Administr\tion rerverのインストール先フォルダ] \depot\pdillsc\n v RQ\lexe

## cesktop Administration rerverを設定する

- P **[ スタート / プログラム / oeregrine / cesktop Administration rerver / rerver configuration tool ]** メニューを選択します。
- 2 **[ rerver / bonfigure the database ]** メニューを選択します。
- R **[ catabase ]** フィールドでAssetbenterデータベースを選択します。
- S **[ n j ]** をクリックします。
- T **[ rervice / rtart ]** メニューを選択します。
- U **[ eile / dxit ]** メニューを選択します。

## bonnectLhtをインストールする

- P Assetbenterのインストール用bclqn Iを挿入します。
- 2 自動インストールプログラムが起動するのを待ちます。
- R 表示される画面で、bonnectLhtを選択します。
- S 完全インストールを選択します。
- T **[次へ]**をクリックします。
- U 提示されるデフォルト値を確定または拒否してインストールを終了します。

## データベースの更新モジュールを有効にする

- P Assetbenter rerverを起動します。
- 2 **[ファイル/データベースに接続]**メニューを選択します。
- R ダイアログボックスで接続を設定します。
- S **[開く]**をクリックします。
- T **[ツール/モジュールの設定]**メニューを選択します。
- U 以下のモジュールのいずれかを選択します。
  - **[スキャナGhc cHの結果を基にデータベースを更新]**モジュール
  - **[スキャナGochHの結果を基にデータベースを更新]**モジュール
- V モジュールの詳細画面で**[有効]**オプションを選択します。
- W **[変更]**をクリックします。
- 9 **[閉じる]**をクリックします。

## [コンピュータ]テーブルに入力する

- P Assetbenterを起動します。
- 2 **[ツール/アクション/msドメインコンピュータのインポート用ウィザード]**メニューを選択します。
- R **[コンピュータ]**テーブルへインポートするドメインを選択します。
- S **[次へ]**をクリックします。
- T インポートするコンピュータが、選択したドメインに属することを確認します。
- U **[終了]**をクリックします。
- V ステータスバーが100%を示すまで待ちます。
- W **[n j]**をクリックします。

## コンピュータにスキャンを実行する

- P **[コンピュータ]** (rpk名: \mbcomputer) テーブルで、スキャンするコンピュータを選択します。
- 2 **[スキャン]** ボタンをクリックします。
- R **[導入ワークフローの選択]** フィールドで、**[ochスキャン]** または **[hccスキャン]** のいずれかを選択します。
- S **[サーバ]** フィールドで導入サーバを選択します。
- T **[nj]** をクリックします。

## bonnectLhtでlcc / oclからAssetbenterへのシナリオを変更する

- P bonnectLhtのシナリオビルダを起動します。  
デフォルトでは、**[スタート / oeregrine / bonnectLht / bonnectLhtシナリオビルダ]** メニューからアクセスできます。
- 2 **[ファイル / 開く]** メニューを選択します。
- R 以下のシナリオのいずれかを選択します。
  - zbonnectLhtのインストール先フォルダ]N scen\rio\idd\idd\cSP\idd\clscn
  - zbonnectLhtのインストール先フォルダ]N scen\rio\pdi\pdi\cSP\pdi\clscn
- S シナリオのマッピングを変更します。  
マッピングの変更方法については、bonnectLhtの『**ユーザガイド**』を参照してください ([eP] キー)。

## Infrasools cesktop ciscoveryの完全バージョンをインストールする

Assetbenterには、hnfr\sools cesktop ciscoveryの限られたコンポーネントのみが付属しています。

hnfr\sools cesktop ciscoveryの完全バージョンでは、以下のことが可能です。

- カスタムのスキャン用実行可能プログラムを作成する。
- スキャナが識別する新しいソフトウェア署名を追加できる (「\ls\i」ファイル)。

使用するスキャン用ソフトウェアに応じて、「idd\clscn」シナリオまたは「pdi\clscn」シナリオのいずれかを設定する。





# S | ソフトウェア

---

Assetbenterは、企業で使用する様々なソフトウェアを能率的に管理するための機能を提供します。例えば、以下の作業を行うことができます。

- ソフトウェアの特徴に応じて管理する（無料のソフトウェア、所有ソフトウェア、オーダーメイドのソフトウェア）。
- ソフトウェアスイートを管理する（Microsoft Office、Sun Microsystems Officeなど）。
- ソフトウェアのインベントリを定期的に行う。
- ソフトウェアのユーザ数とユーザ情報を把握する。
- ソフトウェアプロバイダに適合していることを確認する。インストール/使用の数をライセンス/資格の数と比較する。
- 内部方針との適合性を確認します。インストール/使用の数を、内部資格の数と比較します。
- ソフトウェアを特定の契約に関連付ける。
- その他。

# 実装

## プロダクション用データベースでのソフトウェアの管理

プロダクション用データベースで作業するためには、システムデータとソフトウェア管理専門分野データをインポートする必要があります。

## データベース作成時のシステムデータのインポート

以下の手順を実行します。

- P Assetbenter c:\t\b\se Administr\torを実行します。
- 2 [ファイル/開く]メニューを選択します。
- R [データベース記述ファイルを開く]新規データベースの作成]オプションを選択します。
- S Assetbenterのインストール先フォルダの「config」サブフォルダにあるファイル「gbb\sel.xml」を選択します。
- T [アクション/データベースの作成]メニューを選択します。
- U [システムデータの作成]オプションをチェックします。
- V 他のフィールドに記入し、データベースの作成を続けます。

## データベース作成時の専門分野データのインポート

以下の手順を実行します。

- P Assetbenter c:\t\b\se Administr\torを実行します。
- 2 [ファイル/開く]メニューを選択します。
- R [データベース記述ファイルを開く]新規データベースの作成]オプションを選択します。
- S Assetbenterのインストール先フォルダの「config」サブフォルダにあるファイル「gbb\sel.xml」を選択します。
- T [アクション/データベースの作成]メニューを選択します。
- U [補足データのインポート]オプションをチェックします。
- V [インポートするデータ]リストから、[ソフトウェア管理]専門分野データ]オプションを選択します。
- W 他のフィールドに記入し、データベースの作成を続けます。

## 既存のデータベースへの専門分野データのインポート

以下の手順を実行します。

- P Assetbenter c:\t\b\se Administr\torを実行します。
- 2 [ファイル/開く]メニューを選択します。

- R [データベース記述ファイルを開く]新規データベースの作成]オプションを選択します。
- S Assetbenterのインストール先フォルダの「config」サブフォルダにあるファイル「gbb\sel.xml」を選択します。
- T [アクション/データベースの作成]メニューを選択します。
- U [データベースの作成]オプションの選択を解除します。
- V [システムデータの作成]オプションの選択を解除します。
- W [補足データのインポート]オプションをチェックします。
- 9 [インポートするデータ]リストから、[ソフトウェア管理]専門分野データ]オプションを選択します。
- P0 [作成]をクリックします。

## Assetbenterのインストールに関する詳細

マニュアル『インストール』を参照してください。

# ライセンス、資格、インストール、使用、契約

ソフトウェアアプリケーションの管理とは、ソフトウェアのライセンス契約/資格、インストール/使用、および関連する契約を管理することを意味します。

## ソフトウェア管理に関連するテーブル

ソフトウェア管理で使用するテーブルは、以下のとおりです。

表 SIMPI ソフトウェア L テーブル

テーブル	使用
属性 (\mm\ture) とモデル (\m   odel)	以下の属性とモデルを作成します。 <ul style="list-style-type: none"> <li>ライセンス/資格</li> <li>インストール/使用</li> <li>契約</li> </ul>

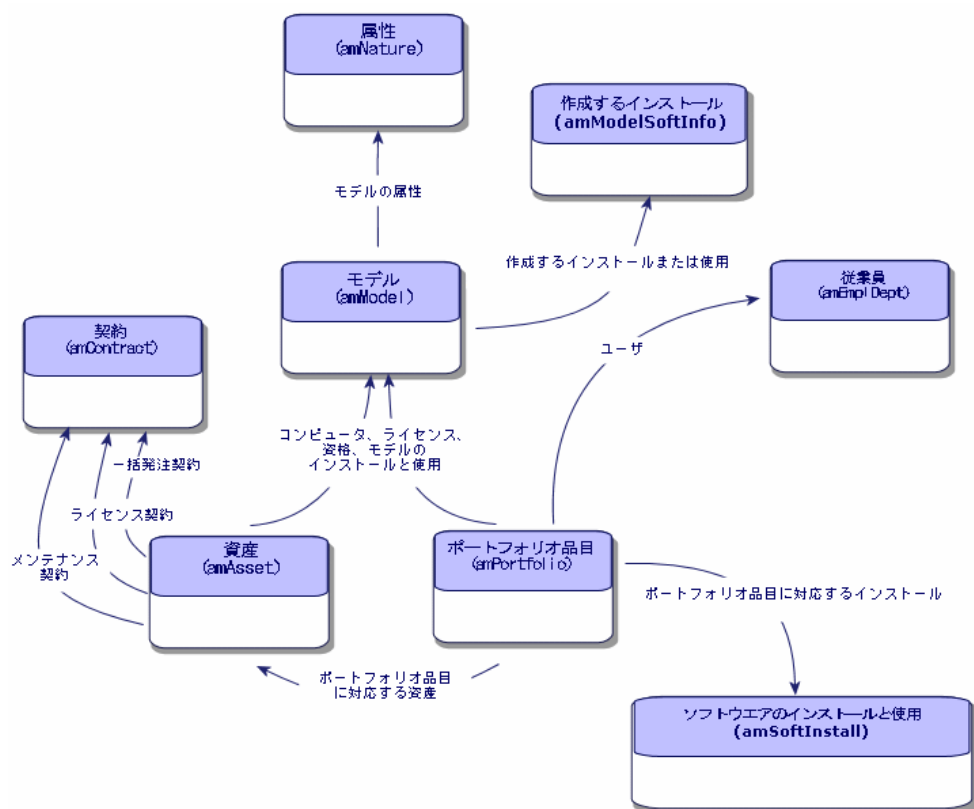
テーブル	使用
ポートフォリオ品目 ( \moortfolio ) およ び資産 ( \mAsset )	<p>インスタンスを作成します。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>ライセンス / 資格</li> <li>インストール / 使用</li> </ul> <p>ポートフォリオ品目は常に作成されま す。</p> <p>資産は以下に対して作成されます。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>すべてのライセンス。</li> <li>資格、インストール、使用。ただし、 これらはモデルに関連付けられてお り、そのモデルは [ 管理条件 ] フィー ルド ( se l gtbonstr \int ) が [ 資産タ グ ] または [ 固有資産タグ ] に設定 された属性と関連付けられている必 要があります ( ▶ R の管理タイプ z 修献 PT ] )。</li> </ul>
インストール済ソフトウェア ( \mroftnst \l )	<p>ソフトウェアのインストール / 使用に対 応するポートフォリオ品目が作成される たびに、対応するレコードが [ インス トール済ソフトウェア ] テーブルに作成 されます。</p>
ソフトウェアカウンタ ( \mroftkicbounter )	<p>カウンタを使うことで、ソフトウェアブ ロバイダと会社の内部方針に適合してい ることを確認できます。</p> <p>カウンタは、インストール / 使用の数 と、ライセンス / 資格の数とを比較しま す。</p>
ワークフローチャート ( \mvfrcheme )	<p>このテーブルには、ソフトウェアライセ ンスの適合性の検証チャートなどのワー クフローチャートが含まれます。</p>
アクション ( \mAction )	<p>このテーブルには、カウンタ作成のため のウィザードなどのウィザードが含まれ ます。</p>
契約 ( \mbontr \ct )	<p>この表では以下のものを作成できます。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>必要に応じて、取得契約 ( ライセン スにリンク ) またはメンテナンス契 約 ( 一般にインストール、場合によっ てはライセンスにリンク ) 。</li> <li>Microsoft relect タイプのマスターリー ス契約。</li> <li>Aro タイプの契約。</li> </ul>

 注意:

一般的には、ポートフォリオ品目と資産を使ってライセンスとインストールを作成します。契約は補完的なもので、ポートフォリオ品目と資産だけではソフトウェア関連の情報を十分に記述できない場合に使用します。

例外として、Aroタイプのライセンスは契約だけで記述されるわけではありません。

## 図 SIMPLI ソフトウェア L 物理データモデル



## インストール/使用とライセンスの間のリンク

以下のQつの方法が選択できます。

- ライセンスとそのインストール/使用を直接リンクする。

このためには、フィールドとAssetbenterデータベースでの詳細なトラッキングが必要です。

この方法を採用する場合、まずライセンスを作成し、次にインストール/使用を作成して、対応するライセンスにリンクします。

- **ライセンスとインストール/使用を別々に管理する。**

これはあまり厳密な方法ではありませんが、最も現実的です。ソフトウェアはライセンスと独立にbclqn lやサーバからインストールされることが多いからです。

この方法を採用する場合、ライセンスは取得時に作成します。インストールは、実行されたとき、または自動ネットワークスキャンで記録されたときに独立に作成します。

ソフトウェアカウンタを使用することにより、ライセンスとインストール/使用の間に直接のリンクがなくても、これらを調整することが可能です。

## 管理タイプ

他の資産およびポートフォリオ品目に関しては、ライセンス、資格、インストール、使用に対する管理タイプを選択する必要があります。

これらの管理タイプは、その重要性と記述方法によって異なります。

- 非常に重要な高価値のソフトウェアに対しては、個別管理を適用します（Assetbenter、rAoなど）。
  - ▶ 資産 z修献 RS]
- 上記のソフトウェアほどの価値はなく、大量に購入するソフトウェアに対しては、一括管理を適用します（ファイル圧縮ソフトウェアなど）。
  - ▶ ロット z修献 RW]
- 無料のソフトウェアのユーザ数を把握する必要がある場合は、非個別管理を適用します（qe\lolyerをはじめとするマルチメディアソフトウェアなど）。
  - ▶ トラッキングしないロット z修献 SR]

## インストール済ソフトウェア

インストール済みソフトウェアはポートフォリオ品目です（▶ **ポートフォリオ品目 z修献 QV]**）。他のポートフォリオ品目の管理と同様に、個別管理、一括管理、または非個別管理のいずれかを選択することができます。

## インストール済ソフトウェアを手動で作成する

インストール済ソフトウェアを作成するには、次の手順に従います。

- P **【オーバーフローテーブル】**フィールド (senverflo•sbl) で**【インストール済ソフトウェア】**を設定して、インストール済ソフトウェアの属性を作成します (▶ **属性 z 修献 QV**)。
  - 2 この属性を基にしてモデルを作成します。
    - 【インストール済ソフトウェア】**タブページの各フィールドに入力します。
    - タブの各フィールドの値は、このモデルを基にして作成されるすべてのインストール済ソフトウェアに継承されます。
- R 上で作成したモデルを基にして、ポートフォリオ品目を作成します。
- S 特に、**【インストール済ソフトウェア】**タブに入力します。

## インストール済ソフトウェアのポイント数

特定の種類のライセンスでは、ソフトウェアをインストールすると、一定のポイント数が消費されます。例えば「Microsoft relect」ライセンスでは、Microsoft v ordをインストールすると、Rポイント消費したことになります。Microsoft v ordのインストール件数がP00の場合、R00ポイント消費したことになります。

ソフトウェアカウンタを使用すると (inegr\phic fileref=AseellpngAll **実用例PbY** **ライセンスポイント**を考慮して特定の部署に範囲を制限 z 修献 POT)、各インストールに関連するポイント数をカウントするかどうかを指定できます。

## インストール / 使用の自動作成

インストール / 使用を手動で作成するのは、手間がかかり、誤りのおそれもあります。

- 手間がかかるのは、対象となる数が多いからです。
- 誤りのおそれがあるのは、何をインストールしたかを管理している場合はほとんどないからです。

インストール / 使用のステータスを反映する最も効率的で信頼性の高い方法は、met•ork ciscoveryやhnr\sools cesktop ciscoveryのような自動ネットワークスキャンツールを使用することです。

cesktop Administr\tionを使用して、定期的なネットワークスキャンを自動的に実行することもできます。

これらのツールを使用することにより、コンピュータごとのインストール数を把握し、その情報をAssetbenterデータベースに反映させることができます。

## [インストール済ソフトウェア]テーブル

インストール済ソフトウェアに対応するレコードが[ポートフォリオ品目]テーブルで作成されると、[インストール済ソフトウェア]テーブルでも対応レコードが作成されます。[インストール済ソフトウェア]テーブルはオーバーフローテーブルです(▶[オーバーフローテーブル](#) z 参考文献 P9)。

[インストール済ソフトウェア]テーブルを表示するには、[ポートフォリオ/インストール済ソフトウェア]メニューを選択します。

ポートフォリオ品目のリスト([ポートフォリオ/ポートフォリオ品目])では、インストール済ソフトウェアに対応するレコードに対して[インストール済ソフトウェア]タブが使用できます。このタブには、この品目に対応する[インストール済ソフトウェア]テーブルのレコードの詳細情報が表示されます。

インストール済ソフトウェアのレコードの詳細情報は、同レコードのモデルの[インストール済ソフトウェア]タブで入力されている情報を再編成したものです。

## ソフトウェアライセンス

ソフトウェアライセンスまたは権利はポートフォリオ品目です(▶[ポートフォリオ品目](#) z 参考文献 QV)。他のポートフォリオ品目の管理と同様に、個別管理、一括管理、または非個別管理のいずれかを選択することができます。

## ソフトウェアライセンスを作成する

ソフトウェアライセンスを作成するには、次の手順に従います。

- P **[オーバーフローテーブル]**フィールド (senverflo•sbl) で **[なし]**を設定し、**[ソフトウェアライセンス]**オプションを選択して、属性を作成します(▶[属性](#) z 参考文献 QV)。
- 2 この属性を基にしてモデルを作成します。
- R **[ライセンス]**タブページの各フィールドに入力します。  
ここで入力するフィールドの値は、このモデルを基にして作成されるすべてのソフトウェアライセンスに継承されます。
- S 上で作成したモデルを基にして、ソフトウェアライセンスを**[資産]**テーブルに作成します。
- T 特に、**[ライセンス]**タブに入力します。



# ソフトウェア管理

## 概要

### ソフトウェア管理の目的

ソフトウェア管理は、以下に対する適合性のチェックを目的とします。

- ソフトウェアプロバイダ
- 内部方針

### ソフトウェアカウンタの使用

ソフトウェア管理は、ソフトウェアカウンタを使って実現されます。

ソフトウェアカウンタは、ライセンス / 資格とインストール / 使用の間の調整に用いられます。

これらのカウンタは、選択したテーブルのレコード（従業員やコストセンタなど）によってグループにまとめることができます。

### カウンタ、ライセンス / 資格、インストール / 使用の間のリンク

カウンタの定義はきわめて柔軟性があります。

以下の条件に合わせることができます。

- ライセンス / 資格およびインストール / 使用を記述する方法（このためにはさまざまな方法があります）
- データを分析する方法（従業員、サイトなど）

---

#### ヒント:

カウンタは、ソフトウェア権限およびインストール / 使用以外の目的にも使用できます。

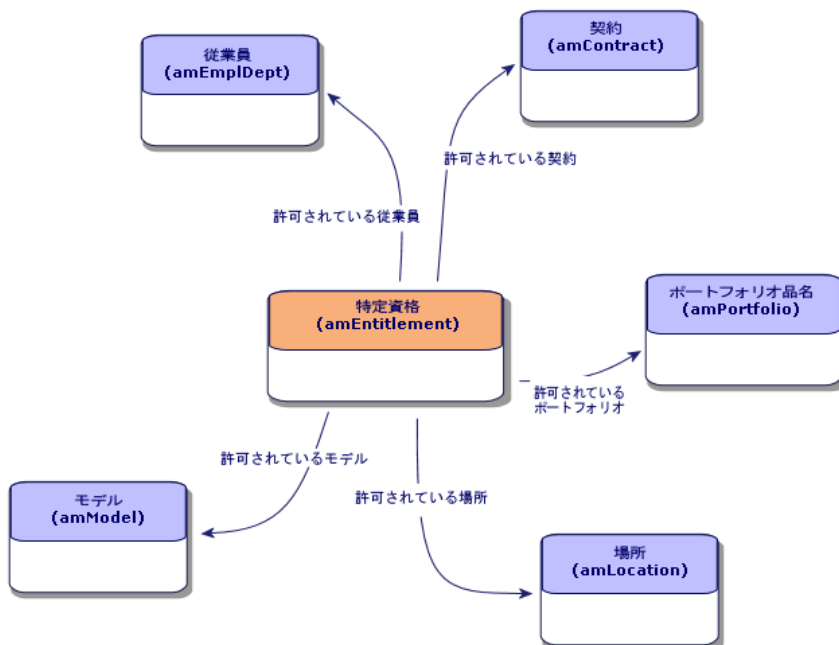
---

ここに記すカウンタ使用の指針は、可能なあらゆる場合を想定しているわけではありません。

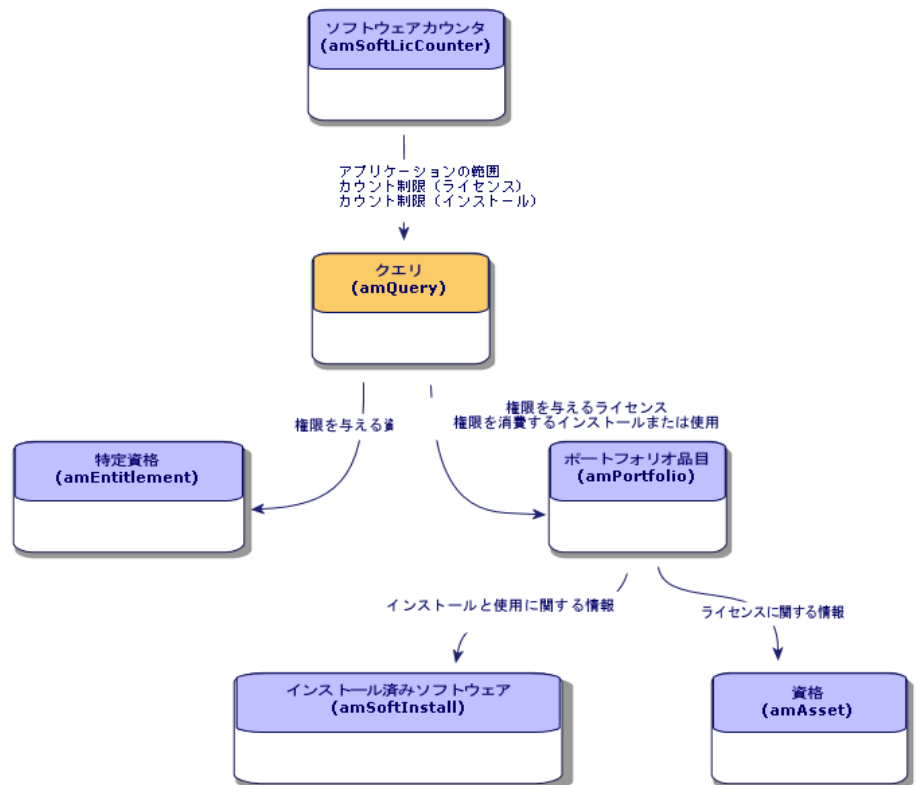
## カウンタにリンクされたメインテーブル

## 図 SIMQII ソフトウェア L カウンタにリンクされたテーブル

図 S1R11 ソフトウェア L 特定資格に関連するテーブル



## 図 S11S11 ソフトウェアLカウンタ、資格、ポートフォリオ品目の間のリンク



カウンタとカウントされるオブジェクトとの間には直接のリンクは存在しません。このリンクはクエリによって確立されます。

この方法によって、カウンタの柔軟性は大幅に高まります。ただし、このためには適切なクエリを設計する必要があります。

## ソフトウェアカウンタの作成

カウンタを作成するには、その対応する詳細のフィールドに直接入力します。

単純なカウンタを作成するには、**【単純カウンタの作成】**ウィザードを使用します。

また、**【カウンタの作成】**ウィザードを使うことで、あらゆるタイプのカウンタを作成できます。このウィザードは、カウンタ作成の手順を順を追って案内します。この方法で作成したカウンタは、もちろん詳細画面から直接変更することができます。

## カウンタの直接作成

カウンタを直接作成するには、次の手順に従います。

- P カウンタを表示します（**【ポートフォリオ/ソフトウェアカウンタ】**メニュー）。
- 2 **【新規作成】**をクリックします。
- R 詳細の上半分、特に以下のフィールドとリンクに記入します。
  - **【グループ】**（bontext）<sup>Y</sup>例えば、**【結果】**タブに従業員ごとのカウンタ行を表示したい場合は、**【従業員】**（amdmpcept）テーブルを選択します。
  - **【アプリケーションの範囲】**（cefnition）<sup>Y</sup>**【グループ】**フィールドに示されたフィールドの一部のレコードだけを考慮したい場合は、クエリを作成して選択します。
- S **【権利】**タブ、特に以下のフィールドとリンクに記入します。
  - **【権限カウンタのコンテキスト】**（kicbontext）<sup>Y</sup>例えば、ライセンス権限を考慮したい場合は、**【資産】**（amAsset）テーブルを選択します。
  - **【カウント制限GライセンスH】**（kicquery）<sup>Y</sup>権限をカウントしたいレコードを識別するクエリを作成して選択します。
  - **【権限L】グループリンク】**（kicfroupay）<sup>Y</sup>**【権限カウンタのコンテキスト】**フィールドで指定されたテーブルから**【グループ】**フィールドで指定されたテーブルへのリンクを指定します。例えば、**【資産】**（amAsset）テーブルから**【従業員】**（amdmpcept）テーブルへのリンクの場合、「oortfoliohtemlltser」のようになります。
  - **【計算方法】**枠のフィールドにも記入します。これらは権限カウントを得るために必要な計算を示します。
- T **【インストール/使用】**タブ、特に以下のフィールドとリンクに記入します。

- [インストール使用カウンタのコンテキスト] (hnstbontext) Y 例えば、インストール済ソフトウェアを考慮したい場合は、[インストール済ソフトウェア] (amrofthninstall) テーブルを選択します。
- [カウント制限インストールH] (roftthnstpuery) Y インストール/使用をカウントしたいレコードを識別するクエリを作成して選択します。
- [インストール使用L] グループリンク] (hnstfroupay) Y [インストール使用カウンタのコンテキスト] フィールドに指定されたテーブルから、[グループ] フィールドに指定されたテーブルへのリンクを指定します。例えば、[インストール済ソフトウェア] (amrofthninstall) テーブルから [従業員] (amdmplicept) テーブルへのリンクは、oortfoliohtemloarentllt ser のようになります。
- [計算方法] 枠のフィールドにも記入します。これらはインストール/使用カウントを得るために必要な計算を示します。

U [作成] をクリックします。

## ウィザードを使ったカウンタの作成

カウンタの作成には、[単純カウンタの作成] または [カウンタの作成] ウィザードを使用するのが便利です。

- [単純カウンタの作成] を使えば、特定のモデルにリンクされたライセンスとインストールを比較するカウンタをすばやく作成できます。ライセンスとインストールは従業員によってグループ分けされます。

### 重要項目:

ライセンスモデルとインストール済みモデルを選択するウィザード画面が表示されます。

ただし、ライセンスとインストール数の計算の参考として上記のモデルが使用されない場合は、**モデル参照番号** フィールド (lodelqef) の値が使用されます。

**モデル参照番号** フィールドの値が同じモデルはすべて使用されます。

したがって、このフィールドは選択したライセンスモデルおよびインストール済みモデルごとに必ず入力してください。

ウィザードで生成されたライセンス選択クエリの例:

```
lodelll lodelqef = fobP L oo • erooint L インストールf
```

ポートフォリオ品目テーブル (moortfolioH) をコンテキストとして使用する  
場合

- **【カウンタの作成】**ウィザードを使えば、ライセンスや資格に関するさまざまな種類のカウンタを作成できます。モデルカウンタをリファレンスとして使用します。

これらのウィザードを使用するには、次の手順に従います。

P **【ツール/アクション】**メニューからウィザードを選択します。

2 ウィザードの指示に従います。

## 必要条件

**【カウンタの作成】**ウィザードを使用するには、カウンタテンプレートが動作する必要があります。

## テスト用データベースを使ってカウンタを作成する場合の注意事項

**【カウンタの作成】**ウィザードを使って資格カウンタを作成する場合、Assetbenterは一部のレコードを主キーで識別するクエリを作成します。

カウンタの**【権限カウントの範囲】**（kicquery）に関連するクエリの例を示します。

```
0bcep\rtment = OH Amc 6ldmpl cepthd = PUSH
```

テスト用データベースでカウンタを作成したあと、プロダクション用データベースに転送（エクスポートしてインポート）した場合、クエリ中の識別子はおそらく間違ったレコードを参照しています。

例えば、識別子「PUS」は、テスト用データベースでは「lrl coe」だが、プロダクション用データベースでは「lrs cour」かもしれません。

ソフトウェアカウンタとそのクエリをプロダクション用データベースにインポートしたあとは、カウンタに関連するクエリを確認する必要があります。

### ヒント:

もう1つの方法としては、クエリでレコードを識別する主キーとしてもっと安定したフィールドを使用します。例えば、名前やコードなどです。

### ヒント:

データキットの中にあるソフトウェア資産管理専門分野データに、いくつかのカウンタテンプレートが用意されています。



## 関連する参照フィールド

ライセンス / 資格およびインストール / 使用に関連する情報は、いくつかの場所にあります。

次の表は、カウントに使用できるフィールドの例です。

表 S11Q1 ソフトウェア L カウンタ: カウントに使用できるフィールド

テーブル	フィールド
ポートフォリオ品目 (\moortfolio)	数量 (fpty)
インストール済ソフトウェア (\mroftnst\II)	インストール数 (I t sebount)
資産 (\mAsset)	権利 (I roftkic t seqights)

次の表は、使用とインストールの識別に使用できるフィールドの例です。

表 S11R11 ソフトウェア L カウンタ: 使用 / インストールの識別に使用できるフィールド

テーブル	フィールド
属性 (\mm\ture)	オーバーフローテーブル ( senverflo • sbl )
	名前 ( m\me )
インストール済ソフトウェア (\mroftnst\II)	認証 ( seAuthoriz\tion )
	インストールタイプ ( sesype )
	ローカル / リモート ( bkoc\I )
	[ ソフトウェアスイートのコンポーネント ] ( bruitebomponent )
[ モデル ] (\m l odel)	名前 ( m\me )
	nr ( roftnr )
	バージョン ( uersionkevel )
	モデル参照番号 ( l odelqefH )

下の表は、ライセンスと資格の識別に使用できるフィールドの例です。

## 表 S11R ソフトウェアカウンタ: ライセンス / 資格の識別に使用できるフィールド

テーブル	フィールド
属性 (\mm\ture)	ライセンス (broftkicense)
	名前 (m\me)
資産 (\mAsset)	設置日 (dhnst\II)
	ライセンスのタイプ (seroftkicsype)
	ユーザのタイプ (seroftkic lulti)
モデル (\m lodel)	名前 (m\me)
	nr (roftnr)
	バージョン (uersionkevel)
	モデル参照番号 G lodelqefH

## ソフトウェアカウンタの結果の更新

カウンタの結果を更新するには、次の手順に従います。

- P カウンタを表示します ( [ポートフォリオ/ソフトウェアカウンタ] メニュー )。
- 2 更新するカウンタを選択します。
- R [計算] をクリックします。

### 注意:

[計算] ボタンが表示されていない場合、カウンタがテンプレートとして用いられているのが原因です ( [テンプレートとして使用] フィールド (bsype) が [はい] に設定されている )。

- S [全般] タブを表示します。カウンタはここに一覧表示されます。
- T [結果] タブを表示します。カウンタに対して定義された制限範囲の中で、グループテーブル ( [グループ] (コンテキスト) フィールド) の各レコードに対してP行ずつが与えられます。

## 定期削除

[計算] をクリックするたびに、[結果] タブに表示される行のそれぞれに対して、[権利/使用カウント] テーブル (\mqights tsesbount) にレコードが作成されます。

[結果] タブに表示されるのは、[計算] ボタンをクリックして実行された最後の計算の結果だけです。

ただし、以前の結果は消去されてはいません。

これらの結果を使って、ライセンス/資格およびインストール/使用の進展をトラッキングし、レポートを作成したりすることができます。

【権利/使用カウント】テーブルが大きくなりすぎた場合は、このテーブルの不要なレコードを定期的に削除することをお勧めします。



#### ヒント:

同じ計算で生成されたレコード同士では、【結果識別子】(lqesulthd) フィールドと【カウント日】(dtbountrequest) フィールドの値が一致します。

## 「旧モード」カウンタ

AssetbenterのバージョンS11R10では、カウンタの機能が全面的に改良されています。

ただし、Assetbenterの旧バージョンから移行したカウンタもそのまま使用できるように、「旧モード」のカウンタがサポートされています。

### 「旧モード」カウンタの使用

- P 画面一覧を表示します（【管理/画面一覧】メニュー）。
- 2 リストのヘッダーで【画面】をクリックします。
- R 【ソフトウェアカウンタ（従来の形式）】(sysldamroftkicbounter) を検索します。
- S この画面を開きます。

### 「旧モード」カウンタに関する情報

「旧モード」の詳細については、マニュアル『Assetbenter S11Q10 L ポートフォリオ』の「ソフトウェア」の章の「ソフトウェアカウンタ」の節を参照してください。

### 「旧モード」カウンタの変換

S11Rよりも前のバージョンのデータベースのマイグレーションを行った場合、カウンタはそのままインポートされます。

カウンタは従来と同様にそのまま使用できます。

カウンタをアップグレードしたい場合は、従来のカウンタを参考にして新しいカウンタを作成することをお勧めします。

# 契約をソフトウェアライセンス、資格、使用、またはインストールにリンク

契約をソフトウェアライセンス、資格、使用、またはインストールにリンクすることにより、これらの品目に関連する契約の情報を記述できます。

ポートフォリオ品目を契約にリンクするには、資産テーブルに記録する必要があります。

▶ 資産を契約に関連付ける [資産 TR]

## 実用例

### 一般情報と必要条件

#### 一般情報

実用例は、Assetbenterを使ってソフトウェアを管理する方法を示します。

実用例はそれぞれ、ソフトウェア管理の特定の側面を扱っています。

実用例を正しく動作させるには、各ステップを最後まで実行し、示された手順に従う必要があります。基本的なフィールドとリンクだけが示されていません。他のフィールドやリンクを自分で調べてみてもかまいません。

#### 必要条件

実用例を実行するには、以下のことを実行しておく必要があります。

- P Assetbenterのデモ用データベースに接続する。
- 2 **【ファイル/モジュールの起動】**メニューを使って、少なくとも**【ポートフォリオ】**、**【調達】**、**【ファイナンス】**、**【契約】**、**【管理】**の各モジュールを起動しておく。

# 実用例Pa: ライセンスとインストールに対する単純なカウンタの作成

## はじめに

この単純な実用例は、カウンタの基本的な使用法を説明するためのものです。

実用例のシナリオ

- 目的は、ooweroointアプリケーションがどのように導入されているかを調べることです。
- ooweroointのユーザ権限は、ポートフォリオ品目テーブルの「obPL oowerooint」というライセンスで記録されます。  
ライセンスはユーザと直接にリンクしています。
- ooweroointのインストールは、ポートフォリオ品目テーブルの「obPL oowerooint L インストール」というインストールで記録されます。  
インストールはユーザと直接にリンクしています。  
PつのインストールはPつのライセンスを消費します。

実用例の主要段階

- P 部署とユーザの作成
- 2 ライセンス、インストール、コンピュータ属性の作成
- R ライセンス、インストール、コンピュータモデルの作成
- S コンピュータ、ライセンス、インストールのポートフォリオ品目の作成
- T カウンタの作成

## 実行する手順

### 部署を作成します。

- P 部署と従業員を表示します（[ポートフォリオ/部署と従業員]メニュー）。
- 2 下の表に示すフィールドとリンクに入力して、以下のレコードを作成します。

レコードP	
名前 (m\me)	obPL マーケティング

レコードQ	
名前 (m\me)	obPL 研修

## 従業員を作成します

- P 部署と従業員を表示します（[ポートフォリオ/部署と従業員]メニュー）。
- 2 下の表に示すフィールドとリンクに入力して、以下のレコードを作成します。

レコードR	
名前 (m\me)	obPL coe
部署 (o\rent)	obPL マーケティング

レコードS	
名前 (m\me)	obPL rmith
部署 (o\rent)	obPL 研修

## 属性を作成します。

- P 属性を表示します（[ポートフォリオ/属性]メニュー）。
- 2 下の表に示すフィールドとリンクに入力して、以下のレコードを作成します。

レコードP	
名前 (m\me)	obPL コンピュータ
作成 (sea\sis)	ポートフォリオ品目
オーバーフローテーブル (senverflo•sbl)	コンピュータ (\mbcomputer)
管理条件 (se lgtbonstr\int)	固有資産タグ
ソフトウェアをインストール (bg\sroftnst\ll)	はい

レコードQ	
名前 (m\me)	obPL ライセンス
作成 (sea\sis)	ポートフォリオ品目

レコードQ	
オーバーフローテーブル (senverflo•sbl)	(テーブルなし)
管理条件 (se lgtbonstr\int)	固有資産タグ
ライセンス (broftkicense)	はい

レコードR	
名前 (m\me)	obPL インストール
作成 (sea\sis)	ポートフォリオ品目
オーバーフローテーブル (senverflo•sbl)	インストール済ソフトウェア (\mroftnst\II)
管理条件 (se lgtbonstr\int)	個別管理しない

## モデルを作成します

- 1 P モデルを表示します ( [ポートフォリオ/モデル] メニュー )。
- 2 下の表に示すフィールドとリンクに入力して、以下のレコードを作成します。

レコードP	
名前 (m\me)	obPL コンピュータ
属性 (m\ture)	obPL コンピュータ

レコードQ	
名前 (m\me)	obPL oo•erooint L ライセンス
属性 (m\ture)	obPL ライセンス
モデル参照番号 G l odelqefH	obPL oo•erooint L ライセンス

レコードR	
名前 (m\me)	obPL oo•erooint L インストール
属性 (m\ture)	obPL インストール
モデル参照番号 G l odelqefH	obPL oo•erooint L インストール

## ポートフォリオ品目を作成します。

- 1 P ポートフォリオ品目を表示します ( [ポートフォリオ/ポートフォリオ品目] メニュー )。
- 2 下の表に示すフィールドとリンクに入力して、以下のレコードを作成します。

レコードP	
モデル ( lodel )	obPL コンピュータ
ユーザ ( tser )	obPL coe

レコードQ	
モデル ( lodel )	obPL oo•erooint L ライセンス
ユーザ ( tser )	obPL coe

レコードR	
モデル ( lodel )	obPL oo•erooint L インストール
ユーザ ( tser )	obPL coe
数量 ( fpty )	P

## カウンタを作成します。

- P **【単純カウンタの作成】**ウィザードを開始します ( **【ツール/アクション/単純カウンタの作成】**メニュー )。
- 2 下の表に示すフィールドとリンクに記入します。

レコード	
ライセンスのモデル	obPL oo•erooint L ライセンス
インストールのモデル	obPL oo•erooint L インストール
カウンタを作成し、権限と使用を計算します	オプションを選択します

- R **【終了】**をクリックします。

## ウィザードが作成したカウンタを確認します

- P カウンタを表示します ( **【ポートフォリオ/ソフトウェアカウンタ】**メニュー )。
- 2 カウンタ **【obPL ooweroointのライセンスとインストールの単純なカウンタ】**を選択します。
- R 画面上部を確認します。  
**【グループ】** ( bontext ) †このフィールドは、 **【従業員】** ( amdmpcept ) ( デフォルト値 ) に設定されます。実用例Pbで、このフィールドの使用目的と、 **【アプリケーションの範囲】** ( cefinition ) フィールドとの関連付けについて説明しています。
- S **【全般】**タブを表示します。カウントはここに一覧表示されます。



- T **【結果】** タブを表示します。obPL coeに対応するP行が見られます。  
このユーザは適合しています。インストール済ソフトウェアにはP個の対応するライセンスがあります。
- U **【権利】** タブを表示します。  
ウィザードによって【obP**ライセンス** L oowerooint L **ライセンス**】クエリが作成されています。これは、モデルが【obPLooweroointL**ライセンス**】であるポートフォリオ品目を識別するために用いられます。  
【**権限計算モード**】(sekicbount l ode) は、【**単純カウント**】に設定されます。カウンタは権限ポイントを考慮しません。
- V **【インストール/使用】** タブを表示します。  
ウィザードによって【**インストール**obPL oowerooint L **ライセンス**】クエリが作成されます。これは、モデルが【obPLooweroointL**インストール**】であるポートフォリオ品目を識別するために用いられます。  
【**権限計算モード**】(sekicbount l ode) は、【**単純カウント**】に設定されます。カウンタは権限ポイントの消費を考慮しません。

## 実用例Pb: ライセンスポイントを考慮して特定の部署に範囲を制限

### はじめに

この単純な実用例は、以下の場合のカウンタの原則を説明するためのものです。

- 複数の使用/インストールポイントに対してPつのソフトウェアインストールカウント。
- **【グループ】**( bontext) リンクで選択されたテーブルのレコードをフィルタする範囲を定義します。

この実用例のシナリオは、以下の点を除いて実用例P\と同一です。

- PつのooweroointインストールはQつのライセンスポイントを消費します。
- インストールはユーザのコンピュータにリンクしています。
- カウンタは、部署「obPL **マーケティング**」の各ユーザについて、ooweroointに対して取得されたライセンス数を宣言された確認済インストール数と比較します。

実用例の主要段階

- P 最初の手順は実用例P\と一致します。
- 2 リンクとインストールポイント数の変更。
- R カウンタの作成

## 実行する手順

### 警告:

この実用例は、必ず実用例P\を最後まで実行してから実行する必要があります。

## リンクとライセンスポイント数を変更します

- P ポートフォリオ品目を表示します（[ポートフォリオ/ポートフォリオ品目]メニュー）。
- 2 [obPL oowerooint L インストール]を選択します。
- R 下の表に示すフィールドとリンクに記入して、レコードを変更します。

### [全般] タブ

親レコード (o\rent)	P obPL コンピュータ
----------------	---------------

### [hinstallog] タブ

ポイント数 (ltsebount) (インストール Q  
済ソフトウェアリンク)

## ライセンス数の変更

- P ポートフォリオ品目を表示します（[ポートフォリオ/ポートフォリオ品目]メニュー）。
- 2 [obPL oowerooint L ライセンス]を選択します。
- R 以下の表に示すフィールドとリンクを入力して、レコードを変更します。

### [ライセンス] タブ

権利 (lroftkic tseqights)	P
-------------------------	---

## カウンタに必要なクエリを作成します。

- P クエリを表示します（[ツール/クエリ]メニュー）。
- 2 下の表に示すフィールドとリンクに入力して、以下のレコードを作成します。

	レコードP マーケティング部署の従業員だけを含める ために用いられます。
名前 (m\me)	obPL マーケティング部署の従業員

**レコードP**

マーケティング部署の従業員だけを含めるために用いられます。

テーブル (s\blem\me)	従業員 (\mdmplcept)
クエリタイプ (sesype)	カウンタ
クエリ (mempuerysext)	o\rentleullm\me kh j d \nobPL マーケティング

**レコードQ**

ライセンスを識別するために用いられます。

名前 (m\me)	obPLoo•eroointL ライセンス
クエリタイプ (sesype)	カウンタ
テーブル (s\blem\me)	ポートフォリオ品目 (\moortfolio)
クエリ (mempuerysext)	I odellm\me = fobPLoo•eroointL ライセンス

**レコードR**

インストールを識別するために用いられます。

名前 (m\me)	obPLoo•eroointL インストール
クエリタイプ (sesype)	カウンタ
テーブル (s\blem\me)	インストール済ソフトウェア (\mroftnst\II)
クエリ (mempuerysext)	oortfoliohtem\I odellm\me = fobPLoo•eroointL インストール

## カウンタの作成

- 1 カウンタを表示します ([ポートフォリオ/ソフトウェアカウンタ]メニュー)。
- 2 下の表に示すフィールドとリンクに入力して、以下のレコードを作成します。

**レコード**

名前 (m\me)	obPbL マーケティング部署のoo•eroointインストール
モデルとして使用 (bsype)	いいえ
グループ (bontext)	従業員 (\mdmplcept)

## レコード

アプリケーションの範囲 ( cefinition )	obPL マーケティング部署の従業員
権限カウンタのコンテキスト ( kicbontext )	ポートフォリオ品目 ( \moortfolio )
カウンタ制限GライセンスH ( kicpuery )	obPL oo•erooint L ライセンス
権限 L] グループリンク ( kic froupay )	ユーザ
権限計算モード ( sekicbount l ode )	ポイントカウンタ
インストールM使用カウンタのコンテキスト ( hnstbontext )	インストール済ソフトウェア ( \mroftnst\ll )
カウンタ制限GインストールH ( roftnstpuery )	obPL oo•erooint L インストール
インストールM使用 L] グループリンク ( hnst froupay )	oortfoliohtem\lo\rent\l t ser
インストールM使用計算モード ( sehnst\llbount l ode )	ポイントカウンタ



注意:

【インストール/使用の計算式】 ( hnstbountrpk ) フィールドには新しい値が与えられます。

```
rt | GGooortfoliohtem\l fpty | l t se bount HH
```

【権限の計算式】 ( kicbountrpk ) フィールドには新しい値が与えられます。

```
rt | GGfpty | Asset\ll roftkic t seqights HH
```

## カウンタの結果の更新

- P カウンタを表示します ( [ポートフォリオ/ソフトウェアカウンタ] メニュー )。
- 2 カウンタ [ obPbL マーケティング部署のooweroointインストール ] を選択します。
- R 【計算】 ボタンをクリックします。
- S 【全般】 タブを表示します。カウンタはここに一覧表示されます。



注意:

【使用Mインストールカウンタ】 ( droftnst\llbount ) フィールドの値は、PでなくQになります。

- T 【結果】 タブを表示します。obPL coelに対応するP行が見られます。これは範囲内にいるただP人のユーザです。

ソフトウェア会社と適合していません。ユーザはPつの権利しか持たないのに、Qつを使用しています。

## 実用例Pc: 権利の内部割り当て

### はじめに

この単純な実用例は、特定資格を使用するカウンタの原則を説明するためのものです。

実用例のシナリオ

- 目的は、会社の内部資格方針に照らしてooweroointがどのように導入されているかを調べることです。
- ooweroointに対する内部ユーザ権限が [ 特定資格 ] テーブルに指定されています。
- ooweroointのインストールは、ポートフォリオ品目テーブルにobP L oowerooint L **インストール**というインストールで記録されます。インストールはユーザのコンピュータにリンクしています。PつのインストールはPつのライセンスを消費します。
- カウンタは、特定資格 [ obPcL ooweroointの**特定ユーザ権限** ] に記載された各ユーザについて、ooweroointに対して宣言されたユーザ権限を記録済のインストールと比較します。

実用例の主要段階

- P 最初の手順は実用例P\およびPbと一致します。
- 2 特定資格を作成します。
- R カウンタの作成

### 実行する手順



**警告:**

この実用例は、必ず実用例P\およびPbを最後まで実行してから実行する必要があります。

### 特定資格の作成

- P 特定資格を表示します ( [ **ポートフォリオ / 特定資格** ] メニュー ) 。
- 2 下の表に示すフィールドとリンクに入力して、以下のレコードを作成します。

	レコードP
名前 (m\me)	obPcL oo•eroointに対する特定ユーザ権限
<b>[従業員]タブ</b>	
	obP L coe
	obP L rmith

## カウンタに必要なクエリを作成します。

- クエリを表示します ( [ ツール/クエリ ] メニュー ) 。
- 下の表に示すフィールドとリンクに入力して、以下のレコードを作成します。

	レコードP
	<b>特定資格に関連する従業員を選択するために用いられます。</b>
名前 (m\me)	obPcL oo•eroointに対する特定ユーザ権限
クエリタイプ (sesype)	カウンタ
テーブル (s\blem\me)	従業員 (\mdmplcept)
クエリ (mempuerysext)	ldmplcepthd hm Gr dkdbs rlldmplcepthd eqn l \mqeldmpldntitl rk \mdntitlement e v gdqd Grllldntitlhd = ellldntitlhdH Amc Gellm\me = FobPc L oo•eroointに対する特定ユーザ権限HH

## クエリの説明

- [テーブル]** (sablemame) フィールドは、**[従業員]** (amdmpcept) に設定されます。クエリは**[従業員]** (amdmpcept) テーブルからレコードを返します。
- [ldmplcepthd hm GMMH]** は、**[ldmplcepthd]** フィールドが **[hm GMMH]** 条件で返されるテーブルに含まれるレコードを選択するために用いられます。
- rdkdbs rlldmplcepthd eRn l amReldmpldntitl rk amdntitlement e v gdRd GMMHY** この句は、関係テーブル**[従業員の資格]** (amReldmpldntitl) のレコードのうち、**v gdRd GMMH**句に一致するものを選択するために用いられます。
- rllldntitlhd = ellldntitlhdY v gdRd GMMH**句の最初の条件です。この条件は、**[従業員の資格]** (amReldmpldntitl) のレコードのうち同じ特定資格 (**[ldntitlhd]** フィールドで識別される資格) に属するものをグループ分けするために用いられます。
- ellmame = FobPc L ooweroointの特定ユーザ権限FY v gdRd GMMH**句のQ番目の条件です。この条件は、**[特定資格]** (amdntitlement) テーブルの

レコードのうち、【名前】フィールドが【obPcLooeroointの特定ユーザ権限】に設定されているものを選択するために用いられます。

- すなわち、このクエリは、【従業員】テーブルのレコードのうち、特定資格【obPcLooeroointの特定ユーザ権限】にリンクされているものを返します。

## ニーズに合わせたクエリの変更

特定資格を使用するカウンタは、すべてこのタイプのクエリを使用します。

実用例で定義されているクエリを、他のカウンタのための基礎として使用できます。

変更の例

- 【権限カウンタのコンテキスト】(kicbontext)フィールドが【従業員】(amdmpcept)に設定されていない場合、【ldmpcepthd】が現れるところをすべて、【権限カウンタのコンテキスト】フィールドで選択されたテーブルの識別子に置き換えます。

さらに、【amReldmpldntitl】を、適切な関係テーブルのrpk名(【amReldntitlkoc】、【amReldntitloortf】、【amReldntitlbcontract】または【amRelldelntitl】)で置き換えます。

- 【obPcLooeroointの特定ユーザ権限】を、権限をカバーしている資格の名前に置き換えます。

## カウンタの作成

- カウンタを表示します(【ポートフォリオ/ソフトウェアカウンタ】メニュー)。
- 下の表に示すフィールドとリンクに入力して、以下のレコードを作成します。

	レコード
名前 (m\me)	obPcLooeroointの特定インストール
モデルとして使用 (bsype)	いいえ
グループ (bontext)	従業員 (\mdmpcept)
権限カウンタのコンテキスト (kicbontext)	従業員 (\mdmpcept)
カウント制限 <sup>G</sup> ライセンス <sup>H</sup> (kicpquery)	obPcLooeroointに対する特定ユーザ権限
権限L] グループリンク (kicfroupay)	dntitlementldntitledmp
権限計算モード (sekicbountlode)	単純カウント
インストール <sup>M</sup> 使用カウンタのコンテキスト (hnstbontext)	インストール済ソフトウェア (\mrofhnst\ll)

	レコード
カウント制限GインストールH ( rofthnstpuery )	obP L oo•erooint L インストール
インストールH使用 L] グループリンク ( hnst f roupay )	oortfoliohtemllO\rentll t ser
インストールH使用計算モード ( sehnst\llbount l ode )	単純カウント

## カウンタの結果の更新

- P カウンタを表示します（ [ ポートフォリオ/ソフトウェアカウンタ ] メニュー）。
- 2 カウンタ [ obPc L oowerooint の特定インストール ] を選択します。
- R [ 計算 ] ボタンをクリックします。
- S [ 全般 ] タブを表示します。カウントはここに一覧表示されます。
- T [ 結果 ] タブを表示します。obP L coeにP行、obP L rmithにP行が与えられています。
- どちらのユーザも、内部方針に適合しています。
- [ obP L coe ] だけが対応する権利を使い尽くしています。

## 実用例Q: Microsoft r elect契約

### はじめに

この詳細な実用例は、Microsoft r elect契約を管理する方法を示します。

### Microsoft r elect 6ll0契約について

- これらは中規模から大規模の会社を対象としています。
- R年間のターゲット購入数量に基づいています。  
このターゲット数量は、以下の製品グループで会社が購入しようとしているライセンスの合計数を対象とします。
  - アプリケーション製品
  - システム製品
  - サーバ製品
- これらのグループのそれぞれにおいて、最善の料率が得られるように会社は購入を調整することができます。



ソフトウェアの価値はそれぞれ異なるため、relectプログラムではライセンスをカウントする代わりに、ライセンスポイントという方式を採用しています。

また、ライセンスポイントが使用可能な場合、顧客は自動的にソフトウェアをコピーしてこれらのコピーを使用することができます。

- 価格レベルはSつあり、Rつの製品グループのそれぞれにおけるR年間のターゲット購入数量に基づいて決まります。
- 以下の購入方法を選択できます。
  - ライセンスのみ (kH)。  
ライセンス (k) は、ソフトウェア製品のフルバージョンのインストールを可能にします。
  - ソフトウェアアシュアランス (rA)  
rAライセンスは、relect契約の期間中に、すべてのアップデート (メジャー、マイナー、サービスパック、パッチなど) の権利を保障します。
  - ライセンス+ソフトウェアアシュアランス (k+rA)

## 実用例での Microsoft relect契約に関する基本的情報

- 開始日Y Q00R年P月P日
- 終了日Y Q00U年PQ月RP日
- 主契約は、会社と Microsoftとの間のマスター契約です。  
マスターリースは、**アプリケーションプール**への新ライセンスの取得を対象とする一括発注契約にリンクしています。この契約は特に、R年間のターゲットポイント数 (PT00ポイント) を定義しています。この契約はまた、新ライセンス (P回だけ取得される) の取得に対するリファレンスとしても用いられます。  
一括発注契約は、**アプリケーションプール**のライセンスのアシュアランスを対象としたメンテナンス契約にリンクしています。
- 会社は契約の範囲内で、dxcelとorobjectのQつのアプリケーションを導入します。
- この契約が発効するまでは、会社はP00個のdxcelライセンスとP0個のorobjectライセンスを所有していました。  
P00個のdxcelライセンスは、relectソフトウェアアシュアランスの対象となります。  
P0個のorobjectライセンスのアップデートは、relect契約の対象ではありません。
- 会社はrelectソフトウェアアシュアランスを含むR00個のdxcelライセンスを新たに購入します。

また、ソフトウェアアシュアランスを含まない100個のProjectライセンスを新たに購入します。

## 実用例で管理する側面

- 取得ポイント数を確認し、契約ターゲットと比較する（契約の経済的側面）。  
特殊フィールドを使って、ターゲットポイント数と実際に取得されたポイント数が比較されます。
- インストール数がライセンス数に適合することを確認する。  
カウンタを使って、インストール数と購入ライセンス数が比較されます。

## 実用例の主要段階

- P 属性とモデルの作成。
- 2 契約の作成。
- R ポートフォリオ品目の作成。
- S カタログリファレンスの作成。
- T 依頼と発注の作成。
- U 特殊フィールドの作成。
- V カウンタの作成

## 実行する手順

### 属性を作成します

- P 属性を表示します（[ポートフォリオ/属性]メニュー）。
- 2 下の表に示すフィールドとリンクに入力して、以下のレコードを作成します。

レコードP	
名前 (m\me)	obQL コンピュータ
作成 (sea\sis)	ポートフォリオ品目
オーバーフローテーブル (senverflo•sbl)	コンピュータ (\mbcomputer)
管理条件 (se lgtbonstr\int)	固有資産タグ
ソフトウェアをインストール (bg\sroftnst\ll)	はい

レコードQ	
名前 (m\me)	obQL ライセンス

レコードQ	
作成 (sea\sis)	ポートフォリオ品目
管理条件 (se l gtbonstr\int)	資産タグ
ライセンス (broftkicense)	はい

レコードR	
名前 (m\me)	obQL インストール
作成 (sea\sis)	ポートフォリオ品目
オーバーフローテーブル (senverflo•sbl)	インストール済ソフトウェア (\mroftnst\ll)
管理条件 (se l gtbonstr\int)	個別管理しない

レコードS	
名前 (m\me)	obQL 一括発注契約
作成 (sea\sis)	契約
契約タイプ (sebntrsype)	一括発注

## メーカーを作成します

- P メーカーを表示します ( [ **ポートフォリオ/メーカー** ] )。
- 2 下の表に示すフィールドとリンクに入力して、以下のレコードを作成します。

レコードP	
名前 (m\me)	Microsoft

## 任意管理項目の単位を作成します

- P 単位を表示します ( [ **管理/単位** ] )。
- 2 下の表に示すフィールドとリンクに入力して、以下のレコードを作成します。

レコードP	
名前 (m\me)	ポイント
次元 (cimension)	カウント
記号 (rymbol)	ptll

## レコードP

変換係数 GfbonvH

0

## モデルと契約の任意管理項目を作成します

- P 任意管理項目を表示します（ [ 管理 / 任意管理項目 ] メニュー ）。
- 2 下の表に示すフィールドとリンクに入力して、以下のレコードを作成します。

## レコードP

ライセンスモデルと関連付けるこの任意管理項目は、Pつのライセンスを購入したときに取得されるポイント数を定義します。

ラベル ( sextk\bel )

obQrelectooointsk

入力タイプ ( sec\t\sype )

数値

単位 ( t nith

ポイント

## レコードQ

ライセンスモデルと関連付けるこの任意管理項目は、契約のR年目（ソフトウェアアシュアランスの残り期間がP年未満）にPつのライセンスを購入したときに取得されるソフトウェアアシュアランスポイント数を定義します。

ラベル ( sextk\bel )

obQrelectoointersAP

入力タイプ ( sec\t\sype )

数値

単位 ( t nith

ポイント

## レコードR

ライセンスモデルと関連付けるこの任意管理項目は、契約のQ年目（ソフトウェアアシュアランスの残り期間がP～Q年）にPつのライセンスを購入したときに取得されるソフトウェアアシュアランスポイント数を定義します。

ラベル ( sextk\bel )

obQrelectoointersAQ

入力タイプ ( sec\t\sype )

数値

	レコードR ライセンスモデルと関連付けるこの任意管理項目は、契約のQ年目（ソフトウェアアシュアランスの残り期間がP～Q年）にPつのライセンスを購入したときに取得されるソフトウェアアシュアランスポイント数を定義します。
単位 ( t nith	ポイント

	レコードS ライセンスモデルと関連付けるこの任意管理項目は、契約のP年目（ソフトウェアアシュアランスの残り期間がQ～R年）にPつのライセンスを購入したときに取得されるソフトウェアアシュアランスポイント数を定義します。
ラベル ( sextk\bel )	obQrelectoointsrAR
入力タイプ ( sec\t\syype )	数値
単位 ( t nith	ポイント

	レコードT 特定のプールに対する一括発注契約と関連付けるこの任意管理項目は、ポイントターゲットを定義します。
ラベル ( sextk\bel )	obQrelectoointss\rget
入力タイプ ( sec\t\syype )	数値
単位 ( t nith	ポイント

## 任意管理項目にパラメータを追加します

- P 任意管理項目を表示します（ [ 管理 / 任意管理項目 ] メニュー ）。
- 2 任意管理項目 [ obQoointsrelectk ] を選択します。
- R [ パラメータ ] タブを表示します。
- S パラメータを追加します（ [ + ] ボタン ）。
- T 下の表に示すフィールドとリンクに記入します。

## レコードP

テーブル ( s\blem\me )

\m l odel

- U 【obQrelectoointsk】、【obQrelectoointsrAP】、【obQrelectoointsrAQ】、【obQrelectoointsrAR】の各任意管理項目に対して、同じ手順を実行します。
- V 任意管理項目【boQrelectoointssarget】を選択します。
- W 【パラメータ】タブを表示します。
- 9 パラメータを追加します（【+】ボタン）。
- P0 下の表に示すフィールドとリンクに記入します。

## レコードP

テーブル ( s\blem\me )

\mbontr\ct

## モデルを作成します

- P モデルを表示します（【ポートフォリオ/モデル】メニュー）。
- 2 下の表に示すフィールドとリンクに入力して、以下のレコードを作成します。

## レコードP

名前 ( m\me )

obQL コンピュータ

属性 ( m\ture )

obQL コンピュータ

## レコードQ

名前 ( m\me )

obQL dxcel L ライセンス

メーカー ( ar\nd )

Microsoft

属性 ( m\ture )

obQL ライセンス

【任意管理項目】タブ

obQrelectoointsk

P

obQrelectoointsrAP

P

obQrelectoointsrAQ

P

obQrelectoointsrAR

Q

## レコードR

名前 ( m\me )

obQL orobject L ライセンス

メーカー ( ar\nd )

Microsoft

属性 ( m\ture )

obQL ライセンス

レコードR	
<b>[任意管理項目] タブ</b>	
obQrelectoointsk	S
obQrelectoointsrAP	Q
obQrelectoointsrAQ	S
obQrelectoointsrAR	U

レコードS	
名前 (m\me)	obQL I icrosoft relect L プール
メーカー (ar\nd)	I icrosoft
属性 (m\ture)	obQL 一括発注契約

レコードT	
名前 (m\me)	obQL dxcel L インストール
メーカー (ar\nd)	I icrosoft
属性 (m\ture)	obQL インストール

## 契約を作成します

- 1 契約を表示します（**[契約/契約]**メニュー）。
- 2 下の表に示すフィールドとリンクを入力して、以下のレコードを作成します。

レコードP 主契約。	
リファレンス (qef)	obQ I r I k
目的 (ourpose)	obQL I icrosoft relect L マスターリース
タイプ (sesype)	マスターリース
契約ステータス (sert\tus)	アクティブ
<b>[全般] タブ</b>	
支払属性 (seo\ysype)	なし
開始日 (drt\rt)	QOORNOPNOP
終了日 (ddnd)	QOOUNPQNRP

レコードQ [アプリケーション] プールの新規ライセンスの取得を対象とする一括発注契約。	
リファレンス (qef)	obQ I rAP

レコードQ [アプリケーション] プールの新規ライセンスの取得を対象とする一括発注契約。	
目的 (ourpose)	obQL   icrosoft relectL アプリケーションL 取得
タイプ (sesype)	一括発注
モデル (   odel)	obQL   icrosoft relectL プール
<b>[全般] タブ</b>	
帰属先 (o\rent)	obQ   r   k ( obQL   icrosoft relectL マスターリース)
支払属性 (seo\ysype)	なし
開始日 (drt\rt)	QOORNOPNOP
終了日 (ddnd)	QOOUNPQNRP
<b>[任意管理項目] タブ</b>	
obQrelectoointss\rget	PT00

レコードR [アプリケーション] プールのライセンスのソフトウェアアシュアランスを対象とするメンテナンス契約。	
リファレンス (qef)	obQ   rAQ
目的 (ourpose)	obQL   icrosoft relectL アプリケーションL アシュアランス
タイプ (sesype)	メンテナンス
契約ステータス (sert\tus)	アクティブ
<b>[全般] タブ</b>	
帰属先 (o\rent)	boQ   rAP ( boQL   icrosoft relectL アプリケーションL 取得)
支払属性 (seo\ysype)	賃貸料
開始日 (drt\rt)	QOORNOPNOP
終了日 (ddnd)	QOOUNPQNRP

## コストセンタを作成します

- 1 P コストセンタを表示します ( [ファイナンス/コストセンタ] メニュー)。
- 2 下の表に示すフィールドとリンクに入力して、以下のレコードを作成します。



レコードP	
ラベル (sitle)	obQL 国内マーケティング

## ポートフォリオ品目を作成します。

- 1 ポートフォリオ品目を表示します ( [ポートフォリオ/ポートフォリオ品目] メニュー )。
- 2 下の表に示すフィールドとリンクに入力して、以下のレコードを作成します。

レコードP	
r elect 契約の開始以前に取得された dxcel ライセンス。	
モデル ( lodel )	obQL dxcel L ライセンス
数量 ( fpty )	P00
コストセンタ ( bostbenter )	obQL 国内マーケティング
[ライセンス] タブ	
権利 ( lroftkict seqights )	P

レコードQ	
r elect 契約の開始以前に取得された oroject ライセンス。	
モデル ( lodel )	obQL oroject L ライセンス
数量 ( fpty )	P0
コストセンタ ( bostbenter )	obQL 国内マーケティング
[ライセンス] タブ	
権利 ( lroftkict seqights )	P

レコードR	
モデル ( lodel )	obQL コンピュータ
数量 ( fpty )	P
コストセンタ ( bostbenter )	obQL 国内マーケティング

レコードS	
r elect 契約の開始以前に行われた dxcel インストールで、 r elect ソフトウェアアシュアランスの対象となるもの。	
モデル ( lodel )	obQL dxcel L インストール

## レコードS

r elect 契約の開始以前に行われた dxcel インストールで、r elect ソフトウェアアシユアランスの対象となるもの。

数量 ( fpty )	P
親レコード ( o\rent )	obQL コンピュータ
[インストール済ソフトウェア] タブ	
ポイント数 ( l t sebound )	P

## サプライヤを作成します

- P サプライヤを表示します ( [ポートフォリオ/サプライヤ] メニュー )。
- 2 下の表に示すフィールドとリンクに入力して、以下のレコードを作成します。

## レコードP

名前 ( m\me )	l icrosoft
-------------	------------

## 製品を作成します

- P 製品を表示します ( [調達/製品] メニュー )。
- 2 下の表に示すフィールドとリンクに入力して、以下のレコードを作成します。

## レコードP

説明 ( cescription )	obQL dxcel L ライセンス
メーカ ( ar\nd )	l icrosoft
モデル ( l odel )	obQL dxcel L ライセンス

## レコードQ

説明 ( cescription )	obQL oroject L ライセンス
メーカ ( ar\nd )	l icrosoft
モデル ( l odel )	obQL oroject L ライセンス

## カタログを作成します

- P カタログを表示します ( [調達/カタログ] メニュー )。

- 2 下の表に示すフィールドとリンクに入力して、以下のレコードを作成します。

	レコードP
名前 (m\me)	Microsoft
[ サプライヤ ]	[ Microsoft ] にリンクを追加します

## リファレンスを作成します

- P リファレンスを表示します ( [ 調達 / リファレンス ] メニュー )。
- 2 下の表に示すフィールドとリンクに入力して、以下のレコードを作成します。

	レコードP
カタログ (b\t\log)	Microsoft
製品 (b\toroduct)	Office L Excel L ライセンス
価格 (sysboreb\tqeforice)	000

	レコードQ
カタログ (b\t\log)	Microsoft
製品 (b\toroduct)	Office L Project L ライセンス
価格 (sysboreb\tqeforice)	000

## マスターからライセンスおよびアシュアランス依頼を作成します

- P 依頼を表示します ( [ 調達 / 購入依頼 ] メニュー )。
- 2 下の表に示すフィールドとリンクに入力して、以下のレコードを作成します。

### ヒント:

新規依頼ウィザードが表示されたら、[ カスタム依頼を新規作成する ] を選択します。

	レコードP
目的 (ourpose)	Office L License + Excelソフトウェアアシュアランス

レコードP	
番号 (onumber)	obQLOP

レコードQ	
目的 (urpose)	obQL rojectライセンス
番号 (onumber)	obQL0Q

レコードR	
目的 (urpose)	obQL dxcelアシュアランス
番号 (onumber)	obQLOR

## 【obQLOP】依頼の依頼明細を作成します

- P 依頼を表示します (【調達/購入依頼】メニュー)。
- 2 依頼【obQLOP】を選択します。
- R 【構成】タブを表示します。
- S 下の表に示すフィールドとリンクに入力して、以下のレコードを作成します。

レコードP	
契約の使用 (bbntr t tiliz\tion)	いいえ
数量 (fpty)	R00
リファレンス (b\t\logqef)	obQL dxcel L ライセンス ( Microsoft ) L obQL dxcel L ライセンス

### ヒント:

次の行を正しく作成するには、あらかじめ【変更】ボタンを使って依頼のレベルで最初の行を含めて保存しておく必要があります。

レコードQ	
契約の使用 (bbntr t tiliz\tion)	はい
数量 (fpty)	P
【依頼する契約】 ( t sedqeqkinebntr ) フィールドの右側のアイコン	クリック
【数量】 ( fpty ) フィールドの下のドロップ ダウンリスト	使用契約

## レコードQ

【使用契約】の値を持つドロップダウンリストの右側のフィールド	obS   rAQ ( 実用例SL   icrosoft relect L アプリケーションL アシュアランス )
依頼する品目 ( t sedqeqkineAsset )	R00 obQL dxcel L ライセンス

## 【obQLOQ】依頼の依頼明細を作成します

- P 依頼を表示します ( 【調達/購入依頼】メニュー )。
- 2 依頼【obQLOQ】を選択します。
- R 【構成】タブを表示します。
- S 下の表に示すフィールドとリンクに入力して、以下のレコードを作成します。

## レコードP

数量 ( fpty )	Q0
リファレンス ( b \ t \ logqef )	obQL oroject L ライセンス (   icrosoft ) LobQL oroject L ライセンス

## 【obQLOR】依頼の依頼明細を作成します

- P 依頼を表示します ( 【調達/購入依頼】メニュー )。
- 2 依頼【obQLOR】を選択します。
- R 【構成】タブを表示します。
- S 下の表に示すフィールドとリンクに入力して、以下のレコードを作成します。

## レコードQ

契約の使用 ( bbntr t tiliz \ tion )	はい
数量 ( fpty )	P
【依頼する契約】 ( t sedqeqkinebntr ) フィールドの右側のアイコン	クリック
【数量】 ( fpty ) フィールドの下のドロップ ダウンリスト	使用契約
【使用契約】の値を持つドロップダウンリストの右側のフィールド	obS   rAQ ( 実用例SL   icrosoft relect L アプリケーションL アシュアランス )
【依頼する品目】 ( t sedqeqkineAsset ) フィールドの右側のアイコン	クリック
【使用契約】の値を持つドロップダウンリストの下のドロップダウンリスト	使用資産

## レコードQ

[使用資産]の値を持つドロップダウンリストの右側のフィールド | Microsoft obQL dxcel L ライセンス

## 発注 [ obQLOP ] および [ obQLOQ ] の作成、発行、および受領

- P 依頼を表示します ( [ 調達 / 購入依頼 ] メニュー )。
- 2 依頼 [ obQLOP ] を選択します。
- R [ 見積 ] をクリックし、 [ 終了 ] をクリックします。提示された値をそのまま使用します。
- S 依頼から生成された発注の詳細で以下の手順を実行します。
  - P 下の表に示すフィールドとリンクに記入します。

## レコードP

番号 ( onnumber )	obQLOP
発行日 ( dtrent )	QOORNORNP

- 2 [ 構成 ] タブを表示します。
- R 発注明細の詳細を表示します。
- S 発注明細の詳細で、 [ 配賦 ] タブを表示します。
- T 下の表に示すフィールドとリンクに記入します。

## レコードP

コストセンタ ( bostbenter )	obQL 国内マーケティング
-----------------------	----------------

- U 発注明細の詳細で、 [ ファイナンス ] タブを表示します。
- V 下の表に示すフィールドとリンクに記入します。

## レコードP

一括発注 ( bt sesal \nketon )	はい
一括発注契約 ( al \nketonbntr )	obQL rAP ( boQL Microsoft relect L アプリケーション )

- W [ 変更 ] をクリックします。
- T [ 発注 ] をクリックし、 [ 終了 ] をクリックします。提示された値をそのまま使用します。

- U **【受領】**をクリックし、**【終了】**をクリックします。提示された値をそのまま使用します。
- V **【トラッキング】**タブを表示します。
- W **【資産】**ノードの階層を表示します。
- 9 **【obQL dxcel L ライセンス】**をダブルクリックします。  
発注の受領時に作成された資産の詳細を確認します。
- P0 依頼を表示します（**【調達/購入依頼】**メニュー）。
- PP 依頼 **【obOLOQ】**を選択します。
- P2 **【見積】**をクリックし、**【終了】**をクリックします。提示された値をそのまま使用します。
- PR 下の表に示すフィールドとリンクに記入します。

## レコードP

番号 ( onnumber )	obOLOQ
発行日 ( dtrent )	QOORNORNP

- PS 依頼から生成された発注の詳細で以下の手順を実行します。
  - P **【構成】**タブを表示します。
  - 2 発注明細の詳細を表示します。
  - R 発注明細の詳細で、**【配賦】**タブを表示します。
  - S 下の表に示すフィールドとリンクに記入します。

## レコードP

コストセンタ ( bostbenter )	obQL 国内マーケティング
-----------------------	----------------

- T 発注明細の詳細で、**【ファイナンス】**タブを表示します。
- U 下の表に示すフィールドとリンクに記入します。

## レコードP

一括発注 ( bt sesal \nketon )	はい
一括発注契約 ( al \nketon bntr )	obS I rAP ( obQL I icrosoft relect L アプリケーション )

- V **【変更】**をクリックします。
- PT 購入依頼から作成された発注の詳細で、**【発注】**をクリックし、**【終了】**をクリックします。提示された値をそのまま使用します。
- PU 購入依頼から作成された発注の詳細で、**【受領】**をクリックし、**【終了】**をクリックします。提示された値をそのまま使用します。

- PV **[ トラッキング ]** タブを表示します。
- PW **[ 資産 ]** ノードの階層を表示します。
- P9 **[ Microsoft obQL rojectL ライセンス ]** をダブルクリックします。  
発注の受領時に作成された資産の詳細を確認します。

## 依頼 [ obQLOR ] を実行します

- P 依頼を表示します ( **[ 調達 / 購入依頼 ]** メニュー )。
- 2 依頼 [ obSLOR ] を選択します。
- R **[ ステータス ]** フィールド ( sert\tus ) を **[ 承認済 ]** に設定します。
- S **[ 変更 ]** をクリックします。
- T **[ 実行 ]** をクリックし、 **[ 終了 ]** をクリックします。提示された値をそのまま使用します。
- U **[ 構成 ]** タブを表示します。
- V 依頼明細 **[ 契約の使用 ]** の詳細を表示します。
- W **[ boQL dxcclL ライセンス ]** に設定されたフィールドの右側の拡大鏡をクリックします。
- 9 **[ 契約 ]** タブを表示します。  
資産が契約 [ obQL rAQ ( obQL I icrosoft relectL アプリケーションL アシュアランス ) ] にリンクされているはずですが。

## ポイントトラッキングのための特殊フィールドを作成します

- P 特殊フィールドを表示します ( **[ 管理 / 特殊フィールド ]** メニュー )。
- 2 下の表に示すフィールドとリンクに入力して、以下のレコードを作成します。

### ヒント:

マニュアルの「chm」からAssetbenterにスクリプトをコピーすることをお勧めします。

	レコードP
sextk\bel ( ラベル )	obQL relectL ライセンスポイント
rpkm\me ( rpk名 )	obQk
s\blem\me ( テーブル )	契約 ( \mbontr\ct )
sesype ( フィールドタイプ )	aArhbスクリプト
sec\t\sype ( 結果タイプ )	数値



	レコードP
rcrypt (特殊フィールドスクリプト)	<pre> getu\l = Amcb fetcoupleG Ardkdbs r t l Gfpty l b\t\logqefllb\toroductll   odellfv_obQrelectoointsKH eqn l \monrdkine v gdqd al\nketonbntr = A E zlbnrhd] E A Amc onrderldtrent ]= BA E zdrtr\rt] E AB Amc onrderldtrent [= BA E zddnd] E ABAH                     </pre>

スクリプトの説明

- Retual =Y スクリプトが値を返します。
- Amcb fetcoupleGMMHY 返される値は倍精度の値 (Wバイト) です。
- eRn l amonrdkineY このクエリは、【発注明細】テーブルを検索します。
- v gdRd alanketonbntr = A E zlbnrhd] E A Amc onrderldtrent ]= BA E zdrtart] E AB Amc onrderldtrent [= BA E zddnd] E ABAY 【発注明細】テーブルのレコードは、【一括発注契約】(al\nketonbntr)によって契約とリンクされる必要があります。発注明細が属する発注は、契約の開始( [drtart] フィールド)のあと、契約の終了( [ddnd] フィールド)の前に発行されている( [onrderldtrent] フィールドへのリンク)必要があります。
- r t l Gfpty l batalogRefllbatoroductll | odellfv\_boQoointsrelectkHY このクエリは、発注明細のカタログリファレンスの製品モデルに関連する任意管理項目値 [fv\_boQoointsrelectk] ( [ batalogRefllbatoroductll | odellfv\_boQoointsrelectk ] リンク)を、v gdRdGMMHH句で選択された発注明細のそれぞれに対して合計します ( r t l GMMHH )。

	レコードQ
sextk\bel (ラベル)	obQL relectL アシュアランスポイント
rpkm\me (rpk名)	obQrA
s\blem\me (テーブル)	契約 (\mbontr\ct)
sesype (フィールドタイプ)	aArhbスクリプト
sec\t\sype (結果タイプ)	数値

script (特殊フィールドスクリプト)

## レコードQ

```

qetu\l = AmcbfetcoupleGArkdbs
r t l GAssetlfsot\lpty l
Assetl l odellfv_obQrelectoointsrAPH eqn l
\mAstbntrcesc v gdqd lbnthrd = A E zlbnthrd]
E A Amc dbnthrnhcluded ] = BA E G xe\rGzdrtrt]H
+ Q H E ALA E l onthGzdrtrt]H E ALA E
c\yGzdrtrt]H E AB Amc dbnthrnhcluded [ BA E
G xe\rGzdrtrt]H + R H E ALA E l onthGzdrtrt]H
E ALA E c\yGzdrtrt]H E ABAH

qetu\l = qetu\l + AmcbfetcoupleGArkdbs
r t l GAssetlfsot\lpty l
Assetl l odellfv_obQrelectoointsrAQH eqn l
\mAstbntrcesc v gdqd lbnthrd = A E zlbnthrd]
E A Amc dbnthrnhcluded ] = BA E G xe\rGzdrtrt]H
+ P H E ALA E l onthGzdrtrt]H E ALA E
c\yGzdrtrt]H E AB Amc dbnthrnhcluded [ BA E
G xe\rGzdrtrt]H + Q H E ALA E l onthGzdrtrt]H
E ALA E c\yGzdrtrt]H E ABAH

qetu\l = qetu\l + AmcbfetcoupleGArkdbs
r t l GAssetlfsot\lpty l
Assetl l odellfv_obQrelectoointsrARH eqn l
\mAstbntrcesc v gdqd lbnthrd = A E zlbnthrd]
E A Amc dbnthrnhcluded ] = BA E G xe\rGzdrtrt]H
+ O H E ALA E l onthGzdrtrt]H E ALA E
c\yGzdrtrt]H E AB Amc dbnthrnhcluded [ BA E
G xe\rGzdrtrt]H + P H E ALA E l onthGzdrtrt]H
E ALA E c\yGzdrtrt]H E ABAH

```

スクリプトの最初のRetual =の説明

- Retual =Y スクリプトが値を返します。  
わかりやすくするため、計算はRつの部分に分かれて行われます。  
Retual = Retual + ■■■■
- AmcbfetcoupleG■■■■HY 返される値は倍精度の値 (Wバイト) です。
- eRn l amAstbntrcescY このクエリは、【**契約上の資産**】テーブルを検索します。
- lbnthrd = A E zlbnthrd] E AY v gdRd句の最初の条件。  
契約の対象となる資産は、【lbnthrd】フィールドで示される現在の契約とリンクされている必要があります。
- dbnthrnhcluded ] = BA E G xearGzdrtart]H + Q H E ALA E l onthGzdrtart]H E ALA E cayGzdrtart]H E ABY v gdRd句のQ番目の条件。

契約の対象となる資産は、契約の開始後最低Q年間含まれている（【dbnrhncld】フィールド）必要があります。

基準日の区切りには「B」文字が用いられます。

基準日は、契約開始の年、月、日（【drtart】フィールド）を連結することにより構成されます。

これにより、「BxxxxLI lLc cB」という形式の日付が得られます。

- dbnrhncld [ BA E G xear&zdrart]H + R H E ALA E lonth&zdrart]H E ALA E cay&zdrart]H E ABY v gdRd句のR番目の条件。

契約の対象となる資産は、契約の開始後最低R年間含まれている（【dbnrhncld】フィールド）必要があります。

- r t l GAssetlfsotalpty l Assetll odellfv\_boQoointsrelectrARH このクエリは、v gdRd句で選択された契約の対象となる資産の総数（fsotlpty）フィールドと任意管理項目【boQoointsrelectrAR】の積を合計します。この任意管理項目によって、ライセンスが契約の最初の年、すなわちソフトウェアアシュアランスの残り期間がQ～R年のときに取得されたライセンスに対してカウントされるソフトウェアアシュアランスポイントの数が決まります。

## 特殊フィールドと契約の任意管理項目を表示します

- P 契約を表示します（【契約/契約】メニュー）。
- 2 リストのヘッダーを右クリックします。
- R ショートカットメニューから【リストの設定】を選択します。
- S 特殊フィールド【obQL relectL アシュアランスポイント（obQrA）】および【obQL relectL ライセンスポイント（boQk）】を追加します。
- T 【nj】をクリックします。
- U 【obQ l rAP】および【obQ l rAQ】契約に対して追加した値を確認します。

## dxcelカウンタに必要なクエリを作成します

- P クエリを表示します（【ツール/クエリ】メニュー）。
- 2 下の表に示すフィールドとリンクに入力して、以下のレコードを作成します。

	レコードP ライセンスとインストールを考慮するコストセンタの識別情報。
名前 (m\me)	obQL コストセンタP
クエリタイプ (sesype)	カウンタ

## レコードP

## ライセンスとインストールを考慮するコストセンタの識別情報。

テーブル (s\blem\me)	コストセンタ (\mbostbenter)
クエリ (mempuerysext)	sitle = fobQL 国内マーケティングf

## レコードQ

## dxcelライセンスの識別情報

名前 (m\me)	obQL dxcel L ライセンス
クエリタイプ (sesype)	カウンタ
テーブル (s\blem\me)	ポートフォリオ品目 (\moortfolio)
クエリ (mempuerysext)	l odellm\me = fobQL dxcel L ライセンスf

## レコードR

## dxcelライセンスの識別情報

名前 (m\me)	obQL dxcel L インストール
クエリタイプ (sesype)	カウンタ
テーブル (s\blem\me)	ポートフォリオ品目 (\moortfolio)
クエリ (mempuerysext)	l odellm\me = fobQL dxcel L インストールf

## dxcelカウンタを作成します

- P カウンタを表示します ( [ポートフォリオ/ソフトウェアカウンタ] メニュー)。
- 2 下の表に示すフィールドとリンクに入力して、以下のレコードを作成します。

## レコード

名前 (m\me)	obQL dxcel L ライセンス管理
モデルとして使用 (bsype)	いいえ
グループ (bontext)	コストセンタ (\mbostbenter)
アプリケーションの範囲 (cefnition)	obQL コストセンタP
ライセンス契約 (bontr\ct)	obQL rAP (obQL I icrosoft relect L アプリケーションL 取得)

## [ 権利 ]

権限カウンタのコンテキスト (kicbontext)	ポートフォリオ品目 (\moortfolio)
カウント制限GライセンスH (kicpuery)	obQL dxcel L ライセンス
権限L] グループリンク (kicfroupay)	bostbenter
権限計算モード (sekicbount l ode)	計算式によるカウント

レコード	
権限カウントのフィールド ( kicbounteormul\ )	r t l Ggfpty l Assetll roftkic t seqightsHH
<b>[インストール/使用] タブ</b>	
インストール\使用カウンタのコンテキスト ( hnstbontext )	ポートフォリオ品目 ( \moortfolio )
カウント制限\インストールH ( rofthnstpuery )	obQ L dxcel L インストール
インストール\使用 L] グループリンク ( hnst f roupay )	o\rentll bostbenter
インストール\使用計算モード ( sehnst\llbount l ode )	計算式によるカウント
インストール / 使用の計算式 ( hnstbountr pk )	bountdistinctGlo\renthdH



注意:

projectに対するカウンタも同様の方法で作成できます。

## ウィザードが作成したカウンタを確認します

- P カウンタを表示します ( [ポートフォリオ/ソフトウェアカウンタ] メニュー )。
- 2 カウンタ [ obQ L dxcel L ライセンス管理 ] を選択します。
- R [全般] タブを表示します。カウントはここに一覧表示されます。
- S [結果] タブを表示します。カウントの詳細はここに示されます。



# T | 電話機

Assetbenderでは、電話機は「ポートフォリオ品目」として処理されます。電話機を資産として管理する場合は、[電話機]テーブルにレコードを作成することもできます。

## 電話機と機能

電話機の説明にはすべての管理タイプを使用できます（▶個別管理（資産別）z倭献 PU）。

電話機管理で使用されるAssetbenderのテーブルは以下のとおりです。

- [属性]テーブル  
このテーブルでは、ポートフォリオ品目のモデルは、[資産]テーブルと[電話]テーブルにレコードを作成することを指定します。
- [モデル]テーブル  
このテーブルでは、[資産]テーブルと[電話機]テーブルにレコードを作成するポートフォリオ品目のモデルを作成します。
- [電話機]テーブル  
このテーブルは、電話機に対応するレコードを含みます。
- [ボタン/機能割当]テーブル

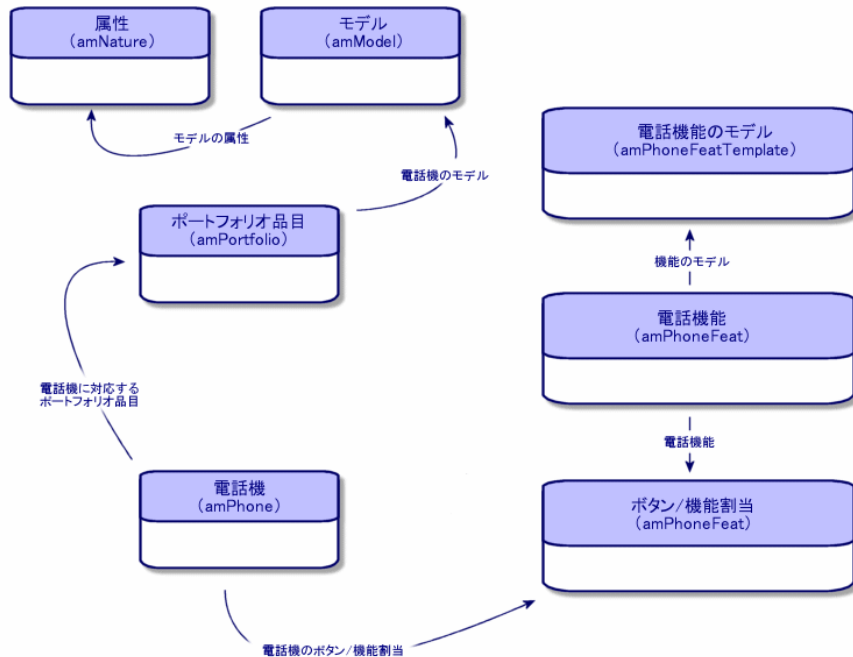
このテーブルでは、電話機のボタンに機能を割り当てます。

- **【電話機能のモデル】**テーブル

このテーブルでは、電話機能のモデルを作成します。

- **【電話機能】**テーブル

このテーブルでは、会社の電話機で使用する電話機能のリストを表示できます。



## 電話機の管理

Assetcenterで電話機を管理するには、以下の作業を実行します。

- **【電話機】**テーブルに電話機を登録する。
- 機能をボタンに関連付ける。

以下の方法で、**【電話機】**テーブルのレコードの詳細画面を表示できます。

- **【ポートフォリオ/電話機】**メニューを選択して、電話機のリストを表示します。
- **【資産】**テーブルで電話機に対応するレコードを選択して、**【電話機】**タブページをクリックします。



**警告:**

電話機のモデルの属性で、[オーバーフローテーブル]フィールドで[電話機]を選択されていない限り、[電話機]タブページは表示されません。

## 電話機を作成する

電話機を作成するには、次の手順に従います。

- P 電話機の属性を作成します。[作成]フィールドで[ポートフォリオ品目]を選択し、[オーバーフローテーブル]フィールドで[電話機]を選択します。
  - ▶ ポートフォリオ品目の属性を作成する z修献 QW]
- 2 電話機のモデルを作成します。
- R 電話機に対応するレコードを[資産]テーブルで作成します。  
このレコードは、[電話機]テーブルにもレコードを作成します。
- S [電話機]タブをクリックします。
- T 電話機の内線番号を入力します。
- U 必要に応じて、[ボイスメール]オプションと[スピーカ]オプションを選択します。
- V 転送先の電話機を[転送先]リンクに入力します。このリンクは、[電話機]テーブルの他のレコードに向けられています。
- W [コールライン<sup>hc</sup>]フィールドに電話機のbkh(コマンドラインインタフェース)番号を入力します。
- 9 [作成]をクリックして、作成を確定します。

## 機能をボタンに関連付ける

ある機能をボタンに関連付ける前に、まず機能のモデルおよび機能自体を作成する必要があります。

## 機能のモデルを作成する

機能のモデルを作成するには、次の手順に従います。

- P [管理/画面一覧]メニューを使って、電話機能のモデルのリストを表示します。
- 2 [説明]フィールドに入力して、機能のモデルを作成します。

## 機能を作成する

機能を作成するには、次の手順に従います。

- P **【管理 / 画面一覧】**メニューを選択して、電話機能のリストを表示します。
- 2 **【新規作成】**をクリックします。
- R **【説明】**フィールドに入力します。
- S 上記で作成した電話機能のモデルを**【モデル】**リンクで選択します。
- T 特定のコードを使って機能をオン / オフにできる場合は、**【トグル動作】**オプションを選択します。また、このコードを選択すると表示されるフィールドに適切なコードを入力します。
- U 機能を使用するためにhcコードが必要な場合は、**【hcコード要】**オプションを選択します。

## 機能をボタンに関連付ける

以下の方法で、機能をボタンに関連付けます。

- P ポートフォリオ品目のリストを表示します（**【ポートフォリオ / ポートフォリオ品目】**メニュー）。
- 2 電話機のレコードを選択します。
- R **【電話機】**タブをクリックします。
- S **【機能】**サブタブページを選択します。
- T  をクリックします。
- U 機能が割り当てられている最初のボタンの番号を**【最初のボタン】**フィールドに入力します。最初のボタンは通常「P」または「0」です。最初のボタンが「0」の場合、機能が割り当てられているボタンの合計数は、「n + ボタン0」です。  
最初のボタンが「0」の場合、ボタン「T」はU番目のボタンに相当します。
- V **【ボタン数】**フィールドに、機能を割り当てることのできるボタンの数を入力します。**【最初のボタン】**フィールドの値が「0」の場合、ボタン「T」はU番目のボタンに相当します。
- W **【機能】**リンクでボタンに関連付ける機能を選択します。

# 6 | 作業指示とプロジェクト

ポートフォリオ品目は、作業指示の対象となり得ます（例：メンテナンス）。また、プロジェクトでポートフォリオ品目を使用することもあります（例：長期研修プログラムでコンピュータを使用する）。

## 作業指示

作業指示は、問題を解決するためにポートフォリオ品目に対して実行される処置です。修理、ユーザの援助、インストール、移動などがあります。

**[ポートフォリオ/作業指示]**メニューを選択して、作業指示のリストを表示します。

作業指示に追加業務を関連付けるなど、階層構造（ツリー構造）を設定して管理することができます。作業指示には複数の追加業務を割り当てることができます。作業指示は、テンプレートに基づいて作成できます。このテンプレートでは、一般的な作業指示または標準的な作業指示手順を定義します。テンプレートで定義された情報は、作業指示の詳細情報に使用されます。

追加業務も作業指示とみなされます。追加業務として定義することでPつの作業指示をさらに基本的な作業指示に細分化することができます。Pつの作業指示を完了するには、その作業指示を構成するすべての追加業務を実行する必要があります。

作業指示の追加業務は、Pつずつ、または複数を実行できます。【**作業順序**】（rpk名：lrequencemumber）フィールドで、追加業務の順序を指定できます。このフィールドから次のことがわかります。

- Qつの作業指示に同じ順番が設定されている場合は、Qつの作業指示を同時に実行できることを示しています。
- 数値が小さいほど、作業指示および追加業務の優先順位が高いことを示します。



#### 注意:

【**作業順序**】（rpk名：lrequencemumber）フィールドは、Assetcenterの自動処理機能にはリンクしていません。このフィールドは、作業指示の実行順をユーザに示すために使います。

## 作業指示のタイプ

作業指示の詳細画面の【**全般**】タブページにある【**タイプ**】（rpk名：sesype）フィールドは、作業指示のタイプを示します。このフィールドは、システムのリストデータに関連付けられています。

このフィールドで選択した作業指示のタイプによって、作業指示の詳細画面の【**トラッキング**】タブページの内容が次のように異なります。

## 内部メンテナンス

【**トラッキング**】タブページ / 【**技術者**】サブタブページの【**技術者**】（rpk名：sechnic\l\n）フィールドと【**グループ**】（rpk名：dmpl froup）フィールドで、技術者とグループを指定できます。

## 契約メンテナンス

一般に、契約内で実行されるすべての作業指示用に、請求書は発行されません。

- 【**トラッキング**】タブページ / 【**技術者**】サブタブページ / 【**契約**】（rpk名：bontr\ct）フィールドで、作業指示に関連する契約を選択できます。このフィールドのドロップダウンリストには、作業指示の対象となるポートフォリオ品目に関連する契約のみが表示されます。
- 【**トラッキング**】タブページ / 【**技術者**】サブタブページの【**技術者**】（rpk名：bont\ct）フィールドと【**会社**】（rpk名：rupplier）フィールドで、技術者と会社を選択できます。【**会社**】（rpk名：rupplier）フィールドに先に入力すると、【**技術者**】（rpk名：bont\ct）フィールドのドロップダウンリストには、その会社の技術者名（連絡先）のみが表示されます。

## 契約外メンテナンス

このタイプの作業指示は、既存のメンテナンス契約の範囲を超える作業指示か、または契約していない会社によって実行される作業指示です。一般に、このような場合は請求書が発行されます。

- 既存のメンテナンス契約の範囲を超える作業指示の場合は、【**トラッキング**】タブページ / 【**技術者**】サブタブページ / 【**契約**】（rpk名：bontr\ct）フィールドで契約を指定できます。このフィールドのドロップダウンリストには、作業指示の対象となるポートフォリオ品目に関連する契約のみが表示されます。
- 作業指示の詳細画面にある【**トラッキング**】タブページ / 【**技術者**】サブタブページ / 【**技術者**】（rpk名：bont\ct）フィールドで、すべての業者の連絡先リストから技術者を選択できます。【**会社**】（rpk名：rupplier）フィールドに先に入力した場合は、その会社だけの連絡先リストから選択できます。

## 作業指示のプロセス

### 作業指示のライフサイクル

作業指示のライフサイクルは、次の通りです。

図 61P11 作業指示のライフサイクル



このサイクルの各過程は、特定の日付に発生するか、または予定された日に実行されます。特定の段階に進むと、【**ステータス**】（rpk名：sert\tus）フィールドが変更します。


表 611P11 作業指示時のステータス

段階	ステータス
問題発生への報告（作業指示依頼の通知）	【報告済】
作業指示の開始	【進行中】
作業指示の終了	【クローズド】

作業指示の詳細画面の【トラッキング】タブページ / 【スケジュール】サブタブページでは、作業指示を依頼した日付、開始予定日、実際の作業開始日など、様々な段階の日付を指定できます。

## 作業指示のステータスと自動処理機能

作業指示の詳細画面上部にある【ステータス】（rpk名：sert\us）フィールドには、その作業指示のステータスが表示されます。このフィールドは、作業指示伝票の【トラッキング】タブページ / 【スケジュール】サブタブページで指定された日付や、ユーザがコマンドボタンをクリックして実行したアクションによって、自動的に計算されます。

- デフォルトでは、作業指示のステータスは【報告済】になります。
- 【開始予定日】（rpk名：dtrchedeixrt\rt）フィールドに入力すると、ステータスは【作業日確定済】に変わります。
- 次の場合は、ステータスが【進行中】に変わります。
  - 【作業開始日】（rpk名：dtActu\leixrt\rt）フィールドに入力した場合。
  - ユーザが  ボタンをクリックした場合。
  - 作業指示のいずれかの追加業務のステータスが【進行中】になった場合。
- 次の場合は、作業指示のステータスが【クローズド】に変わります。
  - 【合計実働時間】（rpk名：tsbumulk\borgours）フィールドに入力した場合。
  - ユーザが【クローズ】ボタンをクリックした場合。
  - 作業指示のすべての追加業務のステータスが【クローズド】になった場合。

## 作業指示のトラッキング


作業指示の詳細画面の【トラッキング】タブページを使うと、作業指示のスケジュールと実行を正確に管理できます。

このタブページは、さらに次のタブページに分かれています。

- **【技術者】** タブページ：作業指示のタイプ、作業指示の担当者に関する情報を入力できます。
- **【追加業務】** タブページ：作業指示を複数の追加業務に分割して、階層構造にすることができます。これらの追加業務は、各追加業務の**【作業順序】**（rpk名：lrequecnumbe）フィールドの値に従って、同時または順番に実行することもできます。
- **【スケジュール】** タブページ：作業指示の実行スケジュールを入力します。解決予定日、実際の作業日、業者に連絡した日付（**【契約メンテナンス】**または**【契約外メンテナンス】**タイプの契約の場合）などを指定できます。作業指示の各作業の実行日と制限時間を計算するのに使用する業務用カレンダーも選択できます。
- **【クローズ】** タブページ：作業指示の終了に関連する情報を入力します。

## 作業指示の管理

使いやすさのために、**【作業指示】** テーブルの**【資産】** フィールドに関連するリンクをカスタマイズし、仮想的な階層を作成することをお勧めします。資産に関連するリンクの表示をカスタマイズするには、以下の手順に従います。


- P **【資産】** フィールドを右クリックします。
- 2 **【リンクエディタのプロパティ/グループ/グループ分けを選択】** を選択します。
- R 表示されるウィンドウで、資産に関連するモデルを選択します（**【モデル】** リンク）。  
資産のリストが、関連するモデルに応じて階層的に表示されます。
- P 問題が報告されたら、次のQつの方法のいずれかを使って作業指示レポートを作成します。
  - **【ポートフォリオ/作業指示】** メニューを使って作業指示のリストを表示し、**【新規作成】** ボタンをクリックします。
  - 資産の詳細画面で**【メンテ（メンテナンス）】** タブページを選択してからをクリックし、作業指示レポートを追加します。
- 2 作業指示を作成します。
- R 技術者は、適切なフィルタ（**【技術者】**（rpk名：bont\ct）、**【会社】**（rpk名：rupplier）、**【メンテナンス業者mol】**（rpk名：l\intnumber）、**【ステータス】**（rpk名：sert\tus）、**【優先度】**（rpk名：oriority）などのフィールドを組み合わせたフィルタ）を使ってビューまたは作業指示リストを表示し、自分に関係のある作業指示を見つけることができます。
- S 管理者は、次のようなビューやフィルタを使うと、進行中の作業を定期的に分析できます。

- まだ予定が組まれていない作業指示：ステータス = [ 報告済 ]
  - 遅れている作業指示：ステータス = [ 作業日確定済 ] と [ 開始予定日 ] ( rpk名：dtrchedeixrt\rt ) [ 今日の日付 ]
  - 進行中の作業指示：ステータス = [ 進行中 ]
  - ステータスが [ 進行中 ] の、技術者、サプライヤ、または契約別作業指示リスト
- T 管理者は、ビューまたはフィルタを使って、完了した作業を定期的に分  
析できます。
- 見込作業時間と実作業時間の差
  - 依頼内容の解決に要した時間の分析
  - メンテナンス業者に連絡した日付と最初に作業指示を依頼した日付の  
差 ( 契約に指定されている日付との比較 )

## プロジェクト

プロジェクトでは、プロジェクトに関わる資産や従業員のグループに関する  
情報を入力できます。

プロジェクトを作成するには、次の手順に従います。

- P [ **ポートフォリオ/プロジェクト** ] メニューを選択して、プロジェクト  
のリストを表示します。
- 2 [ **新規作成** ] ボタンをクリックして、新しいプロジェクトを作成します。
- R [ **全般** ] タブページのフィールド、特に、プロジェクトの終了日を入力  
し、必要に応じてアラーム  を設定します。
- S [ **資産** ] タブページで、プロジェクトで使う資産を追加します。
- T [ **従業員** ] タブページで、プロジェクトに関連する従業員を指定します。
- U 後日、プロジェクトに他の資産を追加する必要がある場合は、追加する  
資産の詳細画面の [ **プロジェクト** ] タブページ、またはプロジェクトの  
詳細画面の [ **資産** ] タブページで追加します。
- V 現在のプロジェクトのステータスを定期的にチェックします。フィルタ  
とビューを使うと、この作業を簡単に行うことができます。 [ **開始** ]  
( rpk名：drt\rt )、 [ **終了** ] ( rpk名：ddnd )、および [ **ステータス** ]  
( rpk名：rt\tus ) フィールドを組み合わせて、現在進行中のプロジェクト  
や遅れているプロジェクトなどを表示できます。



# 7 | 調整項目

調整項目とは、特定のレコードのPつまたは複数のフィールドを調整するためのレコードを指します。

## 調整項目とターゲット項目

調整項目は、Pつまたは複数のターゲット項目のフィールドを調整します。以下のタイプの調整項目があります。

- ポートフォリオ品目
- 作業指示
- 契約
- 研修
- ケーブル

ターゲット項目は、調整項目に関連付けられています。

例：レコード「モニタ」（調整項目）は、これにリンクされているコンピュータ（ターゲット項目）のモニタ数を更新します。

調整項目のモデルで調整タイプを指定します。以下のRつの調整タイプが使用可能です。

- 追加

例：ポートフォリオでQTU | aのqA | を作成すると、このqA | がインストールされているコンピュータの【メモリ】フィールドの値にQTUが加算されます。

- 削減

例：ある資産に対してP0時間の作業指示が作成されると、同資産の最初の作業指示の【期間】フィールドの値から「P0」が引かれます。

- 交換

例：資産に関連する契約を新たに作成すると、古い契約が交換されます。

調整プロセスで主に使用されるテーブルは、以下のとおりです。

- 【属性】テーブル (\mm\ture)

このテーブルでは、調整項目のモデルの属性を定義します。

- 【モデル】テーブル (\m\odel)

このテーブルでは、調整項目のモデルを定義します。

- 【調整タイプ】テーブル (\meieldAdjustseml)

調整タイプは以下の情報を含みます。

- 調整項目のテーブル（ポートフォリオ品目、作業指示、契約、研修、ケーブル）

- 調整項目からターゲット項目へのリンク（このリンクが調整をトリガします）

例：調整項目をその親項目にリンクする（プリンタをコンピュータにリンクする）

- ターゲット項目で変更するフィールド

ターゲット項目のレコードに含まれているフィールド、またはターゲット項目のレコードに直接/間接的にリンクされているフィールドを選択できます。

- フィールドを調整する値を指定するスクリプト

- 【被調整フィールド】テーブル (\meieldAdjustment)

被調整フィールドのレコードには、以下の情報が含まれています。

- 調整日
- 調整前の値
- 調整後の値
- ターゲットレコードのテーブルからアクセス可能な一連のリンク

- 【調整項目】テーブル (\mAdjustment)

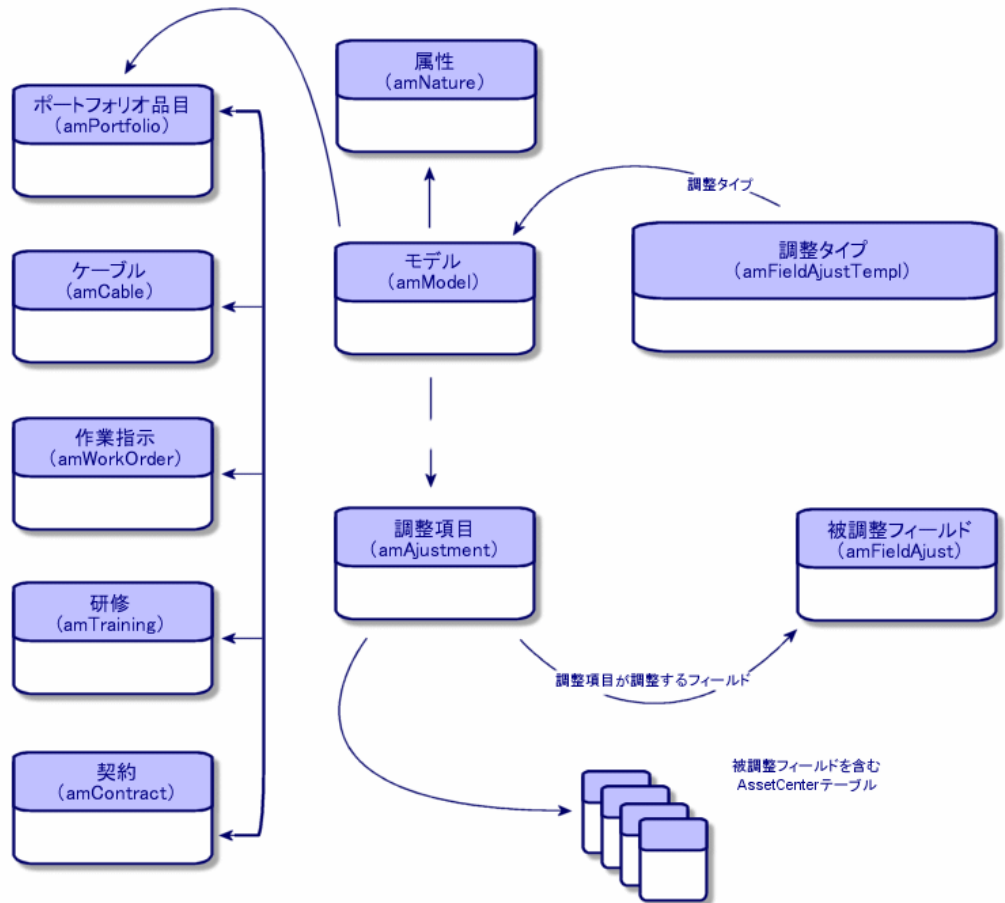
このテーブルは、データベースに作成された調整項目を含みます。

- 【ポートフォリオ】、【ケーブル】、【作業指示】、【研修】、【契約】テーブル

これらのテーブルは、調整項目になり得る項目のレコードを含みます。

- Assetbenterのテーブルすべて

Assetbenterのテーブルすべてが、調整のターゲット項目を含みます。直接リンクまたは間接リンクを使って、調整項目のレコードは、Assetbenterの全テーブルの全フィールドを調整できます。



## 調整項目を使用する

調整項目を使ってフィールドを調整するには、以下の手順を踏む必要があります。

- P 調整項目のモデルを作成する。
- 2 このモデルで調整タイプを定義する。
- R 調整項目を作成する。
- S 調整をトリガするリンクを作成する。

## 調整項目のモデルを作成する


▶ ポートフォリオ品目のモデルを作成する [z\[修献 RP\]](#)

### 注意:

属性で何も作成しないと定義されているモデル（属性の詳細画面の【作成】フィールドで【なし】が選択されている）以外のすべてのモデルが調整項目のモデルになり得ます。

## 調整タイプを定義する

調整項目があるフィールドを調整するよう設定するためには、調整項目のモデルで、同フィールドの調整タイプを定義する必要があります。調整タイプを定義するには、次の手順に従います。

- P モデルのリストを表示します（【ポートフォリオ/モデル】メニュー）。
- 2 調整項目のモデルを選択します。
- R 【調整タイプ】タブをクリックします。
- S  をクリックします。
- T 【被調整フィールド】フィールドに以下の値を入力します。
  - ターゲット項目へのリンク（フィールドの調整をトリガするリンク）
  - 被調整フィールドを指定する完全パス（リンクまたは一連のリンク）

```
o\rent\bomputer\k | emoryrize | b
```

例：ポートフォリオの調整項目に対しては、【被調整フィールド】フィールドに以下のように入力します。

「oarent」は調整をトリガするリンクです。具体的には、調整項目を【ポートフォリオ品目】テーブルの親レコード（ターゲット項目）にリンクします。

「bomputer\k | emoryrize | b」は、被調整フィールド【k | emoryrize | b】へのパスを指定します。

- U 【処理】フィールドで調整タイプ（交換、追加、または削減）を選択します。
- V 【ソース】フィールドに調整値を返すスクリプトを入力します。

```
getu\l=z\odellfv_memoire_b\rette]
```

例：追加の場合、このスクリプトは、調整項目のモデルの「fv\_memoire\_barrette」フィールドの値が被調節フィールドの値に追加されるよう指定します。

W [追加] ボタンをクリックして、調整タイプの作成を確定します。

## 調整項目を作成する

▶ 資産を作成する [参考文献 RT]

ここでは、資産に対応するポートフォリオ品目の作成方法を説明します。

ポートフォリオ品目以外の調整項目を作成する方法については、その他のマニュアルを参照してください（例えば、契約が調整項目となる場合は、マニュアル『**契約**』を参照します）。

## 調整をトリガするリンクを作成する

フィールドを調整するには、調整タイプでリンクを作成する必要があります。

調整項目がポートフォリオ品目であり、調整をトリガするリンクが**【親レコード】**（rpk名：o\rent）リンクである場合、以下の操作を実行します。

P **【ポートフォリオ品目】** テーブルから調整項目を選択します。

2 **【全般】** タブをクリックします。

R **【親レコード】** リンクを入力または作成します。

S ターゲット項目のフィールドが適切に調節されたことを確認します。

## フィールドを調整する [例]

ここでは、調整項目（QTU l aのqA l）を使って、コンピュータレコードの**【メモリ】**フィールドを調整する方法を説明します。

**【ポートフォリオ品目】** テーブルの**【親レコード】**（rpk名：o\rent）リンクを使って、コンピュータとqA l間のリンクを作成すると、コンピュータの**【メモリ】**フィールド（rpk名：l l memoryrize l b）の値にQTU l aのメモリが追加されます。

### 例の詳細

調整項目

**【ポートフォリオ品目】** テーブルの「QTU l aのqA l」レコード

## 例の詳細


ターゲット項目	[ポートフォリオ品目] テーブルの「ターゲットコンピュータ」レコード
被調整フィールド	「ターゲットコンピュータ」レコードの【メモリ】(rpk名: llemoryrize l b) フィールド
調整タイプ	qA l の値をコンピュータのメモリに追加
調整をトリガするリンク	qA l とコンピュータ間の【親レコード】(rpk名: o\rent) リンク

## PL ターゲット項目を作成する

- P 属性のリストを表示します ( [ポートフォリオ/属性] メニュー )。
- 2 [新規作成] をクリックします。
- R [名前] (rpk名: m\me) フィールドに「コンピュータ」と入力します。
- S [オーバーフローテーブル] (rpk名: senverflo•sbl) フィールドで [コンピュータ] を選択します。  
属性の作成方法: ▶ [コンピュータの属性を作成する](#) z 修献 UP]
- T [作成] をクリックします。
- U モデルのリストを表示します ( [ポートフォリオ/モデル] メニュー )。
- V [新規作成] をクリックします。
- W [名前] (rpk名: m\me) フィールドに「ターゲットコンピュータ」と入力します。
- 9 [属性] (rpk名: m\ture) リンクで「コンピュータ」を選択します。  
モデルの作成方法: ▶ [コンピュータのモデルを作成する](#) z 修献 UQ]
- P0 [作成] をクリックします。
- PP ポートフォリオ品目のリストを表示します ( [ポートフォリオ/ポートフォリオ品目] メニュー )。
- P2 [新規作成] をクリックします。
- PR [モデル] (rpk名: lodel) リンクで「ターゲットコンピュータ」を選択します。
- PS [作成] をクリックします。  
オーバーフローテーブル: ▶ [オーバーフローテーブル](#) z 修献 P9]  
コンピュータの作成方法: ▶ [コンピュータを作成する](#) z 修献 UR]  
モデルがコンピュータであるポートフォリオ品目を作成すると、[コンピュータ] テーブルにもレコードが同時に作成されます。
- PT [コンピュータ] タブにある [ハードウェア] サブタブを選択します。


- PU **【メモリ】** ( rpk名 : l l e m o r y r i z e l b ) フィールドに「QTU」と入力します。
- PV **【変更】** をクリックします。

## QL 任意管理項目「RAI」を【モデル】テーブルに追加する



- P 任意管理項目のリストを表示します ( **【管理 / 任意管理項目】**メニュー )。
- 2 **【新規作成】** をクリックします。
- R **【タイトル】** ( rpk名 : s e x t k \ b e l ) フィールドに「qAI」と入力します。
- S **【入力】** タブをクリックします。
- T **【入力タイプ】** ( rpk名 : s e c \ t \ s y p e ) フィールドで **【数値】** を選択します。
- U **【作成】** をクリックします。
- V **【パラメータ】** タブをクリックします。
- W  をクリックします。
- 9 **【テーブル】** ( rpk名 : s \ b l e m \ m e ) フィールドで「モデル ( \ m l o d e l ) 」を選択します。
- P0 **【制限】** タブを選択します。
- PP **【使用可能】** ( rpk名 : s e A v \ i l \ b l e ) フィールドで **【はい】** を選択します。
- P2 **【追加】** をクリックします。
- PR 任意管理項目のリストが再度表示されます。
- PS **【変更】** をクリックします。

## RL 調整項目を作成する

- P 属性のリストを表示します ( **【ポートフォリオ / 属性】**メニュー )。
- 2 **【新規作成】** をクリックします。
- R **【名前】** ( rpk名 : m \ m e ) フィールドに「調整」と入力します。
- S **【作成】** ( rpk名 : s e a \ s i s ) フィールドで「**ポートフォリオ品目**」が選択されていることを確認します。  
属性の作成 [ポートフォリオ品目の属性を作成する](#) z 参考文献 QW。
- T **【作成】** をクリックします。
- U モデルのリストを表示します ( **【ポートフォリオ / モデル】**メニュー )。
- V **【新規作成】** をクリックします。

- W **【名前】** ( rpk名 : m\me ) フィールドに「QTU I aのRA I」と入力します。
- 9 **【属性】** ( rpk名 : m\ture ) リンクで「調整」を選択します。
- P0 **【任意管理項目】** タブをクリックします。
- PP  をクリックします。
- P2 任意管理項目「qA I」を選択します。
- PR **【n j】** をクリックします。
- PS この任意管理項目の値を「QTU」に指定します。
- PT **【作成】** をクリックします。
- PU ポートフォリオ品目のリストを表示します ( **【ポートフォリオ/ポートフォリオ品目】** メニュー )。
- PV **【新規作成】** をクリックします。
- PW **【モデル】** ( rpk名 : lodel ) リンクで「QTU I aのqA I」を選択します。
- P9 **【作成】** をクリックします。

## SL 調整項目のモデル用の調整タイプを作成する

- P モデルのリストを表示します ( **【ポートフォリオ/モデル】** メニュー )。
- 2 モデル「QTU I aのqA I」を選択します。
- R **【調整タイプ】** タブをクリックします。
- S  をクリックします。
- T **【被調整フィールド】** ( rpk名 : s\rgeteield ) フィールドに「oarent||bomputer|| l emoryrize l b」と入力します。  
 を使って、**【コンピュータ】** テーブルの**【メモリ】** ( rpk名 : l l emoryrize l b ) フィールドへの同リンクを見つけることも可能です。
- U スクリプトの**【ソース】** フィールドに「Retual=z l odellfv\_memoire\_barrette]」と入力します。
- V **【処理】** ( rpk名 : senper\tion ) フィールドで**【追加】** を選択します。
- W **【追加】** をクリックします。
- 9 **【変更】** をクリックします。

## TL 調整をトリガする

- P ポートフォリオ品目のリストを表示します ( **【ポートフォリオ/ポートフォリオ品目】** メニュー )。
- 2 「QTU I aのqA I」レコードを選択します。
- R **【全般】** タブをクリックします。




- S **【親レコード】**リンクで、調整の対象となる「ターゲットコンピュータ」レコードを選択します。
- T **【変更】**をクリックします。

## 6 L 調整を確認する

- P コンピュータのリストを表示します（**【ポートフォリオ/コンピュータ】**メニュー）。
- 2 「ターゲットコンピュータ」レコードを選択します。
- R **【ハードウェア】**タブをクリックします。
- S **【メモリ】**（rpk名：MemoryrizeIb）フィールドの値が「TPQ（QTU + QTU）」であることを確認します。

## 7 L 被調整フィールドに関する詳細情報

- P コンピュータのリストを表示します（**【ポートフォリオ/コンピュータ】**メニュー）。
- 2 「ターゲットコンピュータ」レコードを選択します。
- R **【被調整フィールド】**タブをクリックします。
- S **【メモリ】**（rpk名：MemoryrizeIb）フィールドに対応するレコードを選択します。
- T  をクリックして、被調整フィールドに関する以下のような詳細情報を確認します。
  - 調整日
  - 調整前のフィールド値
  - その他



# 8

## 用語解説

本章では、ポートフォリオ管理で使用される用語を解説します。

 注意:

下記の用語は、あいうえお順では記載されていません。

## ポートフォリオ品目

### 属性

**[属性]** テーブルのレコードは、モデルを基にして作成されるレコードのタイプを特定します。モデルを作成する際には、これの基になる属性を指定しなくてはなりません。

以下のタイプのレコードのモデルに対応する属性が存在します。

- ポートフォリオ品目
- 作業指示
- 契約
- 研修

- ケーブル

【属性】テーブルで属性を作成するときに特定のパラメータを設定すると、この属性を基にするモデルに影響が及びます。例えば、【管理条件】(rpk名: se lgtbonstr\int) フィールドで【自由】を選択すると、【資産】テーブルに記録されないポートフォリオ品目のモデルを作成できます。

## モデル

【モデル】テーブルのレコードを使うと、以下のテーブルにレコードを作成できます。

- 【ポートフォリオ品目】テーブル

ポートフォリオ品目が作成されると、以下のオーバーフローテーブルにもレコードが同時作成される場合があります。

- 【資産】テーブル
- 【コンピュータ】テーブル
- 【電話機】テーブル
- 【インストール済ソフトウェア】テーブル
- 【作業指示】テーブル
- 【契約】テーブル
- 【研修】テーブル
- 【ケーブル】テーブル

ポートフォリオ品目を作成する時、この品目の基になるモデルを必ず指定する必要があります。モデル用に入力したデータは、ポートフォリオ品目のレコードに自動的にコピーされます。例えば、コンピュータのプロセッサのタイプ、適用される税率、契約の期間などの情報がコピーされます。

【モデル】テーブルの階層構造に基づいて、ポートフォリオは構成されません。一般的なモデルをまず作成し、これにより詳細な従属モデルを含めるようお勧めします(例: プリンタ/レーザプリンタ/k\serjet W000cm)

## ポートフォリオ品目

ポートフォリオ品目はその基になるモデルの特質を継承します。各ポートフォリオ品目の価値に応じて、モデルの属性で管理条件を指定します。管理条件を指定すると、資産、トラッキングするロット、またはトラッキングしないロットとしてポートフォリオ品目が作成されます。ポートフォリオ品目の基になるモデルの属性でオーバーフローテーブルを指定すると、このポートフォリオ品目を作成する時に、オーバーフローテーブルにもレコードが同時作成されます。以下のオーバーフローテーブルが存在します。

- 【資産】テーブル

- [コンピュータ]テーブル
- [電話機]テーブル
- [インストール済ソフトウェア]テーブル

## 資産

[資産]テーブルのレコードは、高価値のポートフォリオ品目のことを指し、個別にトラッキングされます。各資産にはQつのレコードがリンクされます（[ポートフォリオ品目]テーブルのレコードと[資産]オーバーフローテーブルのレコード）。ポートフォリオ品目の基になるモデルの属性の画面にある[管理条件]（rpk名：se lgtbonstr\int）フィールドで[固有資産タグ]を選択すると、ポートフォリオ品目が作成されるのと同時に、[資産]テーブルにもレコードが作成されます。

資産は必ずポートフォリオ品目ではありませんが、ポートフォリオ品目は必ずしも資産であるとは限りません。

## オーバーフローテーブル

あるテーブルにレコードが作成されると、別のテーブルにもレコードが同時に作成される場合があります。後者のテーブルを、「オーバーフローテーブル」と呼びます。

Assetbenderでは、ポートフォリオ品目の基になるモデルの属性を作成する際に、オーバーフローテーブルを指定できます。[ポートフォリオ品目]テーブルにレコードを作成すると、オーバーフローテーブルにもレコードが同時作成されます。以下のオーバーフローテーブルが存在します。

- [資産]テーブル
- [コンピュータ]テーブル
- [電話機]テーブル
- [インストール済ソフトウェア]テーブル

## ロット

ロットは複数の同一な品物から構成されています。ロットの数量は、品数（椅子P00脚のロット）で表記される場合と、単位（砂Pトンのロット）で表現される場合があります。Pロットを作成すると、リンクされるレコードがQつ作成されます。つまり、[ポートフォリオ品目]テーブルと[資産]テーブルの各々にレコードが作成されます。ポートフォリオではPつのロットを複数のロットに分割することができます。例えば、分割されたロットを異なる場所に割り当てることが可能です。分割が行われると、Q番目のロットの

レコードが作成されます。元のロットのレコードの数量は、Q番目のロットに含まれる数量分減少します。例えば、椅子P00脚のロットから椅子P0脚が別の部署に移動されたと仮定します。元のロットの数量は90脚に減少し、Q番目のレコードは移動された椅子P0脚を含みます。

## トラッキングしないロット

トラッキングしないロットは、【資産】テーブルで対応するレコードを持ちません。トラッキングしないロットを作成するには、ロットの属性で管理条件「個別管理しない」を選択する必要があります。低価値のポートフォリオ品目（消耗品やサプライ品）をトラッキングしないロットとして指定します。トラッキングしないロットに関するトラッキング情報は記録されません。トラッキングしないロットをトラッキングするロットに変換するには、【資産】テーブルに対応するリンクレコードを作成します（【ポートフォリオ品目】テーブルで【タグ】ボタンを使用する）。

## 消耗品

消耗品はポートフォリオ品目です。消耗品を作成するためには、基になるモデルの属性で【消耗品】オプションを選択します。

## 管理条件

ポートフォリオ品目の管理条件は、その属性のレコードで指定されます。どの管理条件を選択するかにより、ポートフォリオ品目に資産タグが割り当てられるかが決まります。資産タグの付いたポートフォリオ品目は、【ポートフォリオ品目】テーブルと【資産】テーブルに自動的に登録されません。

以下の3つの管理条件があります。

- 固有資産タグ  
この制限条件は、ポートフォリオの資産に適用されます。資産には固有資産タグが割り当てられます。
- 資産タグ  
この制限条件は、トラッキングするロットに適用されます。トラッキングするロットが作成されると、これに資産タグが割り当てられます。あるロットとその従属ロットは同一の資産タグを共有します（親ロットと従属ロットは、【資産】テーブルで同じレコードを参照します）。
- 個別管理しない

この制限条件は、トラッキングしないロットに適用されます。トラッキングしないロットには作成時に資産コードが割り当てられません。トラッキングしないロットは、【資産】テーブルでレコードを参照しません。トラッキングしないロットに資産コードを割り当てて、トラッキングするロットに変換することは常時可能です。

## 管理タイプ

Assetbenterでは、ポートフォリオ品目の管理タイプがRつ存在します。

- 個別管理  
資産用で使用されます。各資産は個別にトラッキングされます。
- 一括管理  
ロットで使用されます。ロットに含まれる品物は、【資産】テーブルで個別ではなく、ロット単位でトラッキングされます。例えば、ロットの取得価格は、ロットに含まれる各品物のPつPつの価格ではなく、ロット全体の価格です。
- 非個別管理  
トラッキングしないロットで使用されます。トラッキングしないロットは、【ポートフォリオ品目】テーブルのみに記録されます。しかし、トラッキングしないロットに資産タグを割り当てると、トラッキングするロットとして集合的に管理できます。また、ロットがP品しか含まない場合は、資産として個別に管理することも可能です。

## トラッキング

【資産】テーブルのレコードは以下のRつの分野でトラッキングされます。

- 技術情報のトラッキング  
例：コンピュータのハードウェア情報
- 財務情報のトラッキング  
例：資産の減価償却方法
- 契約情報  
例：サーバのメンテナンス契約

## 在庫

在庫は、割当待ちのポートフォリオ品目を含みます。Assetbenterに在庫規則を関連付けると、再補充が必要な場合に購入依頼が自動的にトリガされません。

## 割当

ポートフォリオ品目の割当は、ポートフォリオにおけるポートフォリオ品目のステータスを指定します。Assetbenterでは次の割当ステータスが使用可能です：[使用中]、[在庫中]、[除却済]、[納品待ち]、[メンテナンスのため返却]、[サプライヤに返却]、[紛失]

## 数量

数量はロット単位で管理するポートフォリオ品目の特徴のPつです。ロットの数量は、品数（椅子P00個のロット）で表記される場合と、単位（砂Pトンのロット）で表現される場合があります。ロットのモデルを使用すると、数量を指定しつつ異なる複数のロットを作成できます。

## ソフトウェア

### インストール済ソフトウェア

インストール済ソフトウェアは、データベースではポートフォリオ品目で表されます。

ソフトウェアがコンピュータに物理的にインストールされている場合、コンピュータのコンポーネントとして宣言することができます。

ソフトウェアが物理的なインストールを必要としない場合、ユーザと関連付けることができます。

### ソフトウェアライセンス

ソフトウェアライセンスは、ユーザの権利（可能なインストール数、データベースアクセス数など）を記述する資産です。

例Y AssetbenterデータベースへのP000個のアクセス権を与えるライセンス。

ライセンスの契約に関する側面は、契約レベルで記述されます。

### ライセンス / 資格権限

ソフトウェアカウンタは、ライセンス / 資格をカウントし、インストール / 使用のカウント結果と比較します。



## ソフトウェアカウンタ

ソフトウェアカウンタは、権限カウントとインストール/使用カウントの間の調整に用いられます。

これらのカウンタは、(ユーザ、コストセンタなどによって)グループにまとめることができます。

カウンタを使えば以下のことが可能です。

- ソフトウェアプロバイダとの適合性の検証
- 内部方針との適合性の検証

カウンタを使えば、ソフトウェア以外のものも容易にカウントできます。

## 特定資格

ソフトウェアカウンタは、権限とインストール/使用をカウントします。

権限については、カウントの元になるレコードを単純なクエリで識別することが多くの場合に可能です(例えば、会計部署の全従業員)。

ただし、単純なクエリを定義することが常に可能だとは限りません(例えば、使用するレコードに共通する要素がない場合)。

この場合、選択するレコードをPフPフ記載した特定資格を定義する必要があります。

## プロジェクト

### プロジェクト

プロジェクトは、ポートフォリオ品目や従業員に関連付けられています(例: ある部署を複数の部署に分割する)。Assetbenterでは、企業のあらゆるプロジェクトを正確にトラッキングできます。プロジェクトは、契約や作業指示を必要とすることもあります。



# 9 | 参考情報（ポートフォリオ）

## メニューとタブページ（ポートフォリオ）

ポートフォリオモジュールでは、多数のメニューを使用します。  
ポートフォリオモジュールに直接関連するメニューは以下のとおりです。

表 9||PII メニューとタブページ（ポートフォリオ）<sup>1</sup> 一覧

サブメニュー	アクセスする テーブル（テー ブル名と rpk 名）	専用のタブ、 フィールドま たはリンク	コメント	関連するマニ ュアルの章
<hr/> <b>[ファイル]メニュー</b> <hr/>				

サブメニュー	アクセスする テーブル(テー ブル名とrpk 名)	専用のタブ、 フィールドま たはリンク	コメント	関連するマニ ュアルの章
モジュールの起 動	m\A	m\A	カタログモ ジュールを起動 / 解除します (ライセンスで 許可されている 場合)。	マニュアル『は じめに』の 「ユーザのコン ピュータで Assetbenterをカ スタマイズす る」の章、「モ ジュールを起動 する」の節を参 照してくださ い。
<b>[ポートフォリオ]メニュー</b>				
ポートフォリオ 品目	ポートフォリオ 品目 (\moortfolio)	• すべて		ポートフォリオ 品目 z <sup>修</sup> 献 QV]
資産とロット	資産 (\mAsset)	• すべて		資産 z <sup>修</sup> 献 RS] ロット z <sup>修</sup> 献 RW] トラッキングし ないロット z <sup>修</sup> 献 SR]
コンピュータ	コンピュータ (\mbomputer)	• すべて		hsポートフォリ オ z <sup>修</sup> 献 UP]
電話機	電話機 (\mohone)	• すべて		電話機 z <sup>修</sup> 献 PRT]
社内依頼	依頼 (\mqequest)	• [交換]タ ブ		ポートフォリオ 品目の移動 z <sup>修</sup> 献 TO]
属性	属性 (\mm\ture)	• すべて		属性 z <sup>修</sup> 献 QV]
モデル	モデル (\m l odel)	• すべて		モデル z <sup>修</sup> 献 RO]
依頼テンプレ ート	依頼 (\mqequest)	• [交換]タ ブ		ポートフォリオ 品目の移動 z <sup>修</sup> 献 TO]
メーカー	メーカー (\mar\nd)	• すべて		ポートフォリオ 品目のモデルを 作成する z <sup>修</sup> 献 RP]

サブメニュー	アクセスする テーブル(テー ブル名とrpk 名)	専用のタブ、 フィールドま たはリンク	コメント	関連するマニ ュアルの章
ソフトウェアカ ウンタ	ソフトウェアカ ウンタ (\mrdtkibcounter)	• すべて		ソフトウェア管 理 z <sup>修</sup> 献 W9]
ライセンスの検 証	ワークフロー チャート (\mvfrcheme)	• すべて		ソフトウェアラ イセンス z <sup>修</sup> 献 WW]
場所	場所 (\mkoc\tion)	• <b>[ ポート フォリオ ]</b> タブ		ポートフォリオ 品目のコンテキ スト情報とト ラッキング情報 z <sup>修</sup> 献 QQ]
部署と従業員	従業員 (\mdmplcept)	• <b>[ ポート フォリオ ]</b> タブ		ポートフォリオ 管理の主要テー ブル z <sup>修</sup> 献 PV]
特定資格	特定資格 (\mdntitlement)	• すべて		
プロジェクト	プロジェクト (\moroject)	• <b>[ 資産 ]</b> タ ブ		プロジェクト z <sup>修</sup> 献 PSS]
在庫	在庫 (\mrtock)	• すべて		在庫 z <sup>修</sup> 献 TS]
作業指示	作業指示 (\mvorknrder)	• <b>[ 消耗品 ]</b> タブ		作業指示 z <sup>修</sup> 献 PR9]
<b>[ 調達 ] メニュー</b>				
購入依頼	依頼 (\mqequest)	• <b>[ 交換 ]</b> タ ブ • <b>[ 配達先在 庫 ]</b> ( rpk 名 : rtock ) リ ンク		ポートフォリオ 品目の移動 z <sup>修</sup> 献 T0]
発注と見積	発注 (\mnrder)	• <b>[ 配達先在 庫 ]</b> ( rpk 名 : rtock ) リ ンク		在庫 z <sup>修</sup> 献 TS]

サブメニュー	アクセスする テーブル(テー ブル名とrpk 名)	専用のタブ、 フィールドま たはリンク	コメント	関連するマニ ュアルの章
受領	受領 (\mqreceipt)	<ul style="list-style-type: none"> <li>• <b>[ 配達先在庫 ]</b> ( rpk 名 : rtock ) リンク</li> </ul>		在庫 z倭献 TS]
<b>[ 契約 ] メニュー</b>				
契約	契約 (\mbontr\ct)	<ul style="list-style-type: none"> <li>• <b>[ 資産 ]</b> タブ</li> <li>• <b>[ 資産 (リース) ]</b> タブ</li> </ul>		資産を契約に 関連付ける z倭献 TR]
一括発注	契約 (\mbontr\ct)	<ul style="list-style-type: none"> <li>• <b>[ 資産 ]</b> タブ</li> <li>• <b>[ 資産 (リース) ]</b> タブ</li> </ul>		資産を契約に 関連付ける z倭献 TR]
マスターリース	契約 (\mbontr\ct)	<ul style="list-style-type: none"> <li>• <b>[ 資産 ]</b> タブ</li> <li>• <b>[ 資産 (リース) ]</b> タブ</li> </ul>		資産を契約に 関連付ける z倭献 TR]
リース明細	契約 (\mbontr\ct)	<ul style="list-style-type: none"> <li>• <b>[ 資産 ]</b> タブ</li> <li>• <b>[ 資産 (リース) ]</b> タブ</li> </ul>		資産を契約に 関連付ける z倭献 TR]
返却L期間満了	返却 (\mqetumdrv)	<ul style="list-style-type: none"> <li>• <b>[ 資産 ]</b> タブ</li> </ul>		資産を契約に 関連付ける z倭献 TR]
<b>[ ファイナンス ] メニュー</b>				
固定資産	固定資産 (\meixedAsset)	<ul style="list-style-type: none"> <li>• <b>[ 資産 ]</b> タブ</li> </ul>		資産に関する財 務情報のトラッ キング z倭献 ST]
<b>[ ツール ] メニュー</b>				

サブメニュー	アクセスする テーブル(テー ブル名とrpk 名)	専用のタブ、 フィールドま たはリンク	コメント	関連するマニ ュアルの章
アクション / 編 集	アクション (\mAction)	m\A		マニュアル『は じめに』の「参 考情報」の章、 「アクション」 の節を参照して ください。
アクション / [ アクションの名 前]	m\A	m\A	コンテキストア クションまたは コンテキスト外 アクションにア クセスできま す。 選択されたアク ションをトリガ します。	アクションと ウィザード (ポートフォリ オ) z <sup>修</sup> 献 P\WJ]
ツールバーのカ スタマイズ	m\A	m\A	ツールバーのア イコンを表示 / 非表示にしま す。	ツールバーのア イコン (ポート フォリオ) z <sup>修</sup> 献 P\UWJ]
レポート機能 / レポート	レポート (\mqeport)	m\A	印刷可能なレ ポートにアクセ スできます。	レポートと書式 (ポートフォリ オ) z <sup>修</sup> 献 P\WPJ]
レポート機能 / 書式	内部用書式 (\meorm)	m\A		レポートと書式 (ポートフォリ オ) z <sup>修</sup> 献 P\WPJ]
<b>[管理]メ ニュー</b>				
画面一覧	m\A	m\A	メニューからア クセスできない テーブルを表示 します。 このようなテー ブルは直接変更 してはならない ため、管理者の みが同メニュー にアクセスでき ます。	マニュアル『は じめに』の「レ コードリスト」 の章、「リスト を使う」の節を 参照してくださ い。

サブメニュー	アクセスする テーブル(テー ブル名と rpk 名)	専用のタブ、 フィールドま たはリンク	コメント	関連するマニ ュアルの章
リストデータ	リストデータ (\mitemizedkist)	m\A		リストデータ (ポートフォリ オ) z <sup>修</sup> 献 PVT]
カウンタ	カウンタ (\mbounter)	m\A		カウンタ(ポ ートフォリオ) z <sup>修</sup> 献 PVV]
特殊フィールド	特殊フィールド (\mb\lceield)	m\A		特殊フィールド (ポートフォリ オ) z <sup>修</sup> 献 PVU]
接続タイプ	接続タイプ (\mbnxsype)	すべて		コンピュータ間 の接続 z <sup>修</sup> 献 UT] 接続を作成する z <sup>修</sup> 献 UV]

## ツールバーのアイコン (ポートフォリオ)

ツールバーに表示されるアイコンの中には、ポートフォリオモジュールに固有のものがいくつかあります。

アイコンのリストを表示して、ツールバーに追加するには、次の手順に従います。

**P** [ツール/ツールバーのカスタマイズ]メニューを選択します。

**2** [ツール]タブをクリックします。

**R** [カテゴリ]リストから[ポートフォリオ]を選択します。

**S** 希望するアイコンをドラッグ E ドロップしてツールバーに表示します。

ツールバーのカスタマイズに関する詳細は、マニュアル『はじめに』の「ユーザのコンピュータでAssetbenterをカスタマイズする」の章、「ツールバーをカスタマイズする」の節を参照してください。

## インタフェースのオプション (ポートフォリオ)

ポートフォリオモジュールに固有のインタフェースのオプションはありません。



インターフェースのオプションに関する詳細は、マニュアル『はじめに』の「ユーザのコンピュータでAssetbenterをカスタマイズする」の章を参照してください。

## テーブル (ポートフォリオ)

ポートフォリオモジュールでは、多数のテーブルを使用します。  
ポートフォリオモジュールで使用するテーブルの一覧は以下のとおりです。

表 911Q11 テーブル (ポートフォリオ) L 一覧

テーブル名	テーブルの rpk 名	テーブルにアクセスするために使用するメニュー	関連するマニュアルの章
<b>一般的なテーブル</b>			
資産	\mAsset	[ポートフォリオ/ポートフォリオ品目]メニュー [ポートフォリオ/資産とロット]メニュー	ポートフォリオ管理の主要テーブル z 修献 PV] 資産 z 修献 RS]
プロジェクトに含まれる資産	\mAstorojcesc	[資産/プロジェクト]メニュー、[資産]タブ	ポートフォリオ管理の主要テーブル z 修献 PV] プロジェクト z 修献 PSS]
交換された資産	\mqelAstqeplqeq	[調達/購入依頼]、[交換]タブ [調達/社内依頼]、[交換]タブ	ポートフォリオ管理の主要テーブル z 修献 PV] 資産 z 修献 RS]
接続	\mbonnection	[ポートフォリオ/資産とロット]メニュー、[接続]タブ	コンピュータ間の接続 z 修献 UT]
減価償却引当金	\mcprkine	[ファイナンス/固定資産]メニュー、[貸方]タブ	資産に関する財務情報のトラッキング z 修献 ST]

テーブル名	テーブルの rpk名	テーブルにアクセスするために使用するメニュー	関連するマニュアルの章
ポートフォリオ品目	\moortfolio	[ポートフォリオ/ポートフォリオ品目]メニュー	ポートフォリオ管理の主要テーブル z 倭献 PV]
減価償却の計算式	\mceprcheme	[ファイナンス/減価償却の計算式]メニュー	資産に関する財務情報のトラッキング z 倭献 ST]
固定資産	\meixedAsset	[ポートフォリオ/資産とロット]メニュー、[固定資産]タブ [ファイナンス/固定資産]メニュー	資産に関する財務情報のトラッキング z 倭献 ST]
作業指示	\m v orknrder	[ポートフォリオ/作業指示]メニュー	作業指示 z 倭献 PR9]
メーカー	\mar\nd	[ポートフォリオ/メーカー]メニュー	ポートフォリオ品目のモデルを作成する z 倭献 RP]
モデル	\m l odel	[ポートフォリオ/モデル]メニュー	ポートフォリオ管理の主要テーブル z 倭献 PV] モデル z 倭献 R0]
属性	\mm\ture	[ポートフォリオ/属性]メニュー	オーバーフローテーブル z 倭献 P9]
在庫規則	\mrtockqule	[ポートフォリオ/在庫]メニュー、[管理]タブ	在庫 z 倭献 TS]
資産L固定資産の関係	\mqeleixedAsset	[ポートフォリオ/資産とロット]メニュー、[固定資産]タブ	資産に関する財務情報のトラッキング z 倭献 ST]
在庫	\mrtock	[ポートフォリオ/在庫]メニュー	在庫 z 倭献 TS]
単位	\m t nit	[管理/単位]メニュー	ロットで使用する単位 z 倭献 RR]
<b>コンピュータ用のテーブル</b>			
コンピュータ	\mbomputer	[ポートフォリオ/資産とロット]メニュー、[コンピュータ]タブ	オーバーフローテーブル z 倭献 P9]

テーブル名	テーブルの rpk名	テーブルにアクセスするために使用するメニュー	関連するマニュアルの章
接続タイプ	\mbnxsype	[管理 / 接続タイプ]メニュー	コンピュータ間の接続 z[参考文献 UT] 接続を作成する z[参考文献 UV]
<b>ソフトウェア用のテーブル</b>			
特定資格	\mdntitlement	ポートフォリオ / 特定資格	実用例PcY 権利の内部割り当て z[参考文献 P09]
ソフトウェアアカウント	\mroftkickcounter	ポートフォリオ / ソフトウェアアカウント [管理 / 画面一覧]、[ソフトウェアアカウント (従来の形式)] 行	ソフトウェア管理 z[参考文献 W9]
権限 / 使用カウント	\mqights t sesbount	管理 / 画面一覧、[権利 / 使用カウント] 行	定期削除 z[参考文献 9W]
作成するインストール	\m l odel rofthnfo	[管理 / 画面一覧] メニュー、[作成するインストール] テーブル	インストール済ソフトウェア z[参考文献 WU]
インストール済ソフトウェア	\mrofthnst\ll	[管理 / 画面一覧] メニュー、[インストール済ソフトウェア] テーブル	インストール済ソフトウェア z[参考文献 WU]
<b>調整項目用のテーブル</b>			
被調整フィールド	\meieldAdjust	[管理 / 画面一覧] メニュー、[被調整フィールド] テーブル	調整項目 z[参考文献 PST]
調整項目	\mAdjustment	[ポートフォリオ / ポートフォリオ品目] メニュー、[調整] タブ	調整項目 z[参考文献 PST]
調整タイプ	\meieldAdjustsemp	[ポートフォリオ / モデル] メニュー、[調整タイプ] タブ	調整項目 z[参考文献 PST]
<b>電話機用のテーブル</b>			

テーブル名	テーブルの rpk 名	テーブルにアクセスするために使用するメニュー	関連するマニュアルの章
ボタン / 機能割当	\mojes	[管理 / 画面一覧] メニュー、[ボタン / 機能割当] テーブル	電話機 z 修献 PRT]
電話機能	\mohoneee\t	[管理 / 画面一覧] メニュー、[電話機能] テーブル	電話機 z 修献 PRT]
電話機能のモデル	\mohoneee\tsemp\te	[管理 / 画面一覧] メニュー、[電話機能のモデル] テーブル	電話機 z 修献 PRT]
電話機	\mohone	[ポートフォリオ / 電話機] メニュー	電話機 z 修献 PRT]

## テーブル間の依存関係（ポートフォリオ）

ポートフォリオモジュールでは、Assetbenterデータベースの数多くのテーブルを使用します。これらのテーブル間には多数のリンクが存在するため、テーブルの入力順を最適化することをお勧めします。

以下で記述する入力順に必ずしも従う必要はありません。Assetbenterでは、リンクするテーブルで欠けているレコードを必要に応じて作成することができます。

リンクされているテーブルの一覧とレコードの能率的な入力順は、以下の表のとおりです。

本マニュアルで記述したシナリオ例では、以下の入力順に従って操作が進められています。

ポートフォリオモジュールに間接的に関連する以下のテーブルは、ここでは省略されています。

- [メーカー] テーブル
- [場所] テーブル
- [プロジェクト] テーブル
- [作業指示] テーブル

またポートフォリオモジュールに直接関連する補助テーブルも除外されています。主要テーブルにレコードが作成されると、これらのテーブルにも自動的に値が入力されます。

表 9[R] テーブル間の依存関係 (ポートフォリオ) 表

テーブル(テーブル名と rpk 名)	前もって入力する必要があるテーブル(テーブル名と rpk 名)	必須の値	自動的に作成されるレコード
モデル (\m  odel)	属性 (\mm\ture)		
ポートフォリオ (\moortfolio)	P 属性 (\mm\ture) Q モデル (\m  odel)		
資産 (\mAsset)	P 属性 (\mm\ture) Q モデル (\m  odel)		
インストール済ソフトウェア (\mroftnst\l)	P 属性 (\mm\ture)          Q モデル (\m  odel)	<b>[作成]</b> ( rpk 名 : sea\sis ) フィールド : ポートフォリオ 品目 <hr/> <b>[オーバーフローテーブル]</b> ( rpk名 : senverflo•sbl ) フィールド : イ ンストール済ソ フトウェア <hr/> <b>[管理条件]</b> ( rpk名 : se lgtbonstr\int ) フィールド : 資 産タグ	ポートフォリオ 品目

テーブル(テーブル名と rpk 名)	前もって入力する必要があるテーブル(テーブル名と rpk 名)	必須の値	自動的に作成されるレコード
コンピュータ (\mbomputer)	PII 属性 (\mm\ture)	<b>【作成】</b> (rpk 名: sea\sis) フィールド: ポートフォリオ品目 <hr/> <b>【オーバーフローテーブル】</b> (rpk 名: senverflo•sbl) フィールド: コンピュータ <hr/> <b>【管理条件】</b> (rpk 名: se lgtbonstr\int) フィールド: 固有資産タグ	<ul style="list-style-type: none"> <li>ポートフォリオ品目</li> <li>資産</li> </ul>
	QII モデル (\m l odel)		
電話機 (\mohone)	PII 属性 (\mm\ture)	<b>【作成】</b> (rpk 名: sea\sis) フィールド: ポートフォリオ品目 <hr/> <b>【オーバーフローテーブル】</b> (rpk 名: senverflo•sbl) フィールド: 電話機 <hr/> <b>【管理条件】</b> (rpk 名: se lgtbonstr\int) フィールド: 固有資産タグ	<ul style="list-style-type: none"> <li>ポートフォリオ品目</li> <li>資産</li> </ul>
	QII モデル (\m l odel)		

## リストデータ（ポートフォリオ）

フィールドに値を入力する際に、リストデータ（オープン/クローズド）を使って値を選択する場合があります

【管理/リストデータ】メニューを選択して【リストデータ】（rpk名：  
`\mhtemizedkist`）テーブルを表示します。

ポートフォリオモジュール専用のリストデータは、以下のとおりです。

表 9111 リストデータ（ポートフォリオ）L 一覧

テーブル（テーブル名とrpk名） リストデータを使って入力するフィールド（フィールド名とrpk名） リストデータの識別子

テーブル（テーブル名とrpk名）	リストデータを使って入力するフィールド（フィールド名とrpk名）	リストデータの識別子
<b>一般的なリストデータ</b>		
資産 (\mAsset)	理由 ( cisposqe\son )	\m cisposqe\son
	条件 ( l \intbond )	\m l \intbond
	nr ( roftnr )	\mnr
	メディア ( roft l edi\ )	\mroft l edi\
	ステータス ( rt\tus )	\mrt\tus
	終了オプション ( serminnpt )	\mserminnpt
	条件 ( v \rrbond )	\m v \rrbond
固定資産 (\meixedAsset)	計算方法 ( ceprb\lc l ode )	\m ceprb\lc l ode
	減価償却方法 ( cepr rcheme )	\m cepr sype
	分類 ( e\mily )	\meixedAste\mily
モデル (\m l odel)	ケーブルのタイプ ( b\blesype )	\mb\blesype
	承認 ( bertific\tion )	\mbertific\tion
	契約の属性 ( bontr\ctm\ture )	\mbntrm\ture
	bot ( bo t sype )	\mbo t sype
	デバイスのタイプ ( cevicesype )	\m cevicesype
	nr ( roftnr )	\mnr
	メディア ( roft l edi\ )	\mroft l edi\
	優先度 ( v noriority )	\m v noriority
在庫 (\mrtock)	優先度 ( qeqoriority )	\mqeqoriority
	ステータス ( qeqrt\tus )	\mqeqrt\tus
	タイプ ( qeqsype )	\mqeqsype
単位 ( \m t nit )	次元 ( cimension )	\m cimension
	基準単位 ( cstbonvrym )	\m t nit rymbol
	記号 ( rymbol )	\m t nit rymbol
減価償却引当金 (\m cprkine)	分類 ( e\mily )	\meixedAste\mily

テーブル(テーブル名と rpk 名) リストデータを使って入力するフィールド(フィールド名と rpk 名) リストデータの識別子

#### コンピュータに固有のリストデータ

コンピュータ (\mbomputer)	コンピュータのタイプ ( bcomputersype )	\mbomputersype
	bot のバージョン ( bot hntern \l )	\mbo t hntern \l
	bot のタイプ ( bot sype )	\mbo t sype
	n r ( nper \tingrystem )	\mn r
	スキャナの記述 ( rc \nnercesc )	\mrc \nnercesc
	スキャナのバージョン ( rc \nneruersion )	\mrc \nneruersion
接続 (\mbonnection)	フィールドQ ( eieldQ )	\mbnxieldQ
<b>ソフトウェアに固有のリストデータ</b>		
ソフトウェアカ ウンタ (\mrdtkicbaurter)	属性 ( sype )	\mrk bountm \ture

リストデータの詳細に関しては、マニュアル『Assetbenterの高度な使い方』の「リストデータ」の章を参照してください。

## 特殊フィールド (ポートフォリオ)

ポートフォリオモジュールでは、特定の特殊フィールドを使用します。これらの特殊フィールドは、特定のフィールドのデフォルト値で使用されています。

ポートフォリオモジュールに固有の特殊フィールドは、以下のとおりです。



表 9111 特殊フィールド（ポートフォリオ）L 一覧

特殊フィールドの名前	特殊フィールドの rpk 名	特殊フィールドの適用先テーブル（テーブル名と rpk 名）	使用
P年間当たりの sbn	Avgxe\rlysc	モデル (\m lodel) 資産 (\mAsset)	資産のP年当たりのsbnを計算します。

上記の特殊フィールドは、カスタマイズ可能です。

特殊フィールドの詳細に関しては、マニュアル『Assetbenterの高度な使い方』の「特殊フィールド」の章を参照してください。

スクリプトの詳細に関しては、マニュアル『Assetbenterの高度な使い方』の「スクリプト」の章を参照してください。

Aohの使用に関する情報は、マニュアル『プログラマーズリファレンス』を参照してください。

## カウンタ（ポートフォリオ）

ポートフォリオモジュールでは、以下のカウンタを使用します。

これらのカウンタは、特定のフィールドのデフォルト値で使用されています。

[管理/カウンタ]メニューを選択して[カウンタ]（rpk名：\mbounter）テーブルを表示します。

ポートフォリオモジュールに直接関連するカウンタは以下のとおりです。

表 9116 カウンタ（ポートフォリオ）L 一覧

カウンタの rpk 名	カウンタを使用するテーブル（テーブル名と rpk 名）	カウンタを使用するフィールド（フィールド名と rpk 名）
\m lodel_a\rbode	モデル (\m lodel)	バーコード (a\rbode)
\m lodel_lodelqef	モデル (\m lodel)	モデル参照番号 (lodelqef)

カウンタの rpk 名	カウンタを使用するテーブル (テーブル名と rpk 名)	カウンタを使用するフィールド (フィールド名と rpk 名)
\mm\ture_bode	属性 (\mm\ture)	コード (bode)
\mrtock_bode	在庫 (\mrtock)	コード (bode)

カウンタの詳細については、マニュアル『管理』の「データベースのカスタマイズ」の章、「フィールドのデフォルト値のカウンタ」を参照してください。

## アクションとウィザード (ポートフォリオ)

ポートフォリオモジュールでは、一般的なタスクを自動化するためにアクションを使用します。

【ツール/アクション/編集】メニューを選択して【アクション】(rpk名: \mAction) テーブルを表示します。

以下のフィールドのPつを使ってシンプルフィルタを適用すると、ポートフォリオモジュールに関連するアクションを容易に検索できます。

- 【ドメイン】(rpk名: com\in) フィールド
- 【属性】(rpk名: com\in) フィールド

ポートフォリオモジュールに直接関連するアクションは以下のとおりです。

表 91711 アクションとウィザード (ポートフォリオ) L 一覧

アクション名	アクションの rpk 名	アクションのタイプ	アクションのコンテキスト (テーブルの rpk 名)	関連するマニュアルの章
<b>一般的なアクションとウィザード</b>				
ロットの分割	sysrplitAssignment	ウィザード	ポートフォリオ品目 (\moortfolio)	ロット z 倭献 RW]
依頼の品目を作成する	sysorocqrequestdexecuteAll	ウィザード	依頼 (\mqrequest)	ポートフォリオ品目の移動 z 倭献 TO]
ポートフォリオ品目に資産タグを付ける	sys\ghtem	ウィザード	ポートフォリオ品目 (\moortfolio)	トラッキングしないロット z 倭献 SR]
<b>コンピュータに固有のアクションとウィザード</b>				

アクション名	アクションの rpk 名	アクションのタイプ	アクションのコンテキスト (テーブルの rpk 名)	関連するマニュアルの章
新しいコンピュータのグループ	sysborebpume	ウィザード	コンピュータ ( \mbomputer )	コンピュータ z 倭献 UP]
<b>ソフトウェアに固有のアクションとウィザード</b>				
カウンタの作成	sysboreoftkicbounterbrele	ウィザード		ウィザードを使ったカウンタの作成 z 倭献 9T]
単純なカウンタを作成します	sysbaerimperoftbounterbrele	ウィザード		ウィザードを使ったカウンタの作成 z 倭献 9T]
ソフトウェアカウンタの再起動	sysboreoftkicbountb\lc	スクリプト	ソフトウェアカウンタ ( \mroftkicbounter )	ソフトウェアカウンタの結果の更新 z 倭献 9W]

アクションの詳細に関しては、マニュアル『Assetbenterの高度な使い方』の「アクション」の章を参照してください。

スクリプトの詳細に関しては、マニュアル『Assetbenterの高度な使い方』の「スクリプト」の章を参照してください。

Aohの使用に関する情報は、マニュアル『プログラマーズリファレンス』を参照してください。

新しいアクションの作成や、既存のアクションのカスタマイズが可能です。

## Assetbenter rerverモジュール (ポートフォリオ)

ポートフォリオモジュールでは、以下のAssetbenter rerverモジュールを使用します。

ポートフォリオモジュールで使用されるAssetbenter rerverモジュールを表示するには、次の手順に従います。

- P Assetbenter rerverを起動します。
- 2 Assetbenterデータベースに接続します。
- R [ ツール / モジュールの設定 ] メニューを選択します。

表 91181 Assetbenter rerverモジュール (ポートフォリオ) 一覧

モジュール名	説明
<b>一般的なモジュール</b>	
Add t ser	データベースにmsユーザを追加
rtock	在庫の検証
celivery	受領品に対応する資産、消耗品などの作成
<b>コンピュータに固有のモジュール</b>	
Addbpu	データベースにmsドメインのコンピュータを追加
f etesf	スキャナの結果を取得
hddAc	スキャナの結果を基にデータベースを更新
rendrc\n	スキャナをコンピュータに送信

Assetbenter rerverモジュールの詳細については、マニュアル『管理』の「Assetbenter rerver」の章、「Assetbenter rerverでモニタするモジュールを設定する」の節を参照してください。

## システムデータと専門分野データ (ポートフォリオ)

Assetbenterは、以下の標準データパッケージと共に提供されています。これらのデータパッケージは、以下のグループに分類できます。

- **システムデータ**：Assetbenterの使用に不可欠のデータ
- **専門分野データ**：必要に応じて、実際のデータベースに挿入するデータ  
このデータは、機能別に分類されています。
- **サンプルデータ**：Assetbenterの使用に慣れるために便利なデータ

### ポートフォリオモジュールに関連するシステムデータ

ポートフォリオモジュールに関連するシステムデータはありません。

### ポートフォリオモジュールに関連する専門分野データ

ポートフォリオモジュールに関しては、**専門分野データ**は、多数のテーブル用にデータを含んでいます。これらのテーブルの例は、以下のとおりです。

- **[アクション]** ( rpk名：\mAction ) テーブル  
例：プロジェクトに従業員と資産を割り当て
- **[任意管理項目]** ( rpk名：\mee\ture ) テーブル
- **[アプリケーションのオプション]** ( rpk名：\mnption ) テーブル

ポートフォリオモジュールに関連する**専門分野データ**は、Assetbenterと共にインストールされるデモ用データベースに自動的に含まれます。

ポートフォリオモジュールに関連する**専門分野データ**を実際のデータベースでも使用するには、Assetbenter c:\t\b\se Administr\torでこれを指定する必要があります。

## レポートと書式（ポートフォリオ）

Assetbenterは、ポートフォリオモジュールの書式とレポートと共に提供されています。

レポートと書式をデータベースで使用するには、Assetbenter c:\t\b\se Administr\torを使ってインポートを行う必要があります。

### ポートフォリオモジュール専用のレポートをインポートおよび識別する

レポートのインポートについては、マニュアル『Assetbenterの高度な使い方』の「brystal Reports」の章、「レポート作成プログラムの操作とインストール/既製のbrystal Reportsレポートを実際に使用するデータベースにインストールする」の節を参照してください。

ポートフォリオモジュール専用のレポートを見分ける方法については、マニュアル『Assetbenterの高度な使い方』の「brystal Reports」の章、「モジュールに関連するbrystalレポートの識別」の節を参照してください。

### ポートフォリオモジュール専用の書式をインポートおよび識別する

書式のインポートについては、マニュアル『Assetbenterの高度な使い方』の「書式」の章、「既製の書式を実際に使用するデータベースにインストールする」の節を参照してください。

ポートフォリオモジュール専用の書式を見分ける方法については、マニュアル『Assetbenterの高度な使い方』の「書式」の章、「モジュールに関連する書式の識別」を参照してください。

## 自動プロセス（ポートフォリオ）

Assetbenterがバックグラウンドで実行する自動プロセスについては、マニュアル『データベース構造』を参照してください。同マニュアルで記述されている各テーブルの章ごとに、「自動プロセス」という節があります。

## AoI (ポートフォリオ)

ポートフォリオモジュールに関連するAssetbenter Aohがいくつかあります。ポートフォリオモジュールに関連するAohの一覧および説明については、マニュアル『プログラマーズリファレンス』を参照してください。

## ビュー (ポートフォリオ)

ポートフォリオモジュール用のデフォルトのビューはありません。ビューの詳細に関しては、マニュアル『はじめに』の「ビューの使用方法」の章を参照してください。

## その他のマニュアル (ポートフォリオ)

このマニュアルは、ポートフォリオモジュールに直接関連する情報のみを記載しています。

本マニュアルに加えて、以下のマニュアルを参照することをお勧めします。

表 91911 その他のマニュアル (ポートフォリオ) L 一覧

マニュアル名		フォー マット	Assetbenterのインストール先 フォルダにおけるパス
インストール	<ul style="list-style-type: none"> <li>Assetbenterのインストール方法</li> </ul>	印刷版 オンライン	<code>/doc/pdf/inst\1\1tion11.pdf</code> <code>/doc/chm/inst\1111chm</code>
主要テーブル	<ul style="list-style-type: none"> <li>場所の管理</li> </ul>	印刷版 オンライン	<code>/doc/pdf/bommons\bles11.pdf</code> <code>/doc/chm/common111chm</code>
はじめに	<ul style="list-style-type: none"> <li>ソフトウェアのインタフェース</li> </ul>	印刷版 オンライン	<code>/doc/pdf/t serhnterf\cel11.pdf</code> <code>/doc/chm/userint111chm</code>
ケーブル	<ul style="list-style-type: none"> <li>ケーブルの管理</li> </ul>	印刷版 オンライン	<code>/doc/pdf/b\bleAndbircuit11.pdf</code> <code>/doc/chm/c\ble111chm</code>

マニュアル名	フォーマット	Assetbenterのインストール先フォルダにおけるパス
データベース管理	<ul style="list-style-type: none"> <li>ウィザードの使用</li> <li>フィールドのカスタマイズ</li> <li>特殊フィールドの使用</li> </ul>	印刷版 <a href="#">/doc/pdf/Administration11.pdf</a> オンライン <a href="#">/doc/chm/Admin11.chm</a>
Assetbenterの高度な使い方	<ul style="list-style-type: none"> <li>リストデータの管理</li> <li>スクリプトの作成</li> </ul>	印刷版 <a href="#">/doc/pdf/Advanced11.pdf</a> オンライン <a href="#">/doc/chm/Advanced11.chm</a>
フィールドおよびリンクに関する状況依存ヘルプ	<ul style="list-style-type: none"> <li>データベースのフィールドおよびリンクの使用</li> </ul>	オンライン フィールドまたはリンクに関する状況依存ヘルプにアクセスするには、次の手順に従います。 P フィールドまたはリンクを選択します。 2 次のアクションのPつを実行します。 <ul style="list-style-type: none"> <li>右クリックして、<b>[フィールドのヘルプ]</b>メニューを選択します。</li> <li>キーボードで <b>[Shift + eP]</b> キーを押します。</li> <li><b>[ヘルプ/フィールドのヘルプ]</b>メニューを選択します。</li> </ul>
プログラマーズリファレンス	<ul style="list-style-type: none"> <li>Aohの使用</li> </ul>	印刷版 <a href="#">/doc/pdf/programmersreference11.pdf</a> オンライン <a href="#">/doc/progref11.chm</a>
データベース構造	<ul style="list-style-type: none"> <li>データベースのテーブル、フィールド、リンク、インデックスの一覧</li> <li>Assetbenterが自動的にトリガするエージェント</li> </ul>	テキストファイル <a href="#">/doc/infos/tables.txt</a> <a href="#">/infos/tables.txt</a> オンライン <a href="#">/doc/chm/abstract11.chm</a>

マニュアル名	フォー マツト	Assetbenterのインストール先 フォルダにおけるパス
オンラインヘルプ	• アプリケーショ ンの全機能	オンラインヘルプにアクセス するには、以下の操作のPつを 行います。 P キーボードで【eP】キーを 押します。 2 【ヘルプ/インデックス】 メニューを選択します。



# インデックス

## 目次

アイコン<sup>K</sup> P UW  
アクション<sup>K</sup> P V W  
インストール  
    <sup>G</sup>参考 ソフトウェア<sup>H</sup>  
インストール済ソフトウェア  
    <sup>G</sup>参考 ソフトウェア<sup>H</sup>  
    オーバーフローテーブル<sup>K</sup> Q P  
    テーブル<sup>K</sup> W W  
    ポイント<sup>K</sup> W V  
    作成<sup>K</sup> W V  
    定義<sup>K</sup> P U O  
インタフェース<sup>L</sup> オプション<sup>K</sup> P U W  
インタフェースのオプション<sup>K</sup> P U W  
ウィザード<sup>K</sup> P V W  
オーバーフロー<sup>L</sup> テーブル<sup>K</sup> P 9  
カウンタ<sup>K</sup> P V W  
コンピュータ<sup>K</sup> U P  
    オーバーフローテーブル<sup>K</sup> Q O  
    モデル<sup>K</sup> U Q  
    属性<sup>K</sup> U P  
コンピュータのスキャン  
    <sup>G</sup>参考 h n f r \ s o o l s c e s k t o p c i s c o v e r y <sup>H</sup>  
    トリガ<sup>K</sup> V 9  
    使用可能な機能<sup>K</sup> V U  
    必要条件<sup>K</sup> V U  
コンピュータの標準セット<sup>K</sup> U S  
システムデータ<sup>K</sup> P W O <sup>K</sup> W Q  
システムデータの作成 ( オプション ) <sup>K</sup> W R <sup>K</sup>  
W Q

ソフトウェア<sup>K</sup> W P L P R R  
    <sup>G</sup>参考 インストール<sup>H</sup>  
    <sup>G</sup>参考 ソフトウェアライセンス<sup>H</sup>  
    <sup>G</sup>参考 ソフトウェア<sup>L</sup> 管理<sup>H</sup>  
        I c r o s o f t r e l e c t <sup>K</sup> P P Q  
    オーバーフローテーブル<sup>K</sup> Q P  
    テーブル<sup>K</sup> W R  
    概要<sup>K</sup> W R  
    管理<sup>L</sup> タイプ<sup>K</sup> W U  
    契約<sup>K</sup> P O O  
    実装<sup>K</sup> W Q  
    実用例<sup>K</sup> P O O  
ソフトウェアカウンタ <sup>G</sup>参考 ソフトウェア<sup>L</sup>  
管理<sup>H</sup>  
    定義<sup>K</sup> P U P  
ソフトウェアライセンス  
    <sup>G</sup>参考 ソフトウェア<sup>H</sup>  
    作成<sup>K</sup> W W  
    定義<sup>K</sup> P U O  
ソフトウェア<sup>L</sup> 管理<sup>K</sup> W 9  
    カウンタ  
        ウィザード<sup>K</sup> 9 T  
        テーブル<sup>K</sup> 9 O  
        旧モードカウンタ<sup>K</sup> 9 9  
        更新<sup>K</sup> 9 W  
        作成<sup>K</sup> 9 S  
        削除<sup>K</sup> 9 W  
        参照フィールド<sup>K</sup> 9 V  
    概要<sup>K</sup> W 9

特定資格  
   テーブルK Q0  
 ソフトウェア使用G参考 インストール済ソフト  
 ウェアH  
   定義K PU0  
 ソフトウェア資格G参考 ソフトウェアライセ  
 ンスH  
   タブK PUR  
   ツールK PUW  
   ツールバーK PUW  
   テーブルK PU9  
     オーバーフローテーブルK P9  
       定義K PTV  
     メインテーブルK PV  
       関係K PVQ  
 データベース  
   システムデータL インポートK WQ  
   準備K WQ  
   専門分野データL インポート  
     既存のデータベースK WQ  
     新しいデータベースK WQ  
   データベースの作成（オプション）K WR  
   データベース記述ファイルを開くL 新規デー  
   タベースの作成（オプション）K WR K WQ  
   データモデルK PW  
   トラッキングK PT9  
   トラッキングしないロットK SR  
     トラッキングするロットへの変換K ST  
     作成K SR  
     定義K PTW  
     非個別管理K PU  
     分割K SS  
   ビューK PWQ  
   プロジェクトK PSS  
     定義K PUP  
   ポートK UU  
     変更K VR  
   ポートフォリオ品目K QVLT9 K PV  
     G参考 トラッキングしないロットH  
     G参考 モデルH  
     G参考 ロットH  
     G参考 在庫H  
     G参考 資産H

G参考 属性H  
   オーバーフローテーブルK P9  
   コンテキスト情報の指定K TO K QQ  
   トラッキングK QQ  
   移動K TO  
   管理K PT  
     タイプK PT  
     一括管理K PU  
     個別管理K PU  
     非個別管理K PU  
   使用終了K TQ  
   値K PT  
   定義K PTU  
   予約K TP  
 マニュアルK PWQ  
 メニューK PUR  
 モデルK QT K PV  
   コンピュータK UQ  
   ポートフォリオ品目K RO  
   作成K RP  
   単位K RR  
   定義K PTU  
 ライセンス  
   G参考 ソフトウェアH  
   ライセンスまたは資格権限  
     定義K PU0  
   リストデータK PVT  
   リモートコントロール  
     G参考 qemote bontrolH  
     プロセスK VU  
     使用可能な機能K VR  
     必要条件K VR  
 レポートK PWP  
 ロット  
   一括管理K PU  
   作成K R9  
   単位K RR  
   定義K PTV  
   分割K S0  
   ロットの単位K RR  
   ロットの分割（ウィザード）K SP  
   割当K PU0  
   管理タイプK PT9

管理条件K PTW  
契約  
    G参考 ソフトウェアH  
    資産K TR  
    取得方法K SU  
減価償却K SV  
固定資産K SV  
在庫K TS  
    管理K TU  
    規則K TT  
    再発注依頼K TU  
    再発注制限のチェック L 頻度K TU  
    使用可能品目K TU  
    資産の予約K TQ  
    資産 L 在庫からの出庫K TW  
    定義K PT9  
    発注点 L 必要条件K TS  
    品目の追加K TV  
作業指示K PR9  
    サイクルK PSP  
    ステータスK PSQ  
    タイプK PSO  
    トラッキングK PSQ  
    管理K PSR  
    自動処理K PSQ  
作業順序 (フィールド) K PSO  
残存価額 (フィールド) K SW  
使用  
    G参考 ソフトウェアH  
資格  
    G参考 ソフトウェアH  
資産K RS K PV  
    G参考 コンピュータの標準セットH  
    オーバーフローテーブルK Q0  
    コストK SV  
    契約K TR  
    個別管理K PU  
    固定資産K SV  
    在庫K TW  
    財務情報のトラッキングK ST  
    取得契約K SU  
    取得方法K SU  
    定義K PTV  
資産のコストK SV  
自動処理K PWP  
書式K PWP  
消耗品K SS  
    定義K PTW  
数量K PU0  
接続K UT  
    コンピュータK UW  
    ポートK UU  
    管理K VP  
    作成K U9 K UV  
    削除K VQ  
        影響K VQ  
    数K VP  
    必要条件K UU  
専門分野データK PWO K WQ K WQ  
属性K QR K PV  
    コンピュータK UP  
    ポートフォリオ品目K QV  
    作成K QW K QS  
    定義K PTT  
    動作オプションK QT  
    例K Q9  
単位K RR  
    作成K RR  
    表示K RS  
調整K PSTLPTR  
    調整項目K PST  
    例K PS9  
調整項目  
    ターゲット項目K PST  
    フィールド調整をトリガするリンクK PS9  
    モデルK PSW  
    作成K PS9  
    使用K PSV  
    調整タイプK PSW  
電話機K PRTLPRW  
    オーバーフローテーブルK Q0  
    キーK PRV  
    テーブルK PRT  
    管理K PRU  
    機能K PRT  
        追加K PRV

作成K PRV  
 特殊フィールドK PVU  
 特定資格 G参考 ソフトウェア L管理H  
 定義K PUP  
 補足データのインポート (オプション) K WR  
 K WQ

## A

AohK PWQ  
 Assetbenter c\t\b\se Administr\tor  
 システムデータ L インポートK WQ  
 専門分野データ L インポート  
 既存のデータベースK WQ  
 新しいデータベースK WQ  
 Assetbenter rerver  
 コンピュータのスキャンK VW  
 モジュールK PV9  
 在庫K TT  
 Assetbenter L インストールK WR

## b

config (フォルダ) K WQ  
 bonnectLht  
 hc c\lochシナリオK V9  
 インストールK VW

## C

cesktop Administr\tion  
 G参考 コンピュータのスキャンH  
 cesktop hnventory  
 G参考 コンピュータのスキャンH

## f

gbb\sellxmIK WQ

## I

idd\clscnK V9  
 hnfr\sools cesktop ciscovery  
 G参考 コンピュータのスキャンH  
 ビューK V9  
 hsポートフォリオK UPLV9  
 G参考 コンピュータH

G参考 コンピュータのスキャンH  
 G参考 コンピュータの標準セットH  
 G参考 リモートコントロールH  
 G参考 接続H

## I

I icrosoft relectK PPQ

## O

pdi\clscnK V9

## R

remote bontrol  
 G参考 リモートコントロールH  
 アクションK VT  
 インストールK VS  
 エージェントモジュール  
 インストールK VS  
 導入K VT

## r

sc\n•RQllxeK VV  
 relectK PPQ



